

1 9 9 5

授業概要

【シラバス】

保育科

白梅学園短期大学

SHIRAZUME GAKUEN COLLEGE



授業概要（シラバス）について

シラバス（Syllabus）は授業計画、教授細目とも訳されます。このシラバス集には、本年度に保育科で開設される全ての授業科目について、その授業内容および授業の進め方が詳しく紹介されています。従来の講義要項より授業内容が詳しく説明されているので、学生の皆さんが必修科目を履修するときには、事前に授業内容を把握し、学習の準備をするのに役立つでしょう。また、選択科目を選ぶときには、皆さんが本当に学習を望む授業内容であるかどうかを判断する材料となるでしょう。

このシラバス集に記載された授業計画から授業の内容、進行を判断して計画的に学習目標を立ててください。また、授業進行の早い段階で不明な点を積極的に質問して、授業内容を正しく把握し、実り多い学習ができるよう、多いに活用してください。

目次（保育科）

教養教育科目（1年）

ヒューマンズ論	3
文学・フィクションと人間	4
王朝文学の世界	5
話し言葉の文芸	6
西洋文学	7
近代日本の歴史	8
西洋史概説	9
東洋美術	10・11
演劇論	12
現代社会論	13
現代家族論	14
日本国憲法	15
市民生活と法	16
政治学入門	17
生活の経済学	18
心理学入門	19
マスメッセージ論	20
現代社会と女性	21
自然科学史	22
生命の科学	23
生物と環境	24
生活の科学	25
健康の生理学	26
宇宙と地球	27
数の科学	28
情報処理入門	29
総合英語I	30～33
スポ-ツA(テニス)	34
スポ-ツA(エアロビクス)	35
スポ-ツA(卓球とバドミントン)	36
スポ-ツA(ハレボール)	37
スポ-ツB(キャップ)	38
スポ-ツ科学	39
健康科学	40

専門教育科目（1年）

社会福祉概論	43
児童福祉	44
保育原理I	45・46
教育原理	47・48

発達心理学	49
教育心理学	50
小児保健I	51
小児栄養	52
保育内容総論	53
健康(保健行動)	54
言葉I(言語行動)	55
乳児保育I	56
児童文化	57
音楽I(基礎理論)	58
音楽I(基礎技能)(ピアノ)	59
音楽I(基礎技能)(声楽)	60
図画工作I	61
ゼミナールI	62
幼稚園実習	63
実習指導	64
保育所実習I	65

一般教育科目(2年)

外国語科目(2年)

哲学	69
人間	70
英語II	71

専門教育科目(2年)

社会福祉方法論	75・76
保育原理II	77
養護原理I	78
養護原理II	79
臨床心理学	80
小児保健II	81
小児保健実習	82・83
小児栄養実習	84~86
精神保健	87
教育課程総論	88
人間関係(社会行動)	89
環境I(自然認識)	90~92
表現I(文化行動a)	93~94
表現I(文化行動b)	95
環境II	96・97
言葉II	98

表現Ⅱ(リズム)	99
表現Ⅱ(わらべうた)	100
表現Ⅱ(童謡)	101
表現Ⅱ(ダンス)	102
表現Ⅱ(ゲイ)	103
表現Ⅱ(劇)	104
保育計画法	105・106
乳児保育Ⅱ	107
養護内容	108
障害児保育	109
家庭管理	110
音楽Ⅰ(基礎技能)(ピアノ)	111
音楽Ⅰ(基礎技能)(声楽)	112
音楽Ⅱ(ビートルズ)	113
音楽Ⅱ(ギター)	114
音楽Ⅱ(うた)	115
図画工作Ⅱ	116
体育Ⅰ	117
体育Ⅱ	118
セミナー	119~136
幼稚園実習	137
実習指導	138
保育所実習Ⅱ	139
施設実習Ⅰ	140
施設実習Ⅱ	141

教養教育科目（1年）

【授業科目名】 ヒューマニズム論	【担当者】 田中未来・黒田 瑛
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 「ヒューマニズム」の理念について、その展開を述べ、つぎに現代社会の諸問題に対応するときの「ヒューマニズム」の視点を示す。またそれを現実に自らの生き方に反映させることについて学生とともに考える。「ヒューマニズム」は本学の建学の理念として、今日まで学園の教育を支えた思想である。	
【テキスト・参考書】 テキスト： な し 参考書： 随時紹介する。	
授 業 計 画	
<p>授業内容を以下のように構成する。</p> <p>第1部 ヒューマニズムの意義（2回） ヒューマニズムの語義 今、なぜヒューマニズムか 人間を考える 生命、精神、実存、統一体としての人間 人間の尊厳と価値</p> <p>第2部 ヒューマニズムの展開（4回） 1. 東洋と西洋 2. 「エロス」とヒューマニズム -ギリシャ思想- 3. 「アガペー」とヒューマニズム -キリスト教思想- 4. 「人間らしい文化」とヒューマニズム -ルネッサンス- 5. 「自由と人権」とヒューマニズム -啓蒙思想と市民革命および産業革命- 6. 人間の現実の生活の尊重 -プラグマティズム- 7. 「労働」とヒューマニズム -社会主義- 8. 「主体性」と「限界」 -実存主義-</p> <p>第3部 現代とヒューマニズム（4回） 1. 科学と技術 -自然、環境、倫理、労働、情報- 2. 組織と人間 -個と集団、自由と統制、社会制度、国家- 3. 大衆社会状況の広がり -没個性化、消費文化への志向、外部志向型の人間、操作・管理される社会- 4. 人権思想の発展 -障害者、高齢者、女性、子ども、少数民族- 5. 教育・福祉とヒューマニズム -生涯学習、発達権、教育を受ける権利、生存権、幸福追求権、ヴォランティア</p> <p>第4部 ヒューマニズムの課題（2回）</p> <p>授業を次のように分担してすすめる。 保育科1年生 - 田中（第1部、第2部、第4部） 黒田（第3部） 教養科および心理学科1年生 - 田中（第2部） 黒田（第1部、第3部、第4部）</p>	
【評価方法】 レポート提出	

【授業科目名】 文学・フィクションと人間	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】 文学作品に描かれた「世界」とは何なのか。それは先ず（少なくとも）、我々が生きているこの「現実」とは別の、「もう一つの世界」だろう。本講の目標は、この「もう一つの世界」としての「文学」(一般的には「芸術」)の構造を探りつつ、同時に、それとの関係の中で見えてくる「現実世界」の意味をも考えることにある。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>教科書は用いない。講義の中で指定する若干の小説を読むことが課題になる。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>○ 例えば「小説」に描かれたことは、要するにすべて「作り事」、つまり「フィクション・虚構・ウソッパチ」だ。しかし我々は、なぜワザワザこんな「作り事」を生み出し、求めて来たのか。なぜ、そんなウソッパチに感動したり、「生き方が変わってしまった」などという驚くべきことがおこるのか、という事を考えたい。</p> <p>これを考えることは、「文学」のみならず、「芸術」一般を考える出発点にもなるろうし、ひるがえって、(我々が生きている)この「現実」なるものの意味を考えることでもあろう(「現実」はなぜ「フィクションではない」などと言えるのか)。</p> <p>○ 講義は概ね、以下の三点をめぐって順次展開するはずである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① [フィクション論] ……「フィクション」とは何か、それと「現実」は、いかなる関係にあるか、という問題を軸に考える。 ② [文学作品における「方法」について] ……小説を中心に、「もう一つの世界」がどのような構造を持っているかを考える。 ③ [日常性と非日常性] ……ひるがえって、我々が「生きている」(と思っている)この「世界」のリアリティー(あるいは限界)について考える。 <p>○ 若干の課題作品(講義の中で指示する)を読むのは当然ながら、そのほかにも、講義でふれる作品を意欲的に読んで行くこと。</p> <p>「芸術と現実」に関する自分なりの問題意識を、可能な限り鋭く研ぎ澄ますこと。この二つの前提があれば、講義は決して「難解」ではない。</p>	
<p>【評価方法】 筆記試験(自筆ノート参照可)。講義に基づいて自ら考察しつつ論じる形式。講義をよく聞いて、しっかりノートを取っておくこと。課題作品に関する小テスト(1～2回)も加味する。「出席」のこと等は、最初の講義の時に述べる。</p>	

【授業科目名】 王朝文学の世界

【担当者】 佐々木 新太郎

【開講期】 1年後期

【授業目標】

平安時代において、貴族が求めた「みやび」を、作品の中の恋愛観と精神的美意識より見出すことを目標とする。

【テキスト・参考書】

田辺正男、宮城謙一、須田哲夫 共編

テキスト・ 校註「伊勢物語」 若樹出版

授 業 計 画

『伊勢物語』125段すべてを取り上げるべきであるが、その中よりいくつかの段を取り上げる。『伊勢物語』のモデルといわれる在原業平を中心とし、彼を取り巻く人々と、それらの人々の生きた時代の流れを把握し、『伊勢物語』における「みやび」を考察する。

【評価方法】

学年末試験の成績に、平常点を加算する。

【授業科目名】 話し言葉の文芸	【担当者】 東喜望
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】文字で表現された文芸が制作される以前に、口ことばでうたわれ、語られた文芸があった。かつて文字は、支配層のものであった。文字を知らない民衆の創造した謡や話は、あらゆる文芸の基礎を成している。ここでは、基層文化としての民間説話を、概論的に説明しながら、その伝承のコスモロジーに至りたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 1. テキストは使用しない。講義資料を配布する。2. 参考書 関敬吾編・岩波文庫、日本の昔はな(Ⅰ)「こぶとり爺さん、他」、(Ⅱ)「桃太郎、他」、(Ⅲ)「一寸法師、他」</p>	
授 業 計 画	
<p>講義は、およそ以下の項目にそって行なう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然と文化 2. ことばと文化 3. 文芸の起源 4. 口承文芸 5. 昔話の形態 6. 昔話のルーツ <桃の子太郎・浦島・炭焼長者など> 	
<p>【評価方法】 定期試験時に実施する筆記試験。</p>	

【授業科目名】 西洋文学	【担当者】 衣川 清子
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>女性作家によって書かれた19世紀および20世紀の西洋文学の小説（児童文学を含む）のいくつかに触れることによって、知識、視野、教養の幅を広げることを目標とします。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキストは特になし。参考書や資料は必要に応じて紹介します。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>この授業では19世紀および20世紀の西洋文学の小説（児童文学を含む）のうちから、女性作家によって書かれたいくつかの作品を選び、作者の横顔、作品が生まれた背景、作品の内容と特徴、その作品がどのように読まれてきたかなどを紹介し、一種の文学案内にしたいと思っています。</p> <p>毎回の授業で一つの作品を扱う予定です。取り上げる予定の小説は、シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』、L. M. モンゴメリー『赤毛のアン』、フィリップ・ピアス『トムの真夜中の庭』、マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』、アリス・ウォーカー『カラー・パープル』、エイミ・タン『ジョイ・ラック・クラブ』、イサベル・アジェンデ『精霊の家』などです（変更する場合があります）。音声や映像の資料がある場合はそれらも活用したいと思います。この機会にいろいろな小説を読みたいと思っている学生の聴講を期待します。授業の進め方やスケジュールなど、詳しくは初回の授業で説明します。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点とレポートの総合評価とします。授業の中で取り上げた作品またはその他の指定する作品の一つについて、「書評」（「感想文」ではなく）の形で期末レポートを書いていただきます。書き方については授業の中で説明します。</p>	

【授業科目名】 近代日本の歴史	【担当者】 平賀 明彦
【開講期】 1年前期・1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>歴史的なものの見方、考え方を身につけてもらうために、日本の近代史に題材をとりながら、時間的流れのなかで変化をとげていく社会を構造的にとらえていく方法について考えていきたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：特になし 参考図書：中村政則『日本近代と民衆』校倉書房</p>	
授 業 計 画	
<p>幕末の動乱を收拾し、列国の圧力に抗しながら、国内の産業の育成し富国強兵を実現しようとした明治政府は、その過程で色々なやり方で、地域を再編成し中央への求心力を高めようとした。その様子を下のようないくつかの側面からながめることにより、近代日本の基礎がどのように固められていったかを検討してみたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇明治維新政府をとりまく内外の状況 ◇内務省設置と地方制度の整備 ◇町と村の「文明開化」 ◇初期の教育政策と地域の学校 ◇初期の宗教政策と地域の寺・神社 ◇日清・日露戦争と地方の「改良」 ◇日本近代における中央と地方 	
<p>【評価方法】</p> <p>期末にレポートを課す。 講義の中で小レポートを出してもらうことがある。</p>	

【授業科目名】	西洋史概説	【担当者】	川鍋 光弘
---------	-------	-------	-------

【開講期】	1年後期
-------	------

【授業目標】 西洋近代の生み出した工業化社会・産業社会は人々に豊かな生活をもたらした反面、南北問題・民族問題・植民地問題など、世界の多くの地域に被害をあたえてきた。今や西洋内部においても民族格差の問題が表面化している。ここでは、西洋の歴史を他の地域との関連のなかで考えてゆきたい。

【テキスト・参考書】 テキスト 十分に使用せず、必要に応じて資料を配布する
 参考書 「地域からの世界史シリーズ」 第10巻 地中海、第11巻 ロシア連、第12巻 東ヨーロッパ
 (朝日新聞社編) 第13巻 西ヨーロッパ(上) 第14巻 西ヨーロッパ(下) 第15巻 北アメリカ

授 業 計 画

西洋の歴史を単に知識として理解するのみではなく、国際社会に生きる日本人として、各自が西洋の歴史をどう認識してゆくかが要求される時代となってきているので、学生自身がひとつの歴史的事実についてどう考えるかを重視する授業としたい。そのため、映像・画像・モノなどを取りあげながら、お互いの意見交換を重ぬつ、歴史認識を深めてゆく。さしあたり、次の諸テーマを考えているが、授業の進行によって変えることもある。また、全てのテーマを扱うともかぎらない。

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ① 世界史と西洋史 | ⑥ 絶対王政と西ヨーロッパの世界進出 |
| ② 日本人の“西洋”観 | ⑦ 市民革命と産業革命 |
| ③ ヨーロッパ世界の成立 | ⑧ 近代社会とナショナリズム |
| ④ キリスト教とイスラム教 | ⑨ 帝国主義と社会主義 |
| ⑤ ロマ・カトリック世界とビザンツ世界 | ⑩ ファシズムと人民戦線 |
| | ⑪ 東西冷戦とヨーロッパ統合 |

【評価方法】 ① 出席率
 ② 随時に行うアンケート・感想・意見などの提出状況を中心に評価する。

【授業科目名】 東洋美術	【担当者】 神道 明子
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>中国美術への理解を深めることにより、東洋の中の中国美術、延いては東洋の中の日本美術という視点を持つことに努める。また美術作品を通して、背景となる歴史・政治・文化の流れを考える力を養うことを目標とする。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>『中国美術史』 マイケル・サリバン著 新潮社 『中国美術史』 小杉一雄著 南雲堂 他</p>	
授 業 計 画	
<p>古代中国の美術は日本の美術に大きな影響を与えた。特に我が国の仏教美術は、中国・朝鮮の美術を理解することなしには語るができない。しかしその中国の仏教美術もまたインドからの外来文化である。これらのことを念頭に置き、前半は中国の何千年という歴史を支えた仏教以前の美術、主として都市や墳墓などの考古学的発掘の成果にみる美術を中心に話を進める。</p> <p>後半はインドから西域を通して中国へ伝わった仏教美術が、どのようにして展開してゆくのかを現在中国各地に残る石窟寺院の仏教彫刻を中心に、図やスライドを使って講義を進めてゆくことにする。展覧会などの見学も随時行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 彩陶・黒陶 (2) 殷・周・春秋戦国時代の美術 青銅器文化 (3) 秦始皇帝と兵馬俑坑 (4) 漢の明器と画像石 (5) 仏教伝来と初期の仏像 (6) 炳靈寺石窟と麦積山石窟 (7) 敦煌莫高窟の壁画と塑像 (8) 雲岡石窟 (9) 竜門石窟 (10) 隋・唐の仏教美術 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート 他</p>	

【授業科目名】 東洋美術	【担当者】 山田磯夫
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 性格の異なるいくつかの文化圏からなる東洋諸地域に於いて、仏教がどのように受容され、仏教美術がいかに形成されていったのか、こうした問いかけを常に持ちながら、東洋美術の特質を考える。	
【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書：授業中に随時紹介する	
授 業 計 画	
<p>一口に東洋といっても範囲が広く、各地域では相異なる文化圏に属し、それぞれ異なった美術様式を持っているため、これらを一元的に講義することは困難である。そこで本講座ではアジアの諸地域に強く影響を与えた仏教に焦点をあて、インドから中国・朝鮮半島、そして日本へと伝えられた仏教美術がそれぞれの地域で生み出した表現形式やモチーフを概観する。スライド使用。</p> <p>以下のテーマに沿って進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①はじめに一仏教とシルクロード ②インドの美術Ⅰ—釈尊の生涯 ③インドの美術Ⅱ—釈尊の前生 ④インドの美術Ⅲ—仏像の誕生 ⑤中国の美術Ⅰ—仏教の伝来 ⑥中国の美術Ⅱ—南北朝時代 ⑦中国の美術Ⅲ—石窟寺院 ⑧中国の美術Ⅳ—隋・唐時代 ⑨朝鮮半島の美術Ⅰ—三国時代 ⑩朝鮮半島の美術Ⅱ—統一新羅時代 ⑪日本の美術—仏教の伝来 	
【評価方法】 筆記試験	

【授業科目名】 演劇論	【担当者】 高橋秀雄
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 “人生は劇場なり”という言葉があり、演劇は宗教儀礼から発しているという説があるように、演劇は古くから生活の中の文化として成立してきている。この演劇についての考察を認め、とくに西洋と東洋、さらには日時との比較の中で演劇の特徴を深めさせる。	
【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書：各種演劇関係書（個別に指示する）	
授 業 計 画	
<p>洋と東西における演劇の特色を明らかにするとともに、演出・演技・舞台美術・照明・音響・衣裳などの演劇の基礎的表現を分析し、さらには西欧の諸演劇と日本の演劇を比較することによって、その多様性と特徴を理解する。各テーマについては数回の講義となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宗教儀礼と演劇 2. 悲劇と喜劇 3. 能と「花伝書」 4. 歌舞伎と「虚実皮膜論」 5. リアリズム演劇とスタニスラフスキー・システム 6. 歌舞伎と新劇 7. オペラとミュージカル 8. 比較演劇論 	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 各期末のレポート 2. 授業時の小レポート 3. 授業時の平常点 } 上記3項による総合評価	

【授業科目名】 現代社会論	【担当者】 民秋 言														
【開講期】 1年前期															
<p>【授業目標】</p> <p>現代日本社会は複雑な仕組みをもって高度に発達している。この社会を考えると、いろいろなアプローチがあるが、本講では社会学的な把握を試みる。人間の社会学理解からはじめる本講は、いずれ毎日、新聞やテレビに現れるテーマをとりあげ、それらがもつ課題を「人間らしく生きる」という観点からも整理する。</p>															
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>講義中に適宜指示する。</p>															
<p>授 業 計 画</p>															
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top; padding-right: 20px;">1. 「人間が生きる」ということ</td> <td style="vertical-align: top;">- 社会的存在としての人間を追求する。生物体のヒトから生活体の人間への変換点は何か。「人間らしく」生きる意味を考える。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding-right: 20px;">2. 人間の行動・行為</td> <td style="vertical-align: top;">- 人間の生活=生きるということは、行動（行為）の連続であり、したがって行動（行為）について説明する。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding-right: 20px;">3. 「人間らしく」生きることと欲求</td> <td style="vertical-align: top;">- われわれ人間にとって行動は欲求充足のためにとられる。しかし、欲求にはいろいろな次元からとらえられるべきであり、現代社会におけるわれわれの生き方と欲求のあり方について考える。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding-right: 20px;">4. 人間を特徴づけるパーソナリティ</td> <td style="vertical-align: top;">- 人間の行動を特徴づけるものとしてパーソナリティを位置づける。現代に生きるわれわれが、どのようにパーソナリティを形成していくか考える。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding-right: 20px;">5. 行動様式としての文化</td> <td style="vertical-align: top;">- とくに社会規範に注目する。複雑な社会に生きるわれわれにとって文化がもつ意味を考える。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding-right: 20px;">6. 集団生活のあり様</td> <td style="vertical-align: top;">- 人間はふつう重層的にいくつかの集団に属しているものであり、その一員としての生活を送る。集団がどのように個人の生き方を規制するか、一方で個人がどのように集団をつくっていくか考える。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding-right: 20px;">7. 現代日本社会の諸相</td> <td style="vertical-align: top;">- 現代日本を特徴づける社会変動について説明する。とりわけ都市化について述べる。</td> </tr> </table>		1. 「人間が生きる」ということ	- 社会的存在としての人間を追求する。生物体のヒトから生活体の人間への変換点は何か。「人間らしく」生きる意味を考える。	2. 人間の行動・行為	- 人間の生活=生きるということは、行動（行為）の連続であり、したがって行動（行為）について説明する。	3. 「人間らしく」生きることと欲求	- われわれ人間にとって行動は欲求充足のためにとられる。しかし、欲求にはいろいろな次元からとらえられるべきであり、現代社会におけるわれわれの生き方と欲求のあり方について考える。	4. 人間を特徴づけるパーソナリティ	- 人間の行動を特徴づけるものとしてパーソナリティを位置づける。現代に生きるわれわれが、どのようにパーソナリティを形成していくか考える。	5. 行動様式としての文化	- とくに社会規範に注目する。複雑な社会に生きるわれわれにとって文化がもつ意味を考える。	6. 集団生活のあり様	- 人間はふつう重層的にいくつかの集団に属しているものであり、その一員としての生活を送る。集団がどのように個人の生き方を規制するか、一方で個人がどのように集団をつくっていくか考える。	7. 現代日本社会の諸相	- 現代日本を特徴づける社会変動について説明する。とりわけ都市化について述べる。
1. 「人間が生きる」ということ	- 社会的存在としての人間を追求する。生物体のヒトから生活体の人間への変換点は何か。「人間らしく」生きる意味を考える。														
2. 人間の行動・行為	- 人間の生活=生きるということは、行動（行為）の連続であり、したがって行動（行為）について説明する。														
3. 「人間らしく」生きることと欲求	- われわれ人間にとって行動は欲求充足のためにとられる。しかし、欲求にはいろいろな次元からとらえられるべきであり、現代社会におけるわれわれの生き方と欲求のあり方について考える。														
4. 人間を特徴づけるパーソナリティ	- 人間の行動を特徴づけるものとしてパーソナリティを位置づける。現代に生きるわれわれが、どのようにパーソナリティを形成していくか考える。														
5. 行動様式としての文化	- とくに社会規範に注目する。複雑な社会に生きるわれわれにとって文化がもつ意味を考える。														
6. 集団生活のあり様	- 人間はふつう重層的にいくつかの集団に属しているものであり、その一員としての生活を送る。集団がどのように個人の生き方を規制するか、一方で個人がどのように集団をつくっていくか考える。														
7. 現代日本社会の諸相	- 現代日本を特徴づける社会変動について説明する。とりわけ都市化について述べる。														
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">ペーパーテスト</p>															

【授業科目名】 現代家族論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>人類の歴史と共に古い、といわれる家族。この家族は今日の社会において私達の生活とどうつながりをもっているか。今日、いろいろな角度から家族がテーマとされるが、本講では「福祉」の視点から考えてみる。福祉すなわち「人間としての幸せ」は家族とどうかかわっているか、が主たるテーマとなる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>望月 嵩、木村 汎共編 『現代家族の福祉－家族問題への対応』 培風館</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. 人間にとって家族とは何か</p> <p>2. 家族のはたらき</p> <p>3. 家族のタイプ</p> <p>4. 家族のしくみ</p> <p>5. 家族と福祉</p> <p>6. まとめ</p>	<p>－ 家族は人類の歴史と共に古い集団といわれる。つまりわれわれ人間にとって家族は必須のものであったし、今後もそうであろう。人間が生きることとの関わりで「家族」の定義をする。本講では家族を「福祉追求の集団」とする。</p> <p>－ 家族は基礎的集団といわれ、いろいろなはたらき（機能）を同時併行的にもつ。しかし今日の社会では、すべての機能が一律に求められているとは限らない。家族がもつどのような機能に注目すればよいか考える。</p> <p>－ 家族という集団を形成し、それを拠点として生活するとき、そこにはさまざまな家族のタイプが生ずる。また社会全体がもつきまりやルール（規範）によって家族のあり方も規制される。どのような家蔵のタイプが望ましいか、考える。</p> <p>－ 家族がもつ目標を達成するためにはそのしくみ（構造）が問題となる。役割構造と権威構造との2面から検討する。</p> <p>－ 家族は福祉追求の集団であるとするとき、そこにはいくつかの課題が生ずる。</p> <p>(1) 子どもの養育と家族福祉 (2) 母子家庭、父子家庭と家族福祉 (3) 高齢化社会における家族福祉</p> <p>－ 今後、家族を形成するものとして、望ましい家族福祉の姿を考えてみる。</p>
<p>【評価方法】</p> <p>ペーパーテストを期末に実施</p>	

【授業科目名】 日本国憲法	【担当者】 工藤 繁裕
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>日本国憲法の基本構造を理解し、法的・憲法的考え方を身につける。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：特に指定しない 参考文献：樋口陽一「憲法」（創文社） 野中・江橋編「憲法判例集」（有斐閣新書）</p>	
授 業 計 画	
<p>憲法の基本原則を中心に、判例も参照しながら、おおよそ以下の項目に沿って進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 憲法および日本国憲法 2 主権 3 国際社会と平和 4 人および市民の権利 (1) 古典的権利 5 同 (2) 現代的権利 6 同 (3) 市民の権利と義務 7 議会 8 内閣と行政 9 地方自治 10 裁判 	
【評価方法】	筆記試験

【授業科目名】 市民生活と法	【担当者】 工藤 繁裕
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>日常生活を法の間から眺め、同時に日常生活を規制しているこの法そのものについて考えることを通じて、法的な考え方を身につけることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト、参考書：考慮中</p>	
授 業 計 画	
<p>現代社会生活の一領域・一局面をピックアップし、一話完結の形で進める。各テーマでは、その実態・規範・判例を検討し、その問題点を考える。現在予定しているテーマは以下の通りであるが、ほかにも、女性、消費生活、差別、税金、高齢化社会、社会保障など、いわば無数にある。可能な限り、受講者の希望も取り入れて決めることとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生命と法 2 家族と法 3 教育と法 4 労働と法 5 情報と法 6 医療と法 7 犯罪と法 8 環境と法 9 地域社会と法 10 国際社会と法 	
【評価方法】	筆記試験

【授業科目名】 政治学入門

【担当者】 加地 直紀

【開講期】 1年前期

【授業目標】 政治とは ①利害の調整、②権力闘争であることを、政治制度、政治思想、国内外の政治の実態に関する解説をとおして理解していただくことを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト：中村勝範『正論自由』第11巻（慶應通信、平成11年）

授 業 計 画

政治とは、対立する国民の利害を調整することであり、また権力闘争である。したがって政治には、生身の人間の欲望が渦巻いており、倫理や道徳ではおきれない状態である。汚職政治家が有態な政治家でもある。という皮肉な面もある。この授業では、道徳ではおきれない政治のダイナミズムについて、具体的な出来事を通して解説する。

だいたい以下の手順で授業をすすめる。

- ① 政治制度の解説
- ② 政治思想の解説
- ③ 国内政治について
- ④ 国際政治について

【評価方法】 ①筆記試験またはレポート
②平常点（出席ではない、質問等）

【授業科目名】 生活の経済学	【担当者】 内山 哲朗
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>経済の基本的な仕組みを理解し、《生活と経済》の関連をめぐる基礎的な知識の習得をめざす。同時に、社会的な諸事象を《経済学的眼》で見る方法の重要性について学習する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：池上惇『経済学への招待』（有斐閣、1994年） 参考書：講義において適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>人間の《生活》の営みを《いのちとくらしの再生産》としてとらえ、《いのちとくらしの再生産》が「豊かになる」ということが本来的にどのような意味であるのかについて、以下のテーマを中心にしながら講義を進めていく。必要に応じて、ビデオによる学習も取り入れる予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人間の《生活》と欲求の発展段階 (2) 人間の欲求と市場経済 (3) 世界の経済体制 (4) 戦後日本経済と産業構造の変化 (5) 経済のサービス化・ソフト化 (6) 経済成長と企業社会 (7) 地球環境問題と経済構造の転換 (8) 世界経済のなかの日本 (9) アジア経済のなかの日本 (10) 《生活の豊かさ》と経済政策 	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末試験の成績と授業への出席等を勘案して総合的に評価する。</p>	

【授業科目名】 心理学入門	【担当者】 林 潔
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 保育の方法としての心理学について	
【テキスト・参考書】 テキスト：未定（別途連絡） 指定図書：図書館	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の流れについて 2. 人はなぜそのような行動をするのか――条件付け―― 3. 知覚と認知 ――行動の手がかりとしての認知―― 4. 意識を越えて――精神分析の考え方―― 5. 人間関係について考える 6. 子供の問題行動への取り組み 7. 生活における心理学 	
【評価方法】 平常点，中間試験，期末試験	

【授業科目名】 マスコミュニケーション概論

【担当者】 瀬木 博道

【開講期】 1年前期

【授業目標】 現代はマスコミ支配の時代ともいえる。
このマスコミを初歩から読み起こし、マスコミ、ジャーナリズム
の特質を解説し、社会に及ぼす影響について、考えられる
ようにして行きたい。

【テキスト・参考書】

瀬木博道・小倉重男共著 「コミュニケーションするPR」

電通出版事業部

授 業 計 画

- マスコミとは何か。その現状。(上)
- 同上 (下)
- 日本の新聞報道の問題点 — 外電を中心に
- 日本の新聞経営の問題点
- ジャーナリズムとは
- ジャーナリズムの文化的基盤
- 記者クラブの問題点
- 報道PR活動 — パブリシティと広告
- 言論の自由、知る権利
- 日米ジャーナリズムの比較考察
- テレビ報道の問題点
- マスコミのあす — 新聞を中心に

【評価方法】

【授業科目名】 現代社会と女性	【担当者】 富永静枝
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>男女共生社会に向けて、伝統的な性別役割分業を見直し、21世紀に生きる男女の望ましいあり方や、生き方を探る。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 テキスト:使用しない。</p> <p>参考書: 小松満喜子著 『私の女性学講義』ミネルヴァ書房 『婦人白書』婦人団体連合会編、ほるぷ出版</p>	
授 業 計 画	
<p>雇用機会均等法や育児休業法の導入など、女性をめぐる社会的状況は近年大きく変化した。一方、不況下における女子学生の厳しい就職差別などに見られるように、女性が社会に出てから一人の人間として、自立して主体的に生きることは相変わらず困難な状況にある。</p> <p>そこで変動する現代社会の諸問題、とりわけ家族、労働、教育、福祉の諸問題を女性の視点から考えてみることによって、現代の女性および男性がかかえている問題状況を明らかにし、21世紀に生きる男性と女性の望ましいあり方や社会システムについて考える。</p> <p>内容は</p> <p>(1)女性のライフサイクルの変化と性別役割分業、 (2)現代社会と女性労働 (3)高齢(化)社会と女性・家族・家庭 (4)男女共生社会に向けての世界の動き・日本の動き</p> <p>の4テーマとし、それぞれ2~3回講義する予定である。ただし学生の問題関心の寄せ方によってテーマ毎の講義回数は変更することもある。</p> <p>授業方法は講義だけでなく、ビデオや新聞記事情報なども活用し、意見発表や討論なども加える。また身近な問題なども取り上げることによって、それらの諸問題が学生自身の現在と将来における自分自身の問題でもあることを認識できるようにし、問題解決への意欲を持てるようにしたい。(なおこの授業科目は保育科と心理学科の学生を対象とした科目で、教養科の学生は専門科目の現代女性論でさらに詳しく論ずる予定なので教養科の学生はそちらを選択して下さい)</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末のレポートの他平常時にときどき実施するミニレポート。</p>	

【授業科目名】 自然科学史	【担当者】 柳下 登
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 人間は自然を理解すること無しには生活をしていけない。人間の生活に科学することの原点がある。人間は科学することで、自己を変革し、より人間らしい人間になって来た。科学することは真善美を追究する文化系の諸活動と同根である。ここでは人間を基軸に科学の足跡を追うことにする。	
【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書：サートン『科学史と新ヒューマニズム』岩波新書 シンガー『科学思想のあゆみ』岩波書店 ほか	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 科学を成り立たせた人間の条件 2) 道具の発見と人間 3) 火の発見と人間 4) 農耕のおこりと人間 5) 地動説と人間 6) ニュートン力学と人間 7) 波でもあり粒子でもある物質の発見と人間 8) 生命起源、生物進化と人間 9) 原子論から原子核の発見と人間 10) バイオサイエンスと人間 11) 現代宇宙論と人間 12) 世界最古の紙『パピルス』紙の作製実習 	
【評価方法】 レポートならびに受講態度	

【授業科目名】 生命の科学	【担当者】 吉川研二
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 生物学は人間が生きていく上で最も大切な基礎学問です。なぜならば私たちは多くの生物に依存して生命を維持しています。清浄な空気や水、土壌は生物たちの共同作業によって生み出され、食糧や医薬品、日用品など様々な資源として利用しています。一般には難しいといわれる生物学ですが、現代を生きる人間の必修教養として学んでほしい。	
【テキスト・参考書】 <p style="text-align: center;">プリント（複数の書籍を参考資料として使用する。）</p>	
授 業 計 画	
<p>地球上に生命が誕生してから35億年、多種多様な生物が登場し、繁栄し、消滅してきました。しかしながら、生命の設計図である遺伝子、すなわちDNAは生命の誕生から現在まで脈々と伝えられてきました。顕微鏡でしか見ることのできない微生物から巨大な生物であるシロナガスクジラやセコイアまで、その基本は同じです。基本は同じでも、生物を比べて見るとその形、生態、行動など一つとして同じものはありません。私たちが今見ている生物はそれぞれが進化し、生きてきた姿なのです。何故こんなにも多様な生物が存在するのでしょうか。</p> <p>エイズ、アレルギー、遺伝病、人口や資源、環境など生物学に関わる問題は山積みしています。生物学はまた日進月歩の学問です。農学、医学、薬学、栄養学、遺伝子工学、心理学など応用分野も多方面にわたっています。授業ではいくつかの生物学の話題を拾いながら、生命について、生命現象の謎について紹介していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生きているとは？ ・ 生命の起源 ・ DNA学 ・ 種とは何か ・ 性の誕生 ・ 病気と闘う ・ 環境問題 ・ 生命の共生 ・ バイオエシックス 	
【評価方法】 <p style="text-align: center;">レポート 筆記試験</p>	

【授業科目名】 生物と環境	【担当者】 小作明則
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 命を持つものは全て何らかの「環境」という枠のなかで生活しています。そこで本講では「生物と環境」がどのように影響しあうことで地球という星が成り立っているかを「ヒト」という特異な動物とのかかわりあいを含めて考えていく。	
【テキスト・参考書】 テキスト：採用なし	
授 業 計 画	
<p>全ての地球上の生物は必ず環境という枠の中で生れ、生活し、滅んでいきます。今日、地球上のあらゆる環境は「ヒト」の経済活動のために地球誕生50億年の間で最も激しく、そして経験したことのないかたちで環境条件が激変している時代に直面しています。このような状況の中で「生物と環境」の講義ではまず地球上で生活している生物がその生物を取り巻く環境とどのような関連をもって生活しているかについて概説し、次に生物を取り巻く環境の変化とその生物の対応について具体的かつ生態学的見地からの理解を深めます。そして最終的にヒトという動物の存在が地球環境にどのような歴史的かつ経済的背景をもって影響を及ぼしてきたかについて学んでもらいたいと考えています。以上述べたことは現在大きな問題と成っている種々の「地球環境問題」を理解し、それにたいして我々がどのような問題意識をもち、さらに具体的対応策を個人のレベルで立てていくことができるかを考える際の手引きになるよう構成するつもりです。</p> <p>講義の中ではできるだけ実物の生き物に接する機会を作り、疑似体験でわかない、直接体験の機会を多く持ちたいと思っています。</p>	
【評価方法】 ① 筆記試験 ② レポート	

【授業科目名】 生活の科学	【担当者】 滝沢 靖臣
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】 現代における私たちの生活の進展は大きく、衣食住並びに医薬品からコンピュータまで様々な物質に取り囲まれている。これらの物質を構成している分子や原子の世界に目を向けて、それらの特性を学ぶことにより、身近に起こっている科学的な現象を少しでもより正しく理解できるようになることを本講義の主眼としている。</p> <p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業の中で項目ごとに紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>物質の成り立ちを理解してから、それらの物質を通して私たちの身の回りの科学的現象が理解できるようにする。特に基礎知識がなくても理解できるように平易に解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活の中の物質科学を考えてみよう。 2. 身の回りにある水分子の世界を覗く。 3. 原子と分子と私たちの生活。 4. 原子はどのような構造をもっているのだろうか。 5. 物質をつくっている分子の構造は何によってきまるのだろうか。 6. 物質の状態は何によってきまるのだろうか。 7. 金属と超伝導とはどのような関係にあるのだろうか。 8. 酢は何故酸っぱく感じるのだろうか。 9. アルコールの正体は何であろうか。 10. 日焼けと日焼け止めと光化学反応。 11. 老化は防げるか。活性酸素の科学。 12. 物質科学とエネルギー 13. 物質科学からみた衣類。高分子化学の世界をみる。 14. 石油資源と石油化学を考える。 15. 科学は地球を救えるか。 	
【評価方法】 試験、レポート、出欠により評価する。	

【授業科目名】 健康の生理学	【担当者】 境 広志
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>より積極的・創造的で高度な健康を獲得するためには「自分の健康は自分で管理する」という意識を持つことが大切である。本講では、健康管理に必要な様々な知識を身につけ、それらを生活のなかで実践していくことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>《テキスト》 使用しない 《参考書》 参考図書・文献等は講義のなかで紹介していく</p>	
授 業 計 画	
<p>健康の生理学では、現代人の健康問題（成人病・AIDS・ストレス・栄養・環境問題・食品添加物…）についてを取り上げ、それらを通してより積極的・創造的で高度な健康を獲得するために必要な事項について考えていく。また、健康づくりのためにスポーツを日常生活のなかに取り入れていく場合、目的に応じてどのように実践していけば最大限の効果が得られるかについて最新の情報やデータを紹介しながら深く学習していく。主な内容は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)成人病の予防 (2)免疫とAIDS (3)長寿の科学 (4)子どもの健康とスポーツ (5)姿勢と健康 (6)健康づくりのためのスポーツ (7)スポーツ傷害と健康 (8)ストレス (9)食生活と健康 (10)食品の安全性 (11)環境問題と健康 	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①課題レポート ②授業時の感想文（不定期） 	

【授業科目名】 宇宙と地球	【担当者】 杉村 新
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】 ただ「眺めていれば」ロマンチックな星も、自然科学では物質とエネルギーの塊にすぎない。でも、あれは何だろうか と問いかけてみると、思いがけずロマンに遭遇するかもしれない。この授業では、主として地球について、特に神戸のような大地震がなぜ起こるのだろうかをどう考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 テキスト：「新訂地学図解」(オ一学習社) 参考書(指定図書)「図解地学ⅠA」(オ一学習社)</p>	
授 業 計 画	
<p>テキストは必ず持ってくること。講義中のおしゃべり厳禁。 毎回スライドを映しながら講義する。 授業はテキストの順序通りではない。順序未定。 内容の概要：身の回りの地学；天体の運行と人間生活； 資源と人間生活；地球の活動と災害； 地球と人間。</p>	
<p>【評価方法】 持込不可のテストで成績をつける。自然科学は暗記物ではないから、教科書のまる暗記はダメ。内容の理解の程度を判断して採点する。</p>	

【授業科目名】 数 の 科 学	【担当者】 人來院 ひさ子
【開講期】 1 年 前 期	
【授業目標】 日常の身の回りにあふれる情報について、その意味を考え正しく理解するために、 数学的に分析するさまざまな手法を学ぶ。	
【テキスト・参考書】 プリントを配布	
授 業 計 画	
<p>なるべく身近なデータを使ってそれらの意味するところを考えることから はじまって、広い視野で物事をとらえる視点を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 対数の意味と対数目盛によるデータの観察 累積値の見方 いろいろな統計的数値 箱ひげ図 ロジット変換 散布図と相関関係 乱数について 確率と確率分布 	
【評価方法】 期末にテストを行う	

【授業科目名】 情報処理入門	【担当者】 多喜乃 亮介																								
【開講期】 1年前期																									
<p>【授業目標】</p> <p>コンピュータが身近に利用できる環境になり、さまざまな「情報」をコンピュータに「記憶」させ、必要に応じて「利用」する時代になってきました。この授業ではコンピュータを単に「計算機」として使うだけでなく、身の回りの「情報」を上手に管理し、効率良く引き出す「道具」として利用できるための基礎技術と情報処理に共通する概念を身につけます。</p>																									
<p>【参考書】</p> <p>第1回目の講義の時間に指定します。 今年度使用するソフトウェアに適した参考書を指定します。</p>																									
授 業 計 画																									
<p>実際にコンピュータを操作して「情報処理」に関連する諸概念を習得します。</p> <p>そのためにはキーボードが楽に使えるようになる必要があります。すでにキーボードを楽に使える人もいるかもしれませんが、初めは体育のようにキーボードの練習を繰り返します。次に市販の「ソフトウェア」を用いて、「ファイル」、「再利用」、「再加工」、「くり返し処理」、「条件判断」、「検索」といった概念を理解します。</p> <p>文字情報については「ワープロソフト」を、数値情報については「表計算ソフト」を用いて練習します。</p> <p>以下の項目を予定しています。</p> <table border="0" data-bbox="113 1160 1362 1697"> <tr> <td>1. コンピュータの仕組み</td> <td>ハードウェアとソフトウェア</td> </tr> <tr> <td>2. コンピュータを動作させる</td> <td>機械の取り扱いかた、ディスクの初期化</td> </tr> <tr> <td>3. キーボードに慣れる</td> <td>アルファベット、かな、数字</td> </tr> <tr> <td>4. ワープロソフトを使う</td> <td>起動と終了、文字の入力</td> </tr> <tr> <td>5. ワープロソフトを使う</td> <td>ファイル <保存、読み込み></td> </tr> <tr> <td>6. ワープロソフトを使う</td> <td>登録、再利用 <ひな型、書式、辞書登録></td> </tr> <tr> <td>7. ワープロソフトを使う</td> <td>加工 <文字飾り、罫線、外字></td> </tr> <tr> <td>8. ワープロソフトを使う</td> <td>簡単なデータ管理 <住所録作成、検索、通知></td> </tr> <tr> <td>9. 表計算ソフトを使う</td> <td>簡単な計算処理 <合計、平均、再計算></td> </tr> <tr> <td>10. 表計算ソフトを使う</td> <td>結果の表示 <グラフ機能></td> </tr> <tr> <td>11. 表計算ソフトを使う</td> <td>簡単なデータ管理 <金銭出納帳作成、条件判断計算></td> </tr> <tr> <td>12. システム管理を知る</td> <td>ファイル構造、コピー、削除、環境設定</td> </tr> </table>		1. コンピュータの仕組み	ハードウェアとソフトウェア	2. コンピュータを動作させる	機械の取り扱いかた、ディスクの初期化	3. キーボードに慣れる	アルファベット、かな、数字	4. ワープロソフトを使う	起動と終了、文字の入力	5. ワープロソフトを使う	ファイル <保存、読み込み>	6. ワープロソフトを使う	登録、再利用 <ひな型、書式、辞書登録>	7. ワープロソフトを使う	加工 <文字飾り、罫線、外字>	8. ワープロソフトを使う	簡単なデータ管理 <住所録作成、検索、通知>	9. 表計算ソフトを使う	簡単な計算処理 <合計、平均、再計算>	10. 表計算ソフトを使う	結果の表示 <グラフ機能>	11. 表計算ソフトを使う	簡単なデータ管理 <金銭出納帳作成、条件判断計算>	12. システム管理を知る	ファイル構造、コピー、削除、環境設定
1. コンピュータの仕組み	ハードウェアとソフトウェア																								
2. コンピュータを動作させる	機械の取り扱いかた、ディスクの初期化																								
3. キーボードに慣れる	アルファベット、かな、数字																								
4. ワープロソフトを使う	起動と終了、文字の入力																								
5. ワープロソフトを使う	ファイル <保存、読み込み>																								
6. ワープロソフトを使う	登録、再利用 <ひな型、書式、辞書登録>																								
7. ワープロソフトを使う	加工 <文字飾り、罫線、外字>																								
8. ワープロソフトを使う	簡単なデータ管理 <住所録作成、検索、通知>																								
9. 表計算ソフトを使う	簡単な計算処理 <合計、平均、再計算>																								
10. 表計算ソフトを使う	結果の表示 <グラフ機能>																								
11. 表計算ソフトを使う	簡単なデータ管理 <金銭出納帳作成、条件判断計算>																								
12. システム管理を知る	ファイル構造、コピー、削除、環境設定																								
<p>【評価方法】</p> <p>授業中の操作と定期試験</p>																									

【授業科目名】 総合英語 I	【担当者】 磯山 澪一
【開講期】 1年前期・1年後期	
<p>【授業目標】 比較的やさしい英語の物語りなどを、たくさん読むことで、英語の文章を読む力と関心を高める。</p> <p>また、テキスト中の英文を例に、英語の文法・構文の基礎を復習する。復習した事項やテキスト中の構文や熟語などを活用して、自分や身のまわりのことなどを、英語で表現できるようにする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト プリントを配布</p>	
授 業 計 画	
<p>1回目 ～ 4回目 He Cannot Really Read by Mary Cockett 父親が字が読めないと知った少年のショックと、それをどのようにのり越えたか。</p> <p>5回目 ～ 7回目 No Safe Was Safe O. Henry's <u>A Retrieved Reformation</u> (adapted) たまたま金庫に閉じ込められてしまった少女を助けるか否か、という決断を迫られた青年の行動を通して、真の愛とは何かを考える。</p> <p>8回目 ～ 10回目 A Messenger Boy from William Saroyan's <u>Human Comedy</u> (adapted) 息子さんが戦死したという電報を、その母親にとどける臨時電報配達人の少年の体験を通して戦争について考える。</p> <p>11回目 ～ 14回目 日米若者「異」見 compiled by K. Mark and S. Isoyama いじめ、友情、勉強などについての日本人学生の手記とそれに対するアメリカ人高校生の意見をよみ、日米の考え方の異同について考える。</p> <p>15回目 ～ 20回目 Runaway Slave - the Story of Harriet Tubman - by Ann McGovern 奴隷解放のために一生を捧げたハリエット・タブマン夫人についてのやさしい伝記を読み、人の生き方について考える。</p> <p>21回目 ～ 25回目 Pieces of Advice from ANN LANDERS アン・ランダース夫人が回答するアメリカの人生相談で最も人気のあるコラムから、こどもや青年に関するものを読む。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験、小レポートを主に出席状況等を勘案して評価</p>	

【授業科目名】 総合英語 I	【担当者】 中島好伸
【開講期】 1年前期・1年後期	
<p>【授業目標】 平易な英文を数多く読み数多く聞くことで英語の構造をマスターし、総合的な英語力の向上を目指す。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 未定</p>	
授 業 計 画	
<p>言語は、音と文字とそれが表す意味内容から成り立っています。外国語をマスターすることはそれらを別々に学んで行くことではなく、それらの関係を学んで行くことです。この授業では、難しい英文を読むのではなく、平易な文章を繰り返し繰り返し読み、また聞くことで英語の構造をマスターしてしまおうとするものです。これはちょうど幼時が言語を習得することに似ているかも知れません。しかし、基礎こそが大切なのです。英語の基礎がものになれば、語彙を増やすことによって複雑な文章も難無くこなすことができるはずですから。</p> <p>もちろん、授業時間だけの学習では外国語をマスターすることはできません。家での学習、特に予習は絶対に必要です。次にやる場所は、必ず内容が分かるようにしておくこと。</p> <p>ほぼ毎時間、簡単な小テストを行います。</p>	
<p>【評価方法】 毎回行う小テストに出席を加味して評価します。</p>	

【授業科目名】 総合英語 I	【担当者】 中鉢 恵一
【開講期】 1年前期・1年後期	
【授業目標】 英語そのものを勉強するのではなく、英語で情報を得ることに主眼を置きます。又、英語文化圏の人々の物の考え方や習慣なども探って行きます。	
【テキスト・参考書】 <i>Insights for Today</i> (Newbury House)	
授 業 計 画	
<p>前期はリーディングのコツを習得することに目標をおく。 特に、パラグラフリーディング、スキミング、スキニング等、速読に欠かせない要素を中心にとめる。</p> <p>後期は、リーディングに加えて視聴覚的要素を取り入れる。TVコマーシャル、映画等の話しことばに焦点をあてりく。</p>	
【評価方法】 テスト及び平常点(レポート等)	

【授業科目名】 総合英語1	【担当者】 藤田久美子
【開講期】 1年前期・1年後期	
【授業目標】 フォークソング、ジャズなどのポップスを聞き、それぞれの歌の心に触れながら、言葉としての英語の美しさ、豊かさを理解し、また、その時代背景と精神とを理解して頂きたいと思う。	
【テキスト・参考書】 1) "Say It in Song" (James House他編 Macmillan Language House) 2) "Listening for Homestay" (染矢正一他編)	
授 業 計 画	
<p>言葉にはいろいろな形がある。英語というひとつの言葉であっても、会話、演劇、詩、歌等々、その表現される手段が異なると、全く違った光を放ち、又、響きを奏でる。</p> <p>その中でも、歌は、メロディやリズム等の要素が加わって、特別の雰囲気を作り上げているために、私たちにとって、とても近付きやすいものだと思う。</p> <p>そこで、このクラスでは、英語のヒット・ソングを聞き、又、皆さんと一緒に歌っていきながら、言葉としての英語の美しさ、意味深さを味わいたいと思う。</p> <p>毎回、一曲の歌を聞き、その歌のエピソードなどを読み、又、歌詞を聞き取る練習をし、内容について考えていく。</p> <p>時には、有名なミュージカル映画のさわりを、ビデオで鑑賞して、その中で歌われる曲の歌詞も紹介したいと思っている。</p> <p>又、クラスの、15～20分程を使って、リスニングの練習をする。いつも必ず、2冊のテキストを持ってきてほしい。</p>	
【評価方法】 学期末の大きなテストは、特にする予定はなく、毎回の授業で行う小テストの成績を含めた平常点で評価する。出席状態、授業への貢献度、それに、平常の小テストの結果を、だいたい同じ比重で考えて評価する。(特に、出席状態は、極めて大事なので、注意してほしい。)	

【授業科目名】 スポーツA (テニス)	【担当者】 池森 隆虎
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 ダブルス（硬式）のゲームをルールに則って楽しく行えるようになることを目標とする。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>基本動作の説明と技術練習 （フォアハンド・バックハンドのストローク及びボレー、サービス）</p> <p>ルール及び基本的作戦の説明と実践 （ゲーム進行、得点、審判法、ポジショニング）</p> <p>ゲームの実践 （能力クラス別にリーグ戦）</p>	
【評価方法】 出席を重視、その他として参加態度、習熟度、技術度、等を加点対象として考慮する。	

【授業科目名】 スポーツA (エアロビクス)	【担当者】 高野 牧子
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 「エアロビック・ダンス」を取り上げ、自分の身体を正しく認識し、各自のペースで楽しく効率的に、健康増進と体力増強をはかるとともに、生涯にわたって積極的に身体活動を行なう態度の育成を目標とする。さらに、ダンスの特性を活かし、自分の表現手段として動きの創造性を養っていく。	
【テキスト・参考書】 テキスト 使用しない 参考書 ケネス・H・クーバー、加藤橘夫監修『エアロビクス』ベースボール・マガジン社	
授 業 計 画	
<p>「エアロビクス」とは本来、アメリカのケネス・クーバー博士が提唱した有酸素運動によるトレーニング法であり、1970年代ダンスと結び付き、エアロビック・ダンスとして急速に展開した。心肺機能を高めるだけでなく、柔軟性や調整力を鍛える効果がある。授業では心拍数と運動強度を理解した上で、各自の目標心拍数を算出し、運動を行なっていく。またより効果を高める為に、単に動きを模倣するだけでなく、実際に動かしている自分の筋肉を知覚し、さらに自分の動きをVTRで見ることにより、自分の身体を正しく認識し、改善する様、努める。</p> <p>授業はリズムにのって楽しく動くことを基本に以下の様に進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「エアロビクス」の知識 心拍数と運動強度、目標心拍数など ②基本的なステップの習得 ③VTRによる基本的ステップの確認 ④応用ステップの習得 ⑤VTRによる応用ステップの確認 ⑥ステップの創作・練習 ⑦発表・VTR 	
【評価方法】	
<ol style="list-style-type: none"> ①平常点 (出席点及び活動態度・関心・意欲) を重視し、 ②実技発表点 を20点程度まで加算する。 	

【授業科目名】 スポーツA (卓球とバドミントン)

【担当者】 松岡 由紀子

【開講期】 1年後期

【授業目標】

- スポーツをやることにより運動不足を解消し、体力の保持増進を
ほかり、精神的ストレスを解放する。
- 運動技能と知識の習得及び態度の育成。

【テキスト・参考書】

授 業 計 画

卓球とバドミントン

◦ 卓球

技能練習とゲーム

- ① ボール慣れ
- ② 素振りと正しいフットワーク
- ③ フォアハンド打ち、バックショート、ツッツキの練習
- ④ どのコースでも打てるようになる
- ⑤ 正規のサービスを出せるようになる(変化サービスも)
- ⑥ 各種打法の練習
- ⑦ ゲームとルール、審判法

◦ バドミントン

技能練習とゲーム

- ① グリッドとシャトル慣れ
- ② ストロークの練習(オーバーヘッドストローク、スマッシュ、バックハンドストローク)
- ③ サービスの練習(ロングハイサービス、ショートサービス)
- ④ 集団技能の練習
- ⑤ ゲームとルール、審判法

【評価方法】

平常点とゲーム中に採点

【授業科目名】 スポーツA (バレーボール)	【担当者】 村田 務												
【開講期】 1年後期													
<p>【授業目標】</p> <p>バレーボールの技能及び体力の向上をめざすとともに、運動の習慣化をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人的技能及び集団的技能 ・ 技能の程度に応じた作戦 ・ 審判法及び指導法 													
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：前田 豊、バレーボール、旺文社。 豊田 博・古沢久雄、バレーボール入門教室、大修館。</p>													
授 業 計 画													
<p>科学技術の進歩や経済の成長、社会構造の変化に伴い、運動不足や食行動の偏り、精神的ストレスの増加など、健康に悪影響を及ぼす様々な問題が生じている。このような状況の中で、注目されているのが生涯体育（運動、スポーツ）である。適切な身体活動は、疾病の予防や健康増進に寄与するだけでなく、生き甲斐や自己の確立など質的な生活の向上を可能にする。</p> <p>授業では、これらの観点から、将来にわたってバレーボールが続けられるように、「楽しい授業」、「できるようになる授業」、「自ら創り出す授業」をめざす。</p> <p><u>学習内容</u></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">① 個人的技能</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ パスとトス ・ サーブとレシーブ ・ スパイクとブロッキング </td> </tr> <tr> <td>② 集団的技能</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 攻めのフォーメーション ・ 守りのフォーメーション </td> </tr> <tr> <td>③ 指導技術</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術指導法 ・ 体力トレーニング法 ・ 審判法 </td> </tr> </table> <p><u>授業の流れ</u></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">① 全体活動</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通課題の解決 </td> </tr> <tr> <td>② グループ活動</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別課題の解決 ・ 指導法、練習法の習得 </td> </tr> <tr> <td>③ ゲーム</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 練習成果の確認 ・ 新しい課題の発見 ・ 審判法の習得 </td> </tr> </table>		① 個人的技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ パスとトス ・ サーブとレシーブ ・ スパイクとブロッキング 	② 集団的技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 攻めのフォーメーション ・ 守りのフォーメーション 	③ 指導技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術指導法 ・ 体力トレーニング法 ・ 審判法 	① 全体活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通課題の解決 	② グループ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別課題の解決 ・ 指導法、練習法の習得 	③ ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習成果の確認 ・ 新しい課題の発見 ・ 審判法の習得
① 個人的技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ パスとトス ・ サーブとレシーブ ・ スパイクとブロッキング 												
② 集団的技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 攻めのフォーメーション ・ 守りのフォーメーション 												
③ 指導技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術指導法 ・ 体力トレーニング法 ・ 審判法 												
① 全体活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通課題の解決 												
② グループ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別課題の解決 ・ 指導法、練習法の習得 												
③ ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習成果の確認 ・ 新しい課題の発見 ・ 審判法の習得 												
<p>【評価方法】</p> <p>平常試験（平常点、実技等）</p>													

【授業科目名】 スポーツB (キャンプ)	【担当者】 村田 務
【開講期】 7月集中	
【授業目標】 自然環境の中での集団活動を通して、健康的な生活を営むための能力と態度を育てる。 ・ 野外活動に必要な知識と技能及び判断能力 ・ 健康的で強靱な「こころ」と「からだ」 ・ 自然を親しみ愛好する態度、野外活動への参加意欲	
【テキスト・参考書】 参考書：野外レク研究会、レクリエーションキャンプ、成美堂。 ：野外レク研究会、野外レクリエーション、成美堂。 ：山崎安治、登山、旺文社。	
授 業 計 画	
<p>生活の場から自然が失われ、自然との共存が課題となってきた今日、自然を活用した野外活動は、健康の増進やレクリエーションとしての効果が極めて大である。しかし、野外での活動は、さまざまな自然的環境の影響を受けやすく、事故災害にもつながりやすい特性を持っている。</p> <p>そこで、授業では、特に、野外活動における適切な判断能力の育成と将来に向けての意欲づくりに留意して実施したい。</p> <p>1、日 程 1995年7月12日(水) 9:00～12:00am 事前指導 26日(水)～29日(土) 野外活動 29日(土) 事後指導</p> <p>2、場 所 学内、「山のふるさと村キャンプ場」(東京都奥多摩町)</p> <p>3、参加者 学生28名、教員3名</p> <p>4、内 容 事前指導：運営組織・装備・食事等の理解と計画・準備 第1日目：テント設営、食事 第2日目：登山、食事 第3日目：ネイチャートレイル、キャンプファイアー、食事 第4日目：食事、テント撤収 事後指導：装備の点検・補修、反省評価</p> <p>5、費 用 約8,000円(食料費、交通費等)</p>	
【評価方法】 平常試験(平常点、実技等)	

【授業科目名】 スポーツ科学	【担当者】 岡田 光弘
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>スポーツを楽しむ 健やかな生活を学ぶためのスポーツ科学的教養を自ら学ぶこと</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テニス教本 (社) 日本プロテニス協会 編</p>	
授 業 計 画	
<p>1. スポーツ科学とスポーツ実践</p> <p>2. スポーツ科学と観客</p> <p>3. テニスについて (I)</p> <p>4. テニスについて (II)</p> <p>5. 武道について</p> <p>6. 芸能について</p> <p>7. サッカーのエスノメソロジー</p> <p>8. ヒーローインタビューの会話分析</p> <p>等主に 社会学的視点からスポーツ現象を扱う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>各回に提出するレポートをベースに知識、態度を評価する。</p>	

【授業科目名】 健康科学	【担当者】 三浦 侑二
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>個人の健康の達成には、地域、社会、また全地球的な環境の保全が関わっていることを認識し、各自の積極的な意識を養成する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「テキスト保健学－健康と環境の科学」 三浦侑二、中村泉 著 南山堂</p>	
授 業 計 画	
<p>健康と病気の考え方</p> <p>環境と生命の発生・進化</p> <p>生命の再生産：誕生と死</p> <p>青年と老年の健康：感染と老化</p> <p>微生物と健康：感染症と不顕性感染</p> <p>心の健康：性格と環境</p> <p>医療と予防の方針と技術</p> <p>地球環境の発生と環境の恒常性</p> <p>環境の病態：農業と公害</p> <p>都市における環境の調整</p> <p>環境による健康：地域と季節</p> <p>生物化学的環境：食料と栄養</p> <p>人類の進化と進化の流行</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート により評価</p>	

專門教育科目（1年）

【授業科目名】	社会福祉概論	【担当者】	都留 民子
---------	--------	-------	-------

【開講期】	1年前期
-------	------

【授業目標】	<p>社会福祉を社会の特定カテゴリーの人々への対策と狭く把握するのではなく、民主主義社会に不可欠の国民全てを対象とする生活保障システムであることを理解していく。その中で、何故、高齢者や児童、障害者等の諸施策や活動が重視されてきたか、重点的にとりあげなければならないかを学習していく。</p>
--------	---

【テキスト・参考書】	<p>端 知明 他 編著 「わかりやすい社会福祉学」</p>
------------	--------------------------------

授 業 計 画

「社会福祉とは何か」、ヨーロッパと日本の社会福祉の歴史をふまえ、社会科学（近代社会特有の生産や生活のあり方との関連で）に学習していく。救貧制度、相互扶助・共済、社会保険、社会保障・社会福祉への発展過程を理解したうえで、そして所得保障（現金給付）と人的なサービスのそれぞれの役割を明確にしていく。児童、障害者、高齢者と領域別の諸問題とその施策、活動をとりあげるとともに、その共通土台である生活問題、「貧困」とその対策を学習の出発点とする。また、社会福祉の方法（専門援助技術）の独自の役割について基礎的理解をすすめる、2年次の社会福祉方法論に繋げる。

- 1部 社会福祉の概念
 - 1章 社会保障における社会福祉
 - 1節 社会保険と社会福祉
 - 2節 扶助と社会福祉
 - 2章 社会福祉の歴史
 - 1節 イギリスの事例
 - 2節 日本の事例
 - －日本の貧困とその対策の変遷
- 2部 日本の社会福祉の組織と体系
 - 1章 社会福祉の法体系
 - 2章 社会福祉の行政組織
 - 3章 わが国の社会福祉の諸領域
 - 1節 公的扶助－生活保護制度
 - 2節 今日の児童・家族問題と児童福祉、母子福祉
 - 3節 今日の障害者問題と障害者福祉
 - 1項 資本制社会における障害者
 - 2項 障害の概念
 - 3項 障害者教育、障害者雇用などの関連施策と社会福祉
 - 4節 今日の高齢者問題と高齢者問題
 - 1項 資本制と高齢者問題
 - 2項 わが国の高齢者と高齢対策
 - －雇用、年金、医療、社会福祉サービス
- 3部 社会福祉の専門的援助技術（ソーシャルワーク）
 - ケースワーク
 - グループワーク
 - コミュニティワーク

【評価方法】	筆記試験
--------	------

【授業科目名】 児童福祉	【担当者】 浅井春夫
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 ① 児童福祉のしくみに関する基本的な理解 ② 児童問題の現状と制度的対応策を学ぶ ③ 児童福祉の動向と展望を探る	
【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書：浅井春夫「子ども虐待と性教育」（大修館書店）	
授 業 計 画	
(1) 「児童福祉」で何を学ぶか 児童福祉とは何か、子どもの現状、子どもの権利の点検 (2) 児童問題（対象論）－(a)子ども虐待 子ども虐待の現状、発生の背景、ケアのあり方 (3) 児童問題（対象論）－(b)養護・保育問題 「養護を要する」「保育に欠ける」とは (4) 児童問題（対象論）－(c)障害問題 障害の種類、障害と医療・福祉・教育 (5) 児童福祉とセクシュアリティ 科学と人権、自立と共生の人間像と性教育 (6) 児童問題をめぐる家族と地域社会 現代家族の特徴と地域社会の変容 (7) 児童福祉の歴史――戦後史を中心に―― 児童福祉の歩みのなかで獲得してきたもの (8) 児童福祉の法体系 児童福祉法、子どもの権利条約の理解 (9) 児童福祉の機関と施設 児童相談所、施設の種類と機能の概説 (10) 児童福祉を担う人々と現代の保母像 児童福祉の仕事とは－目的、位置、現実－ (11) 「児童福祉改革」の課題と展望 保育制度改革、子育て支援策の展開と課題	
【評価方法】 定期試験のみ	

【授業科目名】 保育原理Ⅰ	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 1. 「保育とは何か」ということの基本を理解する。 2. 保育は重要な仕事であり、やり甲斐があるということを理解する。	
【テキスト・参考書】 『 新保育原理 』 岡本富郎 他著 （萌文書林）	
授 業 計 画	
1. 講義の目的と内容について紹介する。 2. 保育とは何か。（子どもの生活の現実について） 3. 保育とは何か。（子ども観とは何か。子どもはどういう存在か） 4. 保育とは何か。（保育の意義について） 5. 幼稚園について。（学校教育法「幼稚園教育要領」） 6. 幼稚園について。（現状と課題） 7. 幼稚園の歴史。（ヨーロッパと日本） 8. 保育所について。（児童福祉法「保育所保育指針」） 9. 保育所について。（多様な保育ニーズ・保育所の現状と課題） 10. 保育所の歴史。（ヨーロッパと日本） 11. 保育者について。（保育者になるために）	
【評価方法】	

【授業科目名】 保育原理Ⅰ	【担当者】 西ノ内多恵
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 <p>学生各自の保育観の具体化の一助となるよう、保育の原理及び方法についての基礎的な理解を得ることをねらいとする。</p>	
【テキスト・参考書】 <p>岡本富郎 他著 「新保育原理」 萌文書林</p>	
授 業 計 画	
<p>ひとくちに保育観といっても、それは短時日に形成されるものではなく、保育の理念と実践の関係の中で、絶えざる模索と修正を行いつつ形成されるものである。</p> <p>ここでは保育実習Ⅰでの学生の体験を生かせるよう、保育についての基本的な視点を事例に即して示していきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育観について 2. 保育者の条件 3. 愛と受容の原理 4. 保育日課の意義と内容 5. 子どもの生活と生活習慣 6. 遊びと人格形成 7. 保育における個と集団の考え方 8. 子どもへの接し方 9. 保育環境の物的条件 	
【評価方法】 <p>レポート ・ 平常点</p>	

【授業科目名】 教 育 原 理	【担当者】 黒 田 瑛
【開講期】 1 年前期	
【授業目標】 「教育」の意味についての理解を深め、わが国の教育の歴史と今日の教育の基底にある思想を学ばせることにより、学生が将来の保育者、親、市民としてこれからの教育のあり方について考える力を養うことを目標とする。	
【テキスト・参考書】 テキスト：「教育原理」（北大路書房 秋山和夫他編）	
授 業 計 画	
<p>講義の中心となる主な事項は下記の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の教育の現状と問題 2. 人間と教育 3. 教育の意味と目的 4. 教育の場 - 家庭、園、学校、社会 5. わが国の教育の歴史（主として明治以降） 6. 同 上 7. 第二次世界大戦後の教育の歴史 8. 教育基本法の成立とその思想 9. 学校教育法、同施行規則、学習指導要領 10. 幼稚園教育要領 11. まとめ 	
【評価方法】 学期末に筆記試験を行う	

【授業科目名】 教 育 原 理	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 <ul style="list-style-type: none"> •教育が行われてきた背景にある「教育思想」を理解し、自分の在り方に役立てる。 •教育課程に関連する内容を理解し、教育の真の在り方を探究する。 	
【テキスト・参考書】 テキスト：「教育原理」（北大路書房 秋山和夫他編）	
授 業 計 画	
<p>世界に影響を与えた教育思想家をとり上げその思想と実践の概略を話す。また、現在の教育内容としての「教育課程」（カリキュラム）の類型を紹介し、生活指導の今日的課題等をも話す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育思想とは何か — 教育思想の流れ。 2. ルソーの教育思想。 3. ペスタロッチーの生涯と教育思想。 4. フレーベルの生涯と教育思想。（幼稚園創設をめぐって） 5. オーエンの生涯と教育思想。（保育所創設をめぐって） 6. 教育思想と教育実践と「私」との関係。 7. 教育内容とは何か。教育課程の意味と必要性。 8. 教育課程の類型と幼児教育。 9. 生活指導の内容と方法 — 幼児教育との関連を考える — 10. 教師・保育者の在り方。 	
【評価方法】 試 験	

【授業科目名】 発達心理学	【担当者】小松 歩
【開講期】 1年前期・1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保母・幼稚園教諭をめざす者として必要な「発達」に関する基礎知識を学び、個々の子どもが発達する姿を正しく捉えることができるようにする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：使用しない</p> <p>参考書：授業のなかで紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>「子どもが好きだから」、という理由だけで保育をすることはできない。多くの学生が初めて学ぶであろう「発達心理学」は、これから子どもを育て、関わっていく上でもっとも重要な基礎的科目の一つといえる。</p> <p>人は生まれてから死に至る生活の全過程で、周囲の環境や人との関係を通して、その可能性を実現していく。この過程で生じる変化を発達と呼ぶ。この変化の特徴は子どもの年齢によって異なるので、保育者には、その特徴を見定め、適した関わり方をすることが求められる。</p> <p>本講義では、とくに乳幼児期・児童期・青年期の発達の基本的特徴とそれをもたらす要因について概説し、各時期の発達を援助する方法を心理学的観点から探る。ビデオ教材なども利用し、子どもたちの具体的な姿も参考にしながら、個々の子どもが発達していく姿を正しく理解できるような講義にしたい。</p> <p>およそ、以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「発達」とは何か、発達心理学を学ぶことにどんな意味があるか？ ②乳児期・幼児期・児童期の子どもの心理的な特徴と発達の变化 ③幼児期における認知能力の特徴と発達の变化 ④青年期・老年期の特徴と発達の变化 ⑤遊びの発達とその意味 ⑥ことばの発達 ⑦対人関係の発達 ⑧自己認識の発達 ⑨発達と不適応 ⑩発達評価 	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①定期試験 ②授業時の感想文（不定期） 	

【授業科目名】 教育心理学	【担当者】 高橋まゆみ
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 子どもがいかに関心（学習）いかに人格的発達をするかについて基本的な理解を深め、保育・教育実践の中でよりよい育ちを促すための援助・指導のあり方を考えることを目標にする。	
【テキスト・参考書】 参考書 東洋・柏木恵子編著「教育の心理学」	
授 業 計 画	
<p>人間は社会的存在であり、環境との相互作用の中での学習によってその発達をとげる。教育・保育の実践は、この交互作用がよりよく実現するように行う働きかけつまり援助や指導でもある。本講義では、子どものよりよい発達を促すために保育者に求められている援助のあり方を考えていく。子どもの発達としては、個性化をめぐる問題と社会化をめぐる問題がある。前者については特に、子どもが「わかる」ということをどのように獲得し生活への認識を広げていくかについて、認知発達、学習、知能の発達の側面からとらえ、それに対する保育者の援助のあり方や保育実践について考える。また、後者の社会化については、主に集団における仲間関係の形成からとらえ、よりよい集団をつくる援助や実践はどのように進められるかを考える。また、実践に関わる問題として発達評価の問題や集団のなかで特に援助の必要な子どもたちへの理解、あるいは早期教育など現代の教育的問題についても適宜取り上げ討論の場としたい。</p> <p>主に、以下のような項目で進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教育・保育における援助とは－教育心理学的視点 ② 環境と人間形成－「発達可能性」をめぐって ③ 認知の発達と学習－子どもが「わかる」ということ ④ 動機とは－意欲と自主性の発達とその援助 ⑤ 仲間とともに－集団における人間関係とその援助 ⑥ 教育・発達評価とは－発達評価と保育実践評価 ⑦ 保育者の役割と援助について考える ⑧ 発達に遅れを持つ子どもたちの理解とその援助 	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> ① 平常授業のなかで整理テストを適宜行う。 ② 期末試験 	

【授業科目名】 小児保健 I	【担当者】 樋田 豊治
【開講期】 1 年前期・1 年後期	
<p>【授業目標】 小児保健は保育の基礎である。保母は健康に成長する子の知識（生理、発達、栄養、精神衛生）を学ぶと共に、病気の知識（子どもがかかりやすい病気の症状と手当の方法）、障害を持つ子どもの保育についての知識を身につけておかなければならない。</p> <p>私は障害児施設の医師及び保育園医として、保母と共に仕事をしているので、その経験をもとに講義をする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 二木 武 編 小児保健 I 医歯薬出版 （図書館にあり）</p>	
授 業 計 画	
<p>I 生理学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期の分類・小児の特徴 2. 胎児、新生児の生理 3. 心臓と血管、水代謝 4. 肺・肝臓・腎臓の構造と機能 5. 脳と神経 6. 身体発達と運動発達 7. 精神発達 8. 老化と死 <p>II 病理学</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 薬の作用と副作用 10. ウイルスと細菌 抗生物質 11. 症状と治療：カゼ 発熱 セキ 嘔吐 下痢 便秘 腹痛 ひきつけ 12. } 13. } 14. 主な病気の症状 先天異常 15. 伝染病の種類と予防注射 16. 下痢を伴う伝染病 17. 発疹を伴う伝染病 18. 慢性伝染病 性病とエイズ 19. ウイルス肝炎 20. 精神病と自閉症 21. 心身症と心理治療 22. アレルギー病 23. 心身障害児保育上の問題点 24. 応急手当 乳幼児突然死症候群 	
<p>【評価方法】</p> <p>ペーパーテスト</p>	

【授業科目名】 小児栄養	【担当者】 北 郁子
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>成長期の小児が、健康で正常な発育をとげるために欠くことのできないものが栄養である。発育段階に応じて適切な栄養素を含む食事内容、及び人間らしい食行動がとれる食習慣を育てる基礎的な栄養の知識を理解させることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト： 小児栄養 （二木 武，北 郁子，高野 陽，水野 清子，著） 医歯薬出版株式会社</p>	
授 業 計 画	
<p>細胞学からみた、生命と発育の考え方から、栄養素の働きに重点をおき、各栄養素の生理機能の独自性と有機的なつながりを理解させる。また各栄養素を含むたべものと日本人の食事様式の関係にふれ、日常の食生活を意識的に考えさせる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小児期栄養の重要性と特性 2 発達栄養生理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 摂食機能の発達 (2) 消化・吸収の生理 (3) 排泄のからだのしくみ 3 小児の栄養代謝とたべもの <ol style="list-style-type: none"> (1) 栄養素の分類 (2) 栄養素の機能と小児期代謝とたべもの関係 4 非栄養素と生体機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 食物繊維と健康 (2) 食品中の非栄養成分の活性発現と栄養条件 (3) 食品添加物、農薬等の生化学物質と生体汚染 5 小児の栄養所要量と食品構成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 小児の栄養所要量の見方と考え方 (2) 栄養所要量の個人化 6 保育所、保育指針にみる食事の考え方と問題点 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">筆 記 試 験</p>	

【授業科目名】 保育内容総論	【担当者】 近藤 正樹 八木 絃一郎 小松 歩
【開講期】 1年前期 ・ 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この科目は、1年前期に集中して（演習が9月）位置していることから、入学間もない保育学生が、いずれ専門的各論を学ぶ前に、イントロダクションとして「子ども及び保育」を学ぶことに関心をより広げより深める動機づけとなることを目標に開講している。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「保育内容総論」大場牧夫・民秋 言ほか／萌文書林</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>この授業は、保育理解を多角的にガイドするために、自然科学の分野・表現の分野・発達心理の分野から、それぞれ一人ずつ計3人の教員によって進められる。</p> <p>■講義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめにーこの科目の方針ー他の科目とのつながりを知るー (八木他) 3人の教員による合同授業 2. 保育を捉えるー自分の身近なところの保育現象ー (八木) 3. 子どもの情況ーどう変わっているかー (八木) 4. 子どもと保育者ー大人・保育者の役割ー 5. 子どもの行動ー行動類型と特性ー① 6. 子どもの行動ー行動類型と特性ー② 7. 子どもの行動助成ー保育援助の内容と方法ー① 8. ② 9. ③ 10. まとめ・3人の教員の合同授業 演習のオリエンテーション (八木他) <p>■演習</p> <p>実際に保育現場で繰り広げられる子どもの活動や保育や環境を事例にして、グループで推論・観察・考察を実施する。1単位分を集中演習形式で学修する。</p> <p>第1日：学内での講義と演習 第2日：幼稚園か保育園を選択して演習 第3日：同 上 第4日：学内で考察・まとめを行なう</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>通常 平常点</p>	

【授業科目名】 健康（保健行動）	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの健康を守り育てるために必要な能力と態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康問題について ・子どもの保健管理について ・子どもへの保健教育について 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：米谷光弘編著、幼児教育 健康、保育出版社、1995年。 参考書：教養系大学保健協議会編、学校保健ハンドブック、ぎょうせい、1992年。 ：東社協保健部会編、保健活動マニュアル、東京都社会福祉協議会、1990年。</p>	
授 業 計 画	
<p>幼稚園や保育所で指導展開される「健康」領域のうち保健分野を取り扱う。授業では、「どのようにすれば、子どもの健康を守り育てることができるか」を課題として、その基礎的な知識と技能について学ぶ。</p> <p>主な学習内容は、①健康論（今日の健康問題と子どもの健康）、②保健行動論（様々な保健行動とその背景）、③保健教材論、保健指導技術論、及び④保健管理論である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、健康保育者の資質と子どもの健康問題 2、健康観の推移と健康の成立要因 3、健康に関わる子どもの発育・発達の特性 4、子どもの健康に関わる環境的特性 5、健康行動科学の考え方 6、学校（保育施設）における保健活動 7、学校（保育施設）における保健管理 8、保健管理の実習 9、学校（保育施設）における保健教育 10、保健教育における教育内容、教材及び教授行為 11、保健の授業づくり実習Ⅰ 12、保健の授業づくり実習Ⅱ（模擬授業を含む） 	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験（ペーパーテスト）及び平常試験（レポート、平常点）</p>	

【授業科目名】 言葉I(言語行動)	【担当者】 佐々 加代子
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 人間と言語との関係をおさえたとき、保育において「ことば」の領域だけを論じていくと狭い。言語の諸側面について、学生自身の言語能力にも目を向けながら、保育における、保育者と子ども(たち)との間柄の質的転換を考える。思考は行動に現れる、としてとらえていくことにする。子ども、保育者、自分、保育活動、の組み合わせで考える。それぞれの間に、媒介役として機能する、教材についても検討する。	
【テキスト・参考書】 保育者養成のための言語、1995年版(私製)。その他随時提示する。	
授 業 計 画	
<p>講義を主体としながら、ミニ演習(宿題を含む)、演習(レポート課題3含む)を組み合わせながら構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と言語；言語の定義、機能 2. ことばとキャッチボール 3. コミュニケーションの基本的過程 4. 日本語の特徴、敬語 5. 言語発達の標準像(0～6歳まで) 6. 文字学習能力の発達 7. 言語発達に関連する人間関係の要因 8. 言語指導の実際；言語の生活化、教材(絵本、紙芝居、ことば遊び、パネルシアター、素話、ペープサート、人形、視聴覚教材、手遊びなど) 9. 障害児の言語指導；発達の遅れ、自閉症、情緒障害、聾・難聴、口蓋裂、脳性マヒ、どもり、吃音、失語症 10. よくひびく、よくとおる、きれいな音⁴⁾の表現法 11. 演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳幼児の行動観察記録(レポート) 2) 日案(レポート) 3) 日案からの主活動の展開；保育者としての保育場面の疑似体験、2回 4) 発達助成論 12. 保育者養成における“言語”教育 13. 研究法 	
【評価方法】 出席点、平常点(ミニ演習)、レポート3、テストによって行う	

【授業科目名】 乳児保育Ⅰ	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 <p>乳児保育の現状を概観し、乳児保育の基本についての理解を深めることを目標とする。</p>	
【テキスト・参考書】 <p>テキスト 乳児保育研究会編 『資料でわかる乳児の保育新時代』 (ひとなる書房)</p>	
授 業 計 画	
<p>乳児保育は、保育の基盤・原点である。乳児期は、人間の一生のスタートであり、発達重要な時期であるが、乳児保育は、親子の保育園生活の始まりでもある。今日では、乳児保育も普及しつつあるが、今なお「3歳までは母親の手で」という考え方も根強く存在する。また、親の労働実態の変化、家庭の変貌の中で様々な問題が乳児保育に集中的に表れることにもなっている。これらの点を、およそ以下の項目にそって検討するなかで深めていきたい。</p> <p>(1)乳児期の子どもの発達と保育 (2)乳児保育の内容と方法 (3)乳児保育をめぐる思想・理論的問題 (4)乳児保育の歩みと現状、課題</p>	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 授業時の感想・レポート（不定期） 	

【授業科目名】	児童文化	【担当者】	志摩 弘
【開講期】	1年前期・1年後期		
【授業目標】	<p> 子どもの成長・発達には、その種類、その育ち、その環境、その経験、その学習、その社会的によつて、それぞれ異なる影響を受ける。そのなかで、児童文化の重要性は、児童の発達に与える影響の大きさから見て、ますます重要である。 </p>		
【テキスト・参考書】	テキストは使用しない。参考書は授業で紹介する。		
授 業 計 画			
<p>① 児童文化とは何か。</p> <p>② 児童文化の内容。</p> <p>「伝承文芸」</p> <p>「児童文学」</p> <p>「絵 本」</p> <p>「紙 芝 居」</p> <p>「人 形 劇」</p> <p>「玩 具」</p> <p>「児童演劇」</p> <p>「子どもへの話」</p> <p>③ 児童文化の本質。</p> <p>④ 児童文化の領域とその周辺。</p> <p>「児童文化組織」</p> <p>「児童文化施設」</p> <p>「児童文化政策」</p> <p>⑤ 児童文化の諸問題。</p>	<p>・子どもの発達と児童文化。</p> <p>・児童文化の現状理解。</p> <p>・神話、伝説、昔話、説話、寓話ほか。</p> <p>・発生の背景と何を語りたかったのか、伝承の意味と内容。</p> <p>・児童文学のあゆみ。</p> <p>・とくくろに再話の問題。</p> <p>・絵本に在る絵本の質、と、できないこと。</p> <p>・紙芝居の構成（演技）。</p> <p>・いろいろな人形劇。</p> <p>・保育者の人形劇演出。</p> <p>・脚本、操作用の演出。</p> <p>・いろいろな玩具の発生。</p> <p>・伝承玩具について。</p> <p>・玩具の安全性。</p> <p>・児童演劇の出来まで。</p> <p>・児童劇の脚本演出。</p> <p>・「子どもへの話」</p> <p>・正しい日本語。</p> <p>・「読む」と「話す」こと。</p> <p>・児童の主体性、向上性、普遍性、自由性等の視点から児童文化の本質を考える。</p> <p>・子ども会、少年団。その現状と問題点。</p> <p>・児童文化センター。</p> <p>・児童図書施設（図書館）</p> <p>・児童公園</p> <p>・児童館</p> <p>・学童保育所（学童クラブ）。</p> <p>・児童文化政策とは何か。</p> <p>・子どもの文化接触の問題だけでなく、遊び場の問題、塾の問題、子どもの事故の問題、平和を守るということ。児童文化のかかえる問題は多い。</p>		
【評価方法】	1年後期（学年末）に、筆記試験或いはレポートにより評価する。		

【授業科目名】	音楽Ⅰ（基礎理論）	【担当者】	加宮 葵・諏訪 羚子・関根 美和子・舛本 清美
【開講期】	1年前期		
【授業目標】	楽典を学ぶ事により、音楽を基礎的に理解し、保育者に要求される音楽的な表現や活動がスムーズにすすめられる様に、という事を目標にしている。		
【テキスト・参考書】	テキスト：下総皖一「楽典」		
授 業 計 画			
音	音の種類と性質		
譜表Ⅰ（記譜上の約束ごとの理解）	五線・加線・音部記号・音符・付点音符・複付点音符・休符		
音名	付点休符・縦線		
	拍子の数え方・全休符の使い方・変化記号・速度記号・強弱記号		
	シンコペーション・連符・タイ		
音程	全音階的音程・半音階的音程・協和音程と不協和音程		
音階	長音階：調号(#, b) 4個迄		
	短音階：調号(#, b) 4個迄（自然短音階・和声短音階・旋律短音階）		
	音階各音の名称（主音・下属音・属音・導音）等		
調	調と調号 調の相互関係		
移調	学生がよく知っている曲等を実際に移調し、いろいろなパターンをこまかく指導する		
和音（伴奏づけの基礎としての和音の理解）	三和音・主要三和音・属七の和音		
	主要三和音の転回・属七の和音の転回		
譜表Ⅱ（記譜上の約束ごとの理解）	省略法・反復記号・Da Capo(D. C)・Dal Segno(D. S)・スラー・テヌート		
	スタッカート・ポルタント・フェルマータ・装飾音符と装飾記号・トリル・発想記号 等		
【評価方法】	期末試験の成績		

【授業科目名】 音楽Ⅰ（基礎技能）（ピアノ）	【担当者】 下記参照
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 『Piano Method』（全員に共通のテキスト）を中心に基礎テクニックを学び、半期ごとにグレードテストを受ける。2年生後期のテストで3グレードを合格した学生が単位を得ることができる。尚、授業で使用する『メソッド』以外のピアノ曲集や練習曲集については、担当教員の指示に従うこと。	
【テキスト・参考書】 テキスト：『Piano Method』 鷺見五郎著 共同音楽出版社 参考書：ツェルニー100番、ソナチネアルバム、ソナタアルバム、ブルグミュラー25番 他	
授 業 計 画	
<p>（概説） 多くの楽器の中で何故ピアノを学ぶのでしょうか？ 幼児集団に対して説得力のある音楽教育や保育をするには、可動性のあるギターやアコーディオンのような楽器の方がいいのではないのでしょうか？</p> <p>ピアノは（アコーディオンもそうですが）旋律と伴奏を同時に奏することのできる楽器です。しかも10本の指（アコーディオン5本×2の10本です）を自在に走らせることができ、まろやかな音色と最高に広い音域を持つ楽器です。百数十本の弦から生じる倍音の数も他の楽器とは比べものにならない多さですから、精神に及ぼすプラス効果も大きいと考えてよいでしょう。色々な理由から、音楽の王者『声楽』に対して比肩できる楽器は『ピアノ』ということになると思います。</p> <p>いい音楽というのは次の①と②がバランスよく混ざり合った時に出現します。</p> <p>① テクニック・・・目に見える。他人が評価し易い。 ② 音楽性、感性等・・・目に見えない。評価しにくい。</p> <p>①と②は相互に作用し合いながら進歩、充実してゆく関係にあるので、初歩から上級迄の各段階で「もうこれでよい」ということはありませんが、特に初心者と中級程度の方は、自分の持っている『歌ごころ』を上手に表現できるようになるために、テクニックの確実な習得に努力してください。</p> <p>【担当者】 秋山治子・稲村敬子・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・諏訪羚子・瀬戸由起子・関根美和子・平さわ西澤和枝・西山裕子・野村真理子・福嶋省吾・藤島恵子・舛本清美・山本由紀子</p>	
【評価方法】 実技グレードテスト（後期2月）	

【授業科目名】 音楽Ⅰ（基礎技能）声楽	【担当者】加宮 葵・豊野雄次郎
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>小グループで基礎的なやさしい発声練習を行う事により、学生の均等な声の上達をねらい、ソルフェージュ等、教則本の予習を義務づける事により、読譜力を身につける事を目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト : ソルフェージュ : コンコーネ50番</p>	
授 業 計 画	
<p>① 声の出し方を理解するための、基礎発声の説明と実践</p> <p>② C-dur, F-dur, G-dur, D-dur, a-moll等の練習曲を、スムーズに譜読み出来る様にする。</p> <p>③ 伴奏付練習曲での練習により、メロディーの流れを理解する。</p> <p>④ 無伴奏でも音程を正しく歌える様にする。</p> <p>* 1講時につき ソルフェージュ 15曲 2講時につき コンコーネ50番 1曲 } をマスターする。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と出席点</p>	

【授業科目名】 図画工作 I	【担当者】 枝常 弘・八木 紘一郎・花原 幹夫
【開講期】 1 年前期・1 年後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半では、保育者として必要な造形表現の基礎技能の習得を目標とする。紙や空き箱、絵の具などの身近な素材を使った造形表現の実技演習を行なう。 ・後半では、子どもの表現行動を総論的に概観し、子どもの造形的表現の諸特性を理解する。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「造形（アート）にチャレンジ」…枝常・八木・花原(すずき版)</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していく。前半と後半、それぞれの第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をする。</p> <p>前半（前期）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者としての造形表現の基礎技能とは何か 2. 基本的な素材とその使い方について 3. 基本的な道具とその使い方について 4. 基本的な材料（描画材など）とその使い方について 5. 平面をつくる基本について 6. 立体をつくる基本について 7. 造形と科学の関係について <p>後半（後期）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感性と表現について 2. 見える表現と見えない表現について 3. 子どもが表現しようとしている意味について 4. 子どもの表現の源泉について 5. 子ども表現の発達について 6. 子ども表現を援助する理由と目的について 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容すべてを一冊のファイルやノートにまとめたものを評価する</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅠ	【担当者】 専任教員
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>①文献講読などを通して研究の方法について学ぶ。</p> <p>②2年ゼミナールにつながる問題意識の形成をめざす。</p> <p>③集団学習を通して研究の楽しさと厳しさを体得する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>ゼミナール開講時に指定する。</p>	
授 業 計 画	
<p>開講までの準備期間として、八王子オリエンテーションにおける分科会での学習体験、ゼミナール説明会、ゼミ室訪問期間などが設けられる。その上で学生は1年前期中にゼミナールの登録（配属希望を提出）をおこない、教員側で配属を決定する。</p> <p>授業計画は、ゼミナールの課題・テーマにもよるが、基本的には上記の授業目標にもとづいてすすめられる。</p> <p>多くのゼミナールは、文献購読形式でレポート・討議をおこない、問題意識の形成をめざすことになろう。詳しくは、6月初旬におこなわれるゼミナール説明会で各教員によって説明されるので参考にしたい。</p> <p>以上のようなとりくみを踏まえて、2年ゼミナールへと発展させていくことをめざしている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>①ゼミ活動への参加状況、②レポートの提出状況、③その他</p>	

【授業科目名】 幼稚園実習	【担当者】 岡本富郎・若松美恵子他
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 幼稚園実習を通して、幼稚園の教育の実際を学び、保育科学生としての学習の必要性を知る。	
【テキスト・参考書】 『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携 参考資料として各園の施設要覧・入園のしおり・園便りなど	
授 業 計 画	
<p>1年生の実習は6日間の「見学・観察実習」という段階の実習である。 この実習で、幼稚園での教育の実際を学び、保育者になるためには専門の学びが必要であることを知って欲しい。</p> <p>(1年次) 見学・観察実習のテーマ</p> <p style="padding-left: 40px;">「日課について学ぶ」</p> <p>ポイント ① 子どもの活動について学ぶ</p> <p style="padding-left: 80px;">② 保育者の活動について学ぶ</p> <p style="padding-left: 80px;">③ 保育の環境について学ぶ</p> <p>上記のテーマとポイントについては実習のオリエンテーションで詳しく説明する。</p>	
【評価方法】 学内オリへの出席／受講 実習日誌 実習中の出欠席 学内反省会 などを総合して評価	

【授業科目名】 実習指導（保育所実習Ⅰ）	【担当者】 鈴木佐喜子・吉川研二 ほか保育科全教員
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保母資格取得には学内の関連教科のほか、保育所実習および保育所以外の各種児童福祉施設での実習を必修とする。実習に入る前に、保育所の機能と役割、実習の目的、実習のテーマ、実習日誌の書き方などを学ぶ。実習後、実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成などを行い、実習日誌などの評価・指導を受ける。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>今年度の実習指導は以下の予定で実施するが、一部内容が変る場合もある。</p> <p>《実習前》</p> <p>I. 事務手続オリエンテーション（全実習） 実習園の一覧表、実習生個票（履歴書）、身体検査書（健康診断）、細菌検査、実習日誌の提出・返却など実習に関わる一連の事務手続の説明。</p> <p>II. 実習園の配属 実習園の一覧表をもとに学生が相互に話し合い（教員が割り当てる場合もある）、各自の実習園を決定する。</p> <p>III. 講義 「保育所実習Ⅰ」の意義と目的 「保育所実習Ⅰ」関連教科と授業内容の概説。 実習の目的、実習の意義、実習のテーマ。 ビデオ映像による“保育所の日”。</p> <p>IV. 講義 保育における子どもの生活と保育の流れ 保育所の職務内容 保育の日課 1)日課とは、2)日課の意義、3)日課に関わる条件、 4)3歳未満児クラスの日課の特徴、5)幼児クラスの日課の特徴。</p> <p>V. 講義 実習生を受け入れて 保育所現場から 1)子どものこと、2)保育のこと、3)保育者のこと、4)保育所のこと、 5)実習とは、6)実習生に望むこと、7)学んでほしいこと、 8)実習での諸注意など。</p> <p>VI. 講義 実習に行く前に 実習日誌の書き方 1)日誌を書く理由、2)日誌を書く目的、3)日誌を書く上での諸注意、 4)記録のポイントなど。 実習の心構えと具体的注意事項 1)実習への抱負や課題、2)実習に臨む姿勢（服装・健康管理など）。</p> <p>VII. 実習日誌の提出・点検・指導</p> <p>実 習 11月13日（月）～11月24日（金） 10日間</p> <p>《実習後》</p> <p>VIII. 実習を振り返って（反省会） 各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成をオリゼミ単位で実施。</p> <p>IX. 実習日誌の提出・点検・指導 個別面接</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点</p>	

【授業科目名】 保育所実習Ⅰ	【担当者】 鈴木佐喜子・吉川研二 ほか保育科全教員
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 2年次に実施する「保育所実習Ⅱ」とともに保母資格取得にあたっての必修科目である。保育体験を通して保育所保育の機能と役割、保育内容と流れを理解し、保育者の仕事内容を知る。同時に、保育所における子どもの生活と活動、各年齢の子どもの発達段階を知り、保育計画と指導法に関しても具体例によって学ぶ。保育科の学生としての意識の形成、保育のイメージ作り、学習課題の発見などをねらいとする。	
【テキスト・参考書】 『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携 参考資料として各園から出されている施設要覧・入園のしおり・園便りなど	
授 業 計 画	
<p>学内での実習関連教科目および「実習指導」の受講後、今年度の実習は11月13日（月）から11月24日（金）の10日間行われる。</p> <p>1週間の幼稚園実習の体験後、初めての保育所実習である。上記目標と内容の10日間の実習を行う。実習は主に見学、観察、参加の形で行うが、園によっては見学・観察だけの実習もある。また園ごとに子どもの年齢構成、保育時間が異なるので、実習形態や実習中の配属クラスなどは園の方針、実情などに応じて決められる。</p> <p>なお実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会がある。</p>	
【評価方法】 学内オリ「実習指導」への出席／受講 実習日誌の記録 実習中の出欠席 学内反省会 などを総合して評価	

一般教育科目 (2年)
外国語科目 (2年)

【授業科目名】 哲学	【担当者】 田中 未来
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】 「哲学」の中でも、とくに人間観の発展に重点を置き、本学の建学の理念であるヒューマンイズムの、西洋思想の中での系譜を講義する。また、現代の諸問題をヒューマンイズムの視点から考え、とくに本学年は対象が保育科二年生であることを考慮し、その実習などの経験を生かして、話し合いなどを通じて、ともに考える機会を持つ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p><参考書>『教育と福祉のための人間論』田中未来著（川島書店） ただし、講義はべつにプリントを作り、それを用いる。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 『哲学』とはなにか。その中で人間観、とくにヒューマンイズムに焦点を絞る理由 2) ギリシャ思想とヒューマンイズム 3) キリスト教思想とヒューマンイズム 4) ルネサンスとヒューマンイズム 5) 啓蒙思想とヒューマンイズム 6) プラグマティズムとヒューマンイズム 7) 社会主義とヒューマンイズム 8) 実存主義とヒューマンイズム 9) 現代社会とヒューマンイズム 科学の進歩・情報 10) 教育・ 保育とヒューマンイズム (ディスカッション) 11) 福祉とヒューマンイズム (ディスカッション) 12) 自分・他人・環境を大切にすること (ディスカッション) 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート（講義内容に関するものと、自分の体験に基づくもの）</p>	

【授業科目名】 人間	【担当者】 石原・北・東・平賀
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 「日本人と米」のテーマで4人の教員が稲の栽培や米をめぐる生活、現代の米問題等についてそれぞれ専門の立場から講義する	
【テキスト・参考書】 テキスト 使用せず 参考書 担当教員の授業時間の中で指示します	
授 業 計 画	
<p>過去数十年の間に日本人の食生活は大きく変化したが、それでもなお米飯中心の生活は変わっていない。稲・米・米飯にまつわる行事や伝承にも米に依存して来た日本人の生活とそれへの愛着や苦悩が認められる。この授業では稲の栽培や米をめぐる生活について4名の教員が歴史、経済、民俗、伝承、栄養などいろいろな面から講義し、人間とその生活を考察する。</p> <p>Ⅰ、イネの栽培と日本の米 担当 石原 邦 (1)イネの栽培(スライド使用)、 (2)日本のイネの栽培の変遷、 (3)世界における米の生産と将来の日本の米</p> <p>Ⅱ、主食としての米 担当 北 郁子 (1)米の栄養と日本人の食生活、 (2)米はいつ頃から日本人の主食となったか、 (3)日本人の食生活と健康問題</p> <p>Ⅲ、コメノ民俗と歴史-南島伝承を手がかりに 担当 東 喜望 (1)柳田国男の壮大なる仮説-海上の道 (2)穀霊信仰の諸問題 (3)穀物と年中行事 (4)穀物起源と伝説 (5)久米島の調査から (6)中国の調査から (7)稲作の伝来と渡来人</p> <p>米作りと人々の生活史をたどりながら現在の米問題を考える 担当 平賀 明彦 (1)産業としての農業の特性 (2)日本人とコメの歴史 (3)近代の稲作と米穀市場 (4)食料管理の歴史-食管法の成立、改変とその役割 (5)現代のコメ問題</p>	
【評価方法】 各担当教員が授業時間のなかで指示します	

【授業科目名】 英語Ⅱ	【担当者】 清野 茂子
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】 英語の基礎的知識をもとに、現在扱われている諸問題に対して自分の意見をまとめ、英語で自由に表現する力を養うことにより、英語力の向上をはかりたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 未定</p>	
授 業 計 画	
This area is intentionally left blank for the lesson plan content	
【評価方法】	

專門教育科目（2年）

【授業科目名】 社会福祉方法論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>住民（児童、障害者、高齢者を初めとした住民全般）の生活実態と、そこからかもし出される福祉課題・生活課題（福祉ニーズ）をしっかりと押さえ、その実現・解決のために、社会福祉固有の視点と方法に基づいて展開されてきた実践活動と援助技術を学ぶ。その場合、福祉・保育に関わる上で、必要な援助とは何か、その技術と方法は如何にあったらよいかを事例を通して実践的に学べるようにしたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「子育ての危機と保育の公的保障」（ひとなる書房・・・鷺谷善教編） 「私のまちなごども生き生き」（ひとなる書房） 「古い」（平凡社・・・田辺順一著）他 「社会福祉援助技術」（建帛社・・・介護福祉士選書・5）</p>	
授 業 計 画	
<p>前期の授業においては、 まず第1に、既に公にされている調査報告書等を中心に、住民（児童、障害者、高齢者を初めとした住民全般）の生活実態をしっかりと押さえたいと思います。 その上に立って、福祉課題・生活課題を解決と援助を必要とする社会福祉ニーズとして明確にします。その場合、援助とは何か、とりわけ「必要な援助とは何か」を考えます。 さらに、援助の方法としてのソーシャルワークの方法について学習し、後期授業に結びつけていきたいと思います。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容をヒントとしたレポートの提出を数回求めます。出席は重視します。その総合点で評価したいと思います。</p>	

【授業科目名】 社会福祉方法論	【担当者】 都留民子
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>「なぜ、社会福祉の専門的方法と技術が必要なのか」、それを理論面と社会福祉の実際の問題を明らかにする中で学習していく。保育科学生として、今日求められている社会福祉の基本的な技術が身につくことを、最終的な目的とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p style="text-align: center;">参考書 重田信一編著 「社会福祉の方法」(川島書店)</p>	
授 業 計 画	
<p>前期授業をふまえ、社会福祉における専門的方法＝「援助技術」の意義とその役割を欧米のソーシャルワーク理論とその活動を紹介しながら学習していく。同時にわが国の社会福祉問題と「事例」に基づき、方法の実際と課題を明らかにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英米でのソーシャルワークの一般理念と基本的技術 <ul style="list-style-type: none"> 対象の把握(社会福祉調査) 社会福祉計画の作成 ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークの基本枠 ソーシャルアクション 2. 専門的方法の具体的展開 <ul style="list-style-type: none"> わが国での展開事例 社会福祉の対象把握の特徴(だれが援助対象か) (事例) 福祉事務所におけるケースワーク 生活保護とケースワーク 児童館他地域施設におけるグループワーク 地域保育活動(自主保育グループなど) 社会福祉協議会のコミュニティワーク 3. フランスにおけるソーシャルワーク(Travail social)の展開事例 <ul style="list-style-type: none"> 対象把握(失業と貧困＝「社会的排除」の拡大) 基本方向(貧困者とその家族の「社会的同伴活動」) (事例) 福祉事務所の援助 民間福祉団体の援助方法 地域センターの活動 4. わが国の援助技術の抱える問題と課題 <ul style="list-style-type: none"> ニーズ把握について 具体的な人間像(対象) ソーシャルワークの目標 ソーシャルワーカーの専門性とその倫理 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">学年末レポート</p>	

【授業科目名】 保育原理Ⅱ	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 2年後期	
【授業目標】 保育原理Ⅰで学んだことを土台として、子どものとらえ方や保育への理解を深めることを目標とする。	
【テキスト・参考書】 参考文献 授業時に紹介する。	
授 業 計 画	
具体的な内容としては、およそ次のようなことを取上げる予定である。 1. 保育とは何か (1)今日求められる保育者の力量 (2)今日の社会と保育所 2. 保育の計画と保育過程の検討 (1)保育計画とは (2)保育計画と保育過程 (3)実践記録の意義と書き方 3. 保育所と家庭・地域とのかかわり	
【評価方法】 (1)筆記試験 (2)授業時の感想・レポート；	

【授業科目名】 養護原理I	【担当者】 浅井春夫
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>① 児童福祉法上の保育所以外の入居施設の基本的な理解 ② 児童福祉施設入居児童の社会的家族的背景の理解 ③ 養護実践の基本原則（養護原理）を学ぶ</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：使用しない 参考書：授業のなかで紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>(1) 「養護原理 I」で何を学ぶか 子どもの現状、施設論、養護とは</p> <p>(2) 施設養護か里親制度か 現状と課題、今後の発展方向をめぐって</p> <p>(3) ホスピタリズム論の克服のために ホスピタリズム論争と子ども観の再検討</p> <p>(4) 児童福祉施設各論 - (a) 養護系施設 養護施設、乳児院、母子寮</p> <p>(5) 児童福祉施設各論 - (b) 障害系施設 精神薄弱児、重症心身障害児、肢体不自由児施設</p> <p>(6) 児童福祉施設各論 - (c) 情緒・教護系施設 情緒障害児短期治療施設、虚弱児施設、教護院</p> <p>(7) 諸外国の児童福祉施設の紹介 福祉の理念と児童福祉の水準</p> <p>(8) 施設条件の現状と今後の展望 最低基準、政策動向、子どもの権利条約</p> <p>(9) 養護実践の方法 援助関係における距離・時間・人数</p> <p>(10) 養護実践の基本原則 児童養護の課題と養護原理（6項目）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験のみ</p>	

【授業科目名】 養護原理Ⅱ	【担当者】 浅井春夫
【開講期】 2年後期	
【授業目標】 ① 養護原理Ⅰを踏まえて、具体的な実践内容を学ぶ ② 施設児童をめぐる生活課題と援助内容を深める ③ 施設養護上、必要な事項についての理解を深める	
【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書：授業のなかで紹介する	
授 業 計 画	
(1) 子どもの権利条約と養護原理 前文と54条の基礎的理解、施設児童の権利の現実 (2) 日常生活の養護 入居前の手続きと配慮、基礎的生活と生活リズム (3) 高年齢児の養護 思春期の特徴と発達課題、問題行動の捉え方と対応 (4) 児童虐待の現状と発見・援助内容 諸外国とわが国の現状、定義と分類、対応の基本 (5) 性的虐待の現実とノーモア・シークレットの実践 人格的後遺症、施設における留意事項 (6) 性教育の基本的視点とテーマ 諸テーマをどう語るか、施設における性教育の展開 (7) 生活のなかの性教育 生活のなかですすめる視点、具体的生活場面での性教育 (8) 進路指導とアフターケア 進路指導の現状と課題、アフターケアの現状と課題 (9) 施設労働の現実と労働基準法 社会福祉労働論の基本視角、労働基準法問題の検討 (10) 21世紀の児童福祉施設像の探究 児童福祉改革の動向と課題、施設職員の専門性	
【評価方法】 定期試験のみ	

【授業科目名】 臨床心理学	【担当者】 高野 久美子
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>教育現場だけでなく生活のさまざまな場面で、他者を（子ども、大人にかかわらず）一人の個人として理解し、関わって行くための一つの手がかりとして、臨床心理学の基礎を学ぶことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト；なし 参考書；随時指示する</p>	
授 業 計 画	
<p>臨床心理学の基礎的な理論を紹介しながら、実際の事例研究（なんらかの困難を訴える人に対し心理療法を行い、その経過を分析、考察した論文）を読むことを基本とする。そのなかで、幼児教育の現場で困難を訴える児や問題を抱えていると思われる児に対して、臨床心理学の知識を用いてどのように援助を行っていきけるかをディスカッションしていきたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>期末の試験の他に、折々に短いレポートの提出を求め、その内容も加味する。</p>	

【授業科目名】 小児保健Ⅱ	【担当者】 ^{といた} 樋田 豊治
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】 小児保健Ⅱは、福祉施設に入所している子どもの保健である。家族と別れて施設で生活する子どもは、何らかの身体的・精神的・社会的ハンディキャップを持っている。施設で働く保母は、障害の原因・症状・指導技術の知識、施設の健康管理を身につけておく必要がある。</p> <p>私は心身障害児施設の医師として、保母と共に仕事をしてきたので、その経験をもとに講義をする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 ^{といた}樋田 豊治 編著 精神薄弱ハンドブック・医療編 愛護協会 樋田 豊治 療育の基礎知識 あきつ新聞社 (図書館にあり)</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の成り立ち 施設の種類 2. 精神薄弱児施設の生活と療育 3. 強度行動障害児の指導 4. 重症心身障害児の生活と療育 5. てんかん児の指導 6. 盲児・ろう児 肢体不自由児の療育 7. 施設に居住する老人の医療と介護 	
<p>【評価方法】 レポート</p>	

[授業科目名] 小児保健実習

[担当者] 水波 佳津子

[開講期] 2年前期・2年後期

[授業目標]

- ・子どもの健康な発達を保障する保育活動に大切なことは、子どもの発達のみちすじや病気、異常、けがの特徴を知り、ひとりひとりの子どもの日常の状態をしっかりとらえることである。
- ・小児科学や乳児保育で学んだことを基礎に、養護の心得、観察のポイントを具体的に学ぶと共に実技実習を通して実際の扱い方を身につける。

[テキスト・参考書]

テキスト 坂田 堯 (日本赤十字社医療センター附属乳児院編)
『乳幼児保育指針』 日本小児医事出版社

授 業 計 画

○講義

I オリエンテーション

乳幼児養育の理論と技術(基礎と実際)について

子どもの養護と自立→健康発達への支援

II 健康状態の観察

A 一般状態の観察(きげん、顔つき、顔色、動作、食欲、睡眠)

B 身体各部の観察

III 小児に起こりやすい症状とその対応

・発熱・嘔吐・腹痛・下痢・けいれん・脱水

IV 小児に起こりやすい事故

・窒息事故・熱傷・誤飲・創傷・頭部外傷

・腹部損傷・骨折・捻挫・脱臼・打撲

・異物・咬傷・日射病・熱射病・ガス中毒

○実技・実習

I 基礎的養護方法(ミルクの飲ませ方、排気の仕方、衣服の着せ方脱がせ方、おむつのあて方、おんぶ抱っこ仕方)

II 身体発達、測定の方法、評価の方法

・身長、体重、胸囲、頭囲の測定の実習

・発育指数 a パーセンタイル曲線 b カウプ指数

・乳歯、永久歯との関わりと う歯予防について

III 病気や異常の見分け方、病児の世話

・重症であるかどうか保育者としての見分け方 ・体温、呼吸、脈拍測定の実習

・薬の飲ませ方(散薬・水薬の飲ませ方についての実習、座薬、塗布法、点眼法、注意事項の説明)

・薬の保管

・症状処理等の記録

IV 感染予防 予防接種 発見と隔離 消毒法(理学的化学的消毒法)

より健康な子どもを育てる→積極育児 赤ちゃん体操、外気浴、日光浴

個人・集団の健康管理と記録

保育者自身の健康管理

V 沐浴実習 実物大(形状・重量)の沐浴人形を用い全員が実習する。

(実習終了後、意見・考察・感想文提出)

[評価方法]

①筆記試験

②沐浴、身体測定の実習評価

③授業時の平常点、感想文

【授業科目名】 小児保健実習	【担当者】 伊藤 祥子
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳幼児を保育する中で安全であることが第1であるが、子どもは活発に運動したり、遊んでいる時に転ぶ、ぶつかる、落ちる等の事故を起こしたり、また急に身体の状態が悪くなることもある。緊急時に必要な処置があわてずにできるよう、正しい救急法や看護の知識、技術を身につけてもらうことを目標とする。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>乳幼児保育指針 日本赤十字社医療センター附属乳児院編 赤十字救急法教本 日本赤十字社</p>	
授 業 計 画	
<p>病気や事故が発生した時、最初に行った処置（First Aid）が適切であったか否かによって病気・けがの経過に影響を及ぼし、予後にも関係してくるので重要である。</p> <p>救急法実施上の一般的な注意、手当の順序などを話す。その後下記の項目について実習をする。</p> <p>実習にあたっては、実際に行ってみることが大切であるので、実習の場では各自に体験させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体位、運搬 ○ 救急蘇生法 （気道内異物除去、気道確保、人工呼吸法、心マッサージ） ○ 傷と止血 ○ 包帯法（三角巾、巻軸帯） ○ 副子のあて方 	
<p>【評価方法】 筆記試験 授業時の実習評価</p>	

【授業科目名】 小児栄養実習 (理論)	【担当者】 北 郁子
【開講期】 2年前期	
【授業目標】 小児の成長、発達の段階に応じて、生物としてのヒトから人へ、そして人間に成長する過程を食事を通して理解する。また栄養、調理、食文化を総合したかたちで理論と実習を通して理解を深め、人間としての食の自立と食習慣の形成について学ぶ。	
【テキスト・参考書】 小児栄養実習担当者(北 郁子, 菊池 波津子, 国井 雅代) で作成したテキストを使用	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1 妊娠、授乳期の栄養と食事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 受精による母体の変化 (2) 胎児の身体および器官の成長 (3) 妊娠期の栄養上の特性と食事に対する配慮 特につわり、妊娠中毒症 2 乳汁期の栄養と食事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 新生児の生体リズムの発現と生活日課のくみ方 (2) 母乳と各種育児用ミルクの比較 (3) 哺乳と授乳による母子相互作用と母乳の哺育について 3 離乳期の栄養と食事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 離乳の必要性 (2) 食べる感覚機能の発達 (3) 咀嚼くシステムの発達 (4) 食文化との出会い 4 幼児期の栄養と食事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 幼児期栄養の特性 (2) 食事の自立にむけて (3) 間食について 5 学童期、思春期、青年期の栄養と食事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学童期、思春期、青年期栄養の特性 (2) 各児童福祉施設の食事上の特徴と子どもたちが自分自身の健康を自分でつくれる食生活 6 成長期の栄養、食事の評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) のぞましい発育栄養状態 (2) 総合的な評価法 (3) 年齢、施設別食事指導のありかた 	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> 1 各テーマ毎に理論と実習のレポート提出 2 保育者としての自分自身の食事診断レポート 3 実習態度等の平常点 } 3者の総合	

【授業科目名】 小児栄養実習 (実習)	【担当者】 国井 雅代
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】 人間にとって“食べる”という事は、単に空腹をみたすだけでなく、心身の発育、発達に重要です。しかも、一生続く食生活を、人間らしい食行動で実践できるよう、食習慣を育てる基礎的な小児期の食事を以下の時期にわけ、理論とつなげた調理実習により、理解を目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 小児栄養実習担当者（北郁子・菊池波津子・国井雅代）で作製したテキストを使用。</p>	
授 業 計 画	
<p>1. オリエンテーション (1) 調理実習室で実習にあたっての基本的心得と、衛生的配慮、調理器具の正しい扱い方、合理的な調理活動のしかたを学習。 (2) 調味濃度（塩分）の算出を学習。</p> <p>2. 妊娠期の食事（胎児栄養） (1) 受精による母体の変化とそれに伴う食事の配慮、妊娠前期の妊婦の特性により、食欲増進のための調理形態、味、食品の選択等の工夫された調理を実習で理解する。 (2) 非妊時の女子の栄養所要量と比較し、将来の母性としての自己の現在の食生活の反省をする。</p> <p>3. 乳汁栄養 (1) 新生児の食のスタートとしての母乳の重要性を理解し、冷凍、冷蔵母乳の扱い方を学ぶ。 (2) 粉乳を用いての調乳法を学ぶ。</p> <p>4. 離乳期の食事 (1) 乳児期の消化能力及び、摂食機能の発達に適応した調理形態の変化、食品、料理の出会いを多くし、乳児の五感をいっぱい働かせられる食事作りを理解する。 (2) 離乳食の食べさせ方を学ぶ。</p> <p>5. 幼児期の食事 (1) 離乳の終了した0歳後期から1歳移行期、3歳未満児の年少幼児期、そして3歳以上児期の幼児の発達段階に適した調理法を学ぶ。 (2) 幼児期に望ましい食器、食具を用い、食べさせ方を学ぶ。</p> <p>6. 学童期及び青年期の食事 (1) 第一成長期を過ぎ、第二成長期を控え、まだ発達は著しく、将来の食生活の自立をふまえて、正しい食事のあり方を身につけられるよう指導法を学ぶ。 (2) 養護施設の食事を調理実習で学ぶ。</p>	
【評価方法】	<p>1. 各テーマ毎に理論と実習のレポート提出。 2. 保育者としての自分自身の食事診断レポート提出。 3. 実習態度等の平常点。</p> <p style="text-align: right;">┌ 3者の総合 └</p>

【授業科目名】 小児栄養実習 (実習)	【担当者】 菊池 波津子
【開講期】 2年前期	
【授業目標】 小児の発育、発達の基礎となる栄養、食事をその成長段階である胎生期、(胎児期)乳汁期、離乳期、幼児期、学童期、思春期、の各時期の栄養所要量、消化能力、摂食機能そして食習慣の形成を考慮しつつ、安全な食品を衛生的に調理し、実習理論とつなげた実習を行い、理解を深めることを目標とする。	
【テキスト・参考書】 小児栄養実習担当者(北 郁子, 菊池 波津子, 国井 雅代)で作成したテキストを使用	
授 業 計 画	
<p>1 オリエンテーション</p> <p>(1) 調理室の使用方法 ・ 調理器具の扱い方 ・ 食器の扱いその他の説明</p> <p>(2) 調理操作について～ 計量・準備量(可食量)・切り方・加熱法・調味(塩分計算)・盛りつけ～の理解をする。</p> <p>(3) 食品について ・ 食品群(三色食品群、四つの食品群等)により適切な栄養の摂りかたを学ぶ。</p> <p>2 妊娠、授乳期の栄養と食事</p> <p>(1) 妊娠特に必要な栄養と食品</p> <p>(2) 妊娠期の生理的特徴(つわり、便秘、貧血、妊娠中毒症)を考慮した調理法</p> <p>以上をふまえた妊娠前期(春)の献立を実習し、考察する。</p> <p>3 乳汁期の栄養と食事</p> <p>(1) 冷蔵、冷凍母乳の扱い方</p> <p>(2) 各種育児用ミルクの無菌操作法による調乳法</p> <p>(3) 離乳準備としての果汁の調理</p> <p>4 離乳期の栄養と食事</p> <p>(1) 離乳食の基礎として野菜スープ、各種のおかゆ、軟飯の調理</p> <p>(2) 消化能力、摂食機能の発達に応じ前期食、中期食、後期食、を調理し、食品と調理法の展開を理解する。</p> <p>(3) 摂食機能に応じた食器、食具を理解する。</p> <p>5 幼児期の栄養と食事</p> <p>離乳の終了した0才後期から1才移行期、1・2才年少児期、3才以上児期と発達段階に応じた食事をつくる。</p> <p>(1) 消化能力に応じた たんぱく源の食品の用い方を理解する。</p> <p>(2) 摂食機能に適した調理法の展開の仕方を学ぶ。</p> <p>6 学童期、思春期、青年期の栄養と食事</p> <p>(1) 第二成長期をむかえた子どもの栄養の量、質、バランスを実習のなかでまなぶ。</p> <p>(2) 養護施設の食事を調理し、子どもたちの将来の食生活の自立をはかることの大切さを認識させる。</p> <p>(3) 施設の食事を通して、家庭の団欒、心の栄養として、食すること(ときには作ること)の重要性を理解させる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>1 各テーマ毎に理論と実習のレポート提出 ┌</p> <p>2 保育者としての自分自身の食事診断レポート ├ 3者の総合</p> <p>3 実習態度等の平常点 └</p>	

【授業科目名】 精神保健	【担当者】 工藤 行夫
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】 精神的健康の保持、増進をはかり、精神障害を予防、治療する諸活動が精神保健である。WHOの健康の定義に「身体的、心理的、社会的にwell-beingの状態にあること」とあるように、身体レベルから社会レベルまで広い領域が含まれる。精神の発達段階（ライフサイクル）に応じたそれぞれの精神保健を、臨床的知見を交えながら検討する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：武正建一編『精神医学サブノート』（南江堂）</p> <p>A. C. スミス著（工藤行夫他訳）『分裂病と狂気』（川島書店）</p>	
授 業 計 画	
<p>概ね以下の項目について授業を進める予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心の健康、精神の発達 2. 心身相関、心身症 3. 精神力動、神経症（ノイローゼ） 4. 小児の心性、自閉症 5. 思春期の心性、思春期やせ症 6. 精神分裂病（1） 7. 精神分裂病（2） 8. 退行期の心性、躁うつ病 9. 薬物依存、アルコール依存 10. 老年期の心性、老年期痴呆 11. 社会との関連、精神鑑定 12. 日本の精神医療 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートによる評価</p>	

【授業科目名】 教育課程総論	【担当者】 黒田 瑛・佐々加代子
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼稚園教育課程における各領域間の関連性とそれぞれがもつ意味、機能についてとらえることを目標とする。幼稚園教育は3～5歳児を対象とするが同年齢層における保育所における保育内容論との関連性についても考え合うことも含める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト： なし</p> <p>参考書： 随時紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>〈前半〉</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教育課程の意義と類型 • わが国における幼稚園の教育課程の歴史 • 教育課程の構造 ー子ども観、保育観ー • 生活、あそび、仕事、課業 • 教育課程の編成 • 教育課程と指導計画 <p>〈後半〉</p> <p>幼稚園で行われている教育課程は、園の育てたい子ども像が園生活を通して達成されるように組まれている、ととらえられる。</p> <p>広くは幼稚園教育要領で示されているものが具現化されているとも言えよう。ところが、その具体的な方法論の実態はさまざまである。</p> <p>そこで以下の観点から検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 園のパンフレットなどから見出される教育課程の類型 2) 1)と指導計画との関係 3) 2)までで得られた内容から見えてくる“子ども像” 4) 教育課程の実践を担う保育者に求められるもの 5) 園生活を共にすることの意味について <p>後半期はグループ活動、演習を含めた形態とする。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>①平常点 ②レポート ③テスト</p>	

【授業科目名】 人間関係（社会行動）	【担当者】 民秋 言
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会的存在としての人間は、社会生活を前提とする。社会のなかで、つまりいろいろな人たちとさまざまなかかわり（人間関係）をもち乍ら生活する（すなわち子どもは育つ）ことを学ぶ。同時に子どもが社会的成長を遂げるために、園生活の中で保育者がどのようににはたらきかけていくか（保育の展開）についても学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>大場牧夫・大場幸夫・民秋 言著『子どもと人間関係－人とのかかわりの育ち』萌文書林 ハンドブック教育・保育・福祉編集委員会編『ハンドブック教育・保育・福祉』北大路書房</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育内容・人間関係（社会行動）」という科目が、幼児・保育資格取得課程に設けられている意味を説明する。他の保育内容系科目との関連－共通点と異なる点も併せて説明する。 2. 保育所保育指針と幼稚園教育要領でとり扱われている「保育の内容」「ねらい及び内容」の概略をおさらいする。他科目でもくり返し行われているであろうが重要なところであるから、ていねいに話す。 3. 保育指針、教育要領いずれも保育内容は5領域に分けられ、そのうちの一つが当該科目の「人間関係」にかかわるものであることを話す。併せてとくに保育指針では「養護」と「教育」という側面が在ることも説明する。 4. 人間は社会的存在である。つまり社会の中で人とのかかわりの中で生まれ、育ち、生活する存在である。そのかかわりこそ「人間関係」とよばれうものであり、このかかわりなくしては人間ありえないことを説明する。 5. 社会生活とは共同生活ともいえる。人間が生活することのメカニズムを「人との共同」に焦点を併せるが、その前に生活を行動の連続としておさえ、人間の行動の特徴を何点か明らかにする。 6. 子どもが社会の中で育つことはただ単に肉体的・生理的に成熟を遂げることだけではない。社会的な育ち（社会的成長）を必要とする。その育ちの過程を社会化として捉える。社会的育ちの手がかりを得る。 7. 人間が社会生活＝共同生活をするためには、自分の欲求を充足すると共に他の人の欲求充足をも許さなければならない。そこに一定の生活（行動）のしかたが生ずる。これを文化と呼び、この文化を習得していくことが子どもの社会的成長となる。この過程が社会化である。 8. 子どもにとって文化はさまざまなはたらきをするが、ここでは社会（園生活）規範としての文化に注目する。また、その文化に規程され乍ら展開するいろいろな人間関係の相について説明する。 9. 園生活では「人とのかかわりの育ち」を大切にす。いままで学んだところを礎にして、具体的な子どもの園生活像をえがく。「依存」から「自立・自律」はまずその第一歩である。 10. 園生活における「人とのかかわりの育ち」は集団生活において、もっとも端的にあらわれる。その集団生活を子どものたちにどのように送らせるか、子どもにとっての集団のあり方を考える。 11. 「人とのかかわり」＝人間関係の育ちにかかわる実践的な問題点をいくつかあげることによって本講のまとめとする。保育者が日常の保育の場でしっかりと「人とのかかわり」を育てる力を子どもに習得させ視点を述べる。 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">期末にペーパーテストを実施</p>	

【授業科目名】 環境I(自然認識)	【担当者】 近藤正樹
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもたちは自然環境の中で、自然物・自然現象に接することにより知的体験を拡大していく。しかし保育の基礎知識・体験が先行し、日常の行動に反映されなければならない。この教科目では幼児教育に必要な保育者教養と指導上の要点について講義、演習・宿題によりその定着をはかる。季節の問題があるため体験学習を前半に論理的学習を後半に配置してある。事前に「礎の自然観察」を行う。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：水野寿彦著『幼児の生活と自然』教学研究社刊</p> <p>参考書：演習・宿題ごとに指定する。</p>	
授 業 計 画	
<p>時間外事前学習 (3月31日～4月3日) クラス単位日帰り実習『礎の自然観察』を行う。</p> <p>4月12日 幼児のための環境設定①栽培(講義と演習) 畑づくり・土づくり 農具の使い方 施肥と防虫 栽培計画</p> <p>4月19日 幼児のための環境設定②飼育(講義) ムシに強くなる3つ 飼育の要点 正解は観察を通して</p> <p>4月26日 植物の構造と分類①(講義と演習) 植物の基本構造 検索のしかた図鑑の使い方 葉の構造の観察 スケッチの要点</p> <p>5月10日 植物の構造と分類②(講義と演習) 花の構造 実の構造 顕微鏡の使い方 花の構造の観察</p> <p>5月17日 昆虫の構造と分類①(講義) 昆虫の基本構造 発育と変態 昆虫の生活</p> <p>6月14日 昆虫の構造と分類②(演習) 昆虫の構造観察 アリのスケッチ</p> <p>6月21日 「こいなあに」、「どうして」に強くなるために(講義) 認識と質問の関係 概念形成の質問 知識拡大の質問 解答不能も解答のひとつ 「正しい話」と「ウリの話」</p> <p>6月28日 自然保護と環境教育(講義) 自然保護の考え方 生命尊重の意味 「かわいい」と「かわいそう」 環境教育</p> <p>7月5日 自然の変化を知る(講義) 天気と気象 天気図の見え使い方 生物季節 天体物理現象</p> <p>7月12日 『自然』とは何か(講義) 自然・人為人工 自然界・自然物・自然現象・自然法則 自然度が意味するもの</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>演習の成果・宿題の結果・期末試験の成績を総合して行う。</p>	

【授業科目名】 環境 I (自然認識)	【担当者】 小作 明則
【開講期】 2 年前期	
【授業目標】 子供の自然認識はその成長過程における価値観の形成に大きく影響を与える重要な要因と考えられる。そこでどのようにしたら自然と共に成長することができるかということを実際にみのまわりの自然のなかに自分達の身を置くことで自然認識に付いて多面的に考えていきたい。	
【テキスト・参考書】 テキスト . 使用しない。	
授 業 計 画	
<p>現在我々のみのまわりから自然環境は急速に失われつつありますが、成長する子供が自然の認識なしにその個性を形成していくことはありえません。ですからその成長期の幼児教育に携わる我々は何らかの形で自然に対する考え方、接し方についてのトレーニングを受けておく必要があると考えられます。</p> <p>そこで先ず幼児の教育に当たる我々がはっきりとした自然との付き合い方を学ぶことが要点になるという考え方のもとに本講義では出来るだけ多くの下記のおな実習を通して皆さんに自然との触れ合いを体験してもらいます(実体験学習)。この実習の目的は幼児教育に携わる人間が『自然と楽しく付き合える』ようにすることです。つまり教える側が先ず自然を楽しみ、そのなかから自然に対する理解を深めることだと考えています。</p> <p>さらにこのような経験を通して幼児教育者に不足している科学的な要素を充実させていくきっかけができるものと考えています。また実習は知識としてただけではなく、知識が実際に使える、身に付いたものとする練習を体験を通して味わう場にもなると思います。</p> <p>実習計画： 1) 春の磯海岸(磯遊び、潮だまりの生物観察) 2) 春の里山(里山の植物、動物の観察) 3) 植物の栽培(作物を栽培し、収穫する喜びを味わう) 4) 植物、動物のスケッチ(科学的な生物の見方) 5) 植物の押し花作り(植物の種類を調べる) 6) 海や山の生物をあつめて試食する 7) その他</p>	
【評価方法】 ① 筆記試験 ② レポート	

【授業科目名】 環境I(自然認識)	【担当者】 吉川研二																																										
【開講期】 2年前期																																											
【授業目標】 自然教育と環境教育 身の周りにある自然に関心を持ち、具体的な活動や体験を通して自然から直接学ぶこと。身の周りにある自然のあり方について考える。植物栽培(1)植物を育てる意義と栽培について。野外で行う自然体験授業について。 身の周りにある自然に関心を持ち、具体的な活動や体験を通して自然から直接学ぶこと。身の周りにある自然のあり方について考える。植物栽培(1)植物を育てる意義と栽培について。野外で行う自然体験授業について。 身の周りにある自然に関心を持ち、具体的な活動や体験を通して自然から直接学ぶこと。身の周りにある自然のあり方について考える。植物栽培(1)植物を育てる意義と栽培について。野外で行う自然体験授業について。																																											
【テキスト・参考書】 テキスト：『保育内容・環境』 中沢和子・小川博久 編著 建帛社																																											
授 業 計 画																																											
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">I</td> <td style="vertical-align: top;">講義</td> <td>この科目の内容・位置づけ 春の草花の観察。身近な春の草花を採集し、植物標本を作る。 植物栽培(1)植物を育てる意義と栽培について。 野外で行う自然体験授業について。</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="vertical-align: top;">野外実習(1)</td> <td>海辺の自然観察</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">II</td> <td style="vertical-align: top;">演習</td> <td>植物栽培(2) 畑(花壇)作りの基礎技術を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="vertical-align: top;">野外実習(2)</td> <td>里山の自然観察(1)</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">III</td> <td style="vertical-align: top;">講義と演習</td> <td>植物の構造観察と分類(1) 植物の基本的な形を知り、分類し、名前を調べる。 顕微鏡の使い方を覚え、植物の花と葉の構造を観察、スケッチする。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">IV</td> <td style="vertical-align: top;">講義と演習</td> <td>植物の構造観察と分類(2) 身のまわりにある草花を採集し、植物図鑑で種名を調べる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="vertical-align: top;">野外実習(3)</td> <td>里山の自然観察(2)</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">V</td> <td style="vertical-align: top;">講義と演習</td> <td>虫の構造観察と分類 身近に観察できる小動物の構造を観察し、スケッチする。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">VI</td> <td style="vertical-align: top;">講義</td> <td>飼育/観察できる小動物 身近な小動物の紹介と飼育方法の解説。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">VII</td> <td style="vertical-align: top;">講義</td> <td>自然科学的な物の見方と論理的思考方法 正しい知識のたくわえ方。擬人主義。科学の方法。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">VIII</td> <td style="vertical-align: top;">講義</td> <td>「環境」で扱う内容について 幼稚園教育要領-子ども達にとっての「環境」とは。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">IX</td> <td style="vertical-align: top;">講義と演習</td> <td>自然現象理解 天気や気象、生物季節、天体、物理現象など。微気象(気温)を測る。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">X</td> <td style="vertical-align: top;">講義</td> <td>環境教育(1) 自然をどう見るか。どんな環境観を持つか。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">補</td> <td style="vertical-align: top;">講義</td> <td>環境教育(2) 自然との接し方 子どもと共にどう自然に共感するか。子どもの好奇心を満たすこと。 子どもにとっての自然環境とは。自然保護の考え方。</td> </tr> </table>		I	講義	この科目の内容・位置づけ 春の草花の観察。身近な春の草花を採集し、植物標本を作る。 植物栽培(1)植物を育てる意義と栽培について。 野外で行う自然体験授業について。		野外実習(1)	海辺の自然観察	II	演習	植物栽培(2) 畑(花壇)作りの基礎技術を学ぶ。		野外実習(2)	里山の自然観察(1)	III	講義と演習	植物の構造観察と分類(1) 植物の基本的な形を知り、分類し、名前を調べる。 顕微鏡の使い方を覚え、植物の花と葉の構造を観察、スケッチする。	IV	講義と演習	植物の構造観察と分類(2) 身のまわりにある草花を採集し、植物図鑑で種名を調べる。		野外実習(3)	里山の自然観察(2)	V	講義と演習	虫の構造観察と分類 身近に観察できる小動物の構造を観察し、スケッチする。	VI	講義	飼育/観察できる小動物 身近な小動物の紹介と飼育方法の解説。	VII	講義	自然科学的な物の見方と論理的思考方法 正しい知識のたくわえ方。擬人主義。科学の方法。	VIII	講義	「環境」で扱う内容について 幼稚園教育要領-子ども達にとっての「環境」とは。	IX	講義と演習	自然現象理解 天気や気象、生物季節、天体、物理現象など。微気象(気温)を測る。	X	講義	環境教育(1) 自然をどう見るか。どんな環境観を持つか。	補	講義	環境教育(2) 自然との接し方 子どもと共にどう自然に共感するか。子どもの好奇心を満たすこと。 子どもにとっての自然環境とは。自然保護の考え方。
I	講義	この科目の内容・位置づけ 春の草花の観察。身近な春の草花を採集し、植物標本を作る。 植物栽培(1)植物を育てる意義と栽培について。 野外で行う自然体験授業について。																																									
	野外実習(1)	海辺の自然観察																																									
II	演習	植物栽培(2) 畑(花壇)作りの基礎技術を学ぶ。																																									
	野外実習(2)	里山の自然観察(1)																																									
III	講義と演習	植物の構造観察と分類(1) 植物の基本的な形を知り、分類し、名前を調べる。 顕微鏡の使い方を覚え、植物の花と葉の構造を観察、スケッチする。																																									
IV	講義と演習	植物の構造観察と分類(2) 身のまわりにある草花を採集し、植物図鑑で種名を調べる。																																									
	野外実習(3)	里山の自然観察(2)																																									
V	講義と演習	虫の構造観察と分類 身近に観察できる小動物の構造を観察し、スケッチする。																																									
VI	講義	飼育/観察できる小動物 身近な小動物の紹介と飼育方法の解説。																																									
VII	講義	自然科学的な物の見方と論理的思考方法 正しい知識のたくわえ方。擬人主義。科学の方法。																																									
VIII	講義	「環境」で扱う内容について 幼稚園教育要領-子ども達にとっての「環境」とは。																																									
IX	講義と演習	自然現象理解 天気や気象、生物季節、天体、物理現象など。微気象(気温)を測る。																																									
X	講義	環境教育(1) 自然をどう見るか。どんな環境観を持つか。																																									
補	講義	環境教育(2) 自然との接し方 子どもと共にどう自然に共感するか。子どもの好奇心を満たすこと。 子どもにとっての自然環境とは。自然保護の考え方。																																									
【評価方法】 植物標本・植物スケッチほか複数の演習課題 野外実習レポート 筆記試験																																											

【授業科目名】 表現Ⅰ（文化行動a）	【担当者】加宮葵
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼児の発達をよく理解し、その発達の段階にそった音楽の表現活動を、スムーズに指導する事の出来る保育者を育てる。（前半 1, 2, 3組・後半 4, 5, 6組）</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
授業のねらい	授 業 内 容
<p>幼児と音楽の関係をよく認識する</p>	<p>1) 教育理論編</p> <p>① 幼児教育における音楽について</p> <p>② 乳幼児の心理的発達と音楽的感覚の開発について</p> <p>・音とリズム ・興味と欲求</p>
<p>幼稚園教育要領 保育所保育指針</p> <p>・表現としての音楽の認識 ・発達に応じた望ましい音楽のあり方を認識する</p>	<p>③ 表現としての音楽</p> <p>・うたう事のはじまり ・音を出す事のはじまり</p> <p>・幼児の集団とうた ・幼児の集団と楽器</p>
<p>音楽教育の第一歩は、きくという活動から始まる事を認識する</p>	<p>2) 指導と実践</p> <p>① 幼児の音楽鑑賞の指導 [音楽をきく能力の発達段階の特徴]</p> <p>② 幼児のうたの指導 年少児・年長児</p>
<p>学生が実際に簡易楽器の奏法を知る事により、使用する目的・場所等への適応、曲のリズム、メロディー、伴奏等への考慮が出来る様にする</p>	<p>③ 幼児の楽器の指導</p> <p>・簡易楽器の特徴と奏法</p> <p>・基本リズムパターンの習得</p> <p>・年少児・年長児の合奏指導</p> <p>④ 幼児の創作指導と実践</p>
<p>指導計画、または指導案には、</p> <p>① 年間指導計画 ② 月間指導計画</p> <p>③ 週案・日案 等がある事を知る</p>	<p>⑤ 指導計画</p> <p>・楽器、うた等の指導計画（日案・週案）</p> <p>・総合指導計画 ・生活指導年間計画</p> <p>⑥ 教材曲の実践例</p>
*全出席を原則とする。	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">期末試験の成績</p>	

【授業科目名】 表現I(文化行動a)	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2年前期	
【授業目標】 子どもは見たこと、感じたことを色々な時や場で、言葉や身体で表現しようとする。その自発的な表現を育み、子どもの感受性、表現意欲、創造性を豊かに育てるための指導力を養う。	
【テキスト・参考書】 テキスト：石井美晴・菊池秀範編「保育の中の運動あそび」萌文書林	
授 業 計 画	
<p>(1) 表現I(文化行動a)の中の「身体で表現する」の保育内容での位置づけを知る。保育内容「表現」及び「文化行動a」とは</p> <p>(2) 身体で表現することの意味を理解し、子どもの身体表現はどんな意味があり、日常みられる表現の姿から幼児の表現の特性を理解する。</p> <p>①表現の意味とその理解 ②身体表現の意味とその理解 ③子どもの身体表現とその意味の理解</p> <p>(3) 幼児の運動、言語、情緒、社会性の発達と関わらせながら日常的にみられる身体表現の発達を理解する。</p> <p>①運動、言語、情緒、社会性の発達と身体表現 ②0～5歳児の身体表現の発達と特徴</p> <p>(4) 保育の場における身体表現活動から身体表現力の変化とその特徴を理解する。</p> <p>①3歳児の身体表現 ②4歳児の身体表現 ③5歳児の身体表現</p> <p>(5) 子どもの身体表現を豊かにひきだし育むために保育者がどのように援助すべきかを理解する</p> <p>①援助の基本的姿勢 ②表現の題材 ③動機づけ ④豊かにとらえる ⑤豊かに表す ⑥援助と言葉がけ</p>	
【評価方法】 筆記試験	

【授業科目名】 表現Ⅰ（文化行動b）	【担当者】 海老原 京子・八木 紘一郎・花原 幹夫
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもが、造形的な表現文化行動様式を獲得できるような援助指導の内容と方法を理解する。そのための具体的な教材理解、表現文化行動理解、援助指導法の三つの基本を主に習得することを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に使用しない</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>子どもの表現行動は、身体を媒体にした音楽やダンスなどの表現文化行動（文化行動a）と、物を媒体にする造形的な表現文化行動（文化行動b）の両方をミックスさせながら総合的に展開される。この点を視野に入れた上で、この授業では後者の造形的表現文化行動を中心に行い、その援助指導方法の基本を学ぶ。</p> <p>以下のテーマについて授業を展開していく。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表現文化行動とは 2. 表現文化行動の基本となる援助指導方法の理解 3. 素材、材料から展開する援助指導方法の理解 4. ひとつの造形活動から発展させる援助指導方法の理解 5. 造形的な表現文化行動の指導計画の立て方とその理解 6. テーマ別の造形活動とその援助指導方法の理解 7. 総合表現の援助指導方法の理解 	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常授業での課題（製作物）を評価する ・授業内容すべてを一冊のファイルやノートにまとめたものを評価する 	

【授業科目名】 環境Ⅱ	【担当者】 近藤正樹
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>環境Ⅰ(自然認識)では教育法の内容にも触れねばならないので、保育者の自然認識体験には限界がある。この事情を受けて、自然環境をさらに詳しく認識して、視野が一層開かれるように、具体的なテーマで総合的な学習を企画した。全日程を通してグループ活動の形式をとる</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：なし</p> <p>参考書：小動物の分類同定のためグループごとに数種の図鑑を紹介する 飯田良治・民村吉編『課題研究・ゼミナールの手引』 萌文書林</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>10月4日 グループ研究のすすめ方(演習) 土壌中にすむ動物・草地にすむ動物・光に集まる昆虫の採集法 グループテーマの決定</p> <p>10月11日 昆虫類の同定(講義と演習)</p> <p>10月17日 昆虫類の同定(グループ活動)</p> <p>10月24日 “</p> <p>11月1日 標字写真・顕微鏡写真の技術指導と昆虫類の同定(グループ活動)</p> <p>11月21日 “</p> <p>11月28日 “</p> <p>12月5日 武蔵野の自然(講義)</p> <p>12月12日 “</p> <p>12月19日 “武蔵野自然図鑑”の企画と作成(演習)</p> <p>1月9日 研究レポートの書き方(講義)</p> <p>1月16日 研究レポート“武蔵野自然図鑑の作成と内容”の発表(演習)</p> <p>10月上旬に雑木林とあき地草地において、土壌動物の採集・草地動物の幌蚊張を用いた採集・夜間灯火採集を行う。これらの作業は教員の指導下で課外時間に行う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学習態度・作品“武蔵野自然図鑑”、発表を総合して行う。</p>	

【授業科目名】 環境Ⅱ	【担当者】 吉川研二 小作明則
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>自然教育と環境教育に立脚し、幼児教育の場としての自然を考える。人里の自然を「環境Ⅰ」で学んだ知識と技術を基に、私たちにとってなじみ深い人里の自然を総合的にとらえ、子ども達の観察の場、活動する場としてどう設計し利用するか。環境保全問題も合わせて考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：『子どもと自然』 岩波新書 『自然観察入門』 中公新書 参考図書：『エコロジカルデザイン・道と小川のビオトープづくり・草花遊び虫遊びカエルが鳴く山のたんぼ・小さな自然観察・野外における危険な生物環境教育のすすめ・日本型環境教育の提案』ほか多数。</p>	
授 業 計 画	
<p>I 講義</p> <p>II 講義と演習</p> <p>野外実習</p> <p>III 講義と演習</p> <p>IV 演習</p> <p>V 演習</p> <p>VI 講義</p> <p>VII 講義</p> <p>VIII 演習</p> <p>IX 演習</p> <p>X 演習</p> <p>補 演習</p>	<p>この科目の主目的とねらい 自然教育・環境教育の視点。人里の自然環境と動植物。</p> <p>地図の見方、利用の仕方 各種地図と航空写真。地形を読む。高さ／距離を測る。</p> <p>秋の里山の自然 現地で地形をみる。景観を見る。風景のスケッチ。 動植物の採集と観察。</p> <p>土地利用と植生図 航空写真と現地での記録などを材料に現地の植生図を作る。</p> <p>動植物の整理（1） 採集してきた動植物の名前を調べリストを作る。生態や習性を知る。</p> <p>動植物の整理（2）</p> <p>いきものにやさしい環境利用とは エコロジカルデザインーいきものと共生する町作りの例示紹介。</p> <p>子ども達にとってよい自然とは エンバイロメンタルヤードー子ども達による生物と子ども達のための自然を作る。</p> <p>子どもの遊び環境を作る 里山の自然の中に子供の活動域を作る。同時に自然の保全を考える。 いきものと共生できる幼稚園（園庭・園舎）を作る。</p> <p>子どもの遊び環境としての動植物 植物を使ってどんな遊びや創作活動ができるか。 採集や飼育対象の動物や危険な動植物など。</p> <p>まとめ</p> <p>まとめ</p>
<p>【評価方法】</p> <p>野外実習レポート 演習の総合レポート</p>	

【授業科目名】 言葉 II	【担当者】 佐々 加代子
【開講期】 2年後期	
【授業目標】 障害児を含めた乳幼児の言語発達過程において発達助成者として位置づく保育者に、さまざまな物的・人的教材を媒介として育む「方法論」の習得を目指す。個及び集団の発達に見合った教材の選択と技法を学び、さらに評価修正技術の習得に置く。	
【テキスト・参考書】 参考資料として提示するものとしては、1993年度、1994年度生の提出作品集がある。	
授 業 計 画	
<p>1) よくひびく、よくとおる声の養成 TRCを用いて反復・修正練習をしながら質を高めます。</p> <p>2) 教材を吟味する確かな目の養成 この場合の教材は絵本、紙芝居、童話、素話、パネルシアター、エプロンシアター、ことばあそび、手あそび、人形 その他の遊具など、素材だけでなく、それを保育場面で用いるときに対象児の年齢や場面、保育集団の中で生きるかどうかの判断をした上での内容教材であるかどうかという目を養うものです。ただ単に、自分が「これが好きだから」というだけではなく、選択する視点を学びます。 発想豊かになったとき、用い方はより広がりをもよおすようになります。</p> <p>3) 2) で選んだ内容(教材)の実践編として、上にあげた素材を教材として用いること。 実際場面を模擬的に作って実践してみます。 演習実践を通して自分の育ちをみつめ直したりすることや、未熟で課題としていくことなどを見ながら、技法として選出していくこともします。</p> <p>4) どのような状況や場面でも即応判断能力で実践していける応用力の養成 保育場面をコミュニケーション場面としておさえていきます。保育は子どもたちだけではなく、さまざまな人間関係も含みます。どのような人と出会ってもやっていける能力について「自分自身」をみつめることから始めます。</p> <p>演習形態で以下のことを実践してまとめていく。グループ活動でまとめるものとする。</p> <p>1. 絵本 1人10冊×5人=1グループで50冊 年齢別に区分し「言語」能力別に分類、要約、特徴、使用時の留意事項を記載してまとめる。</p> <p>2. 紙芝居 1人5冊×5人=1グループで25冊 絵本と同様にまとめる。</p> <p>3. パネルシアター ①「お正月」「節分」「昼と夜が半分ずつの日」から1つを選択して創話することとパネルシアターに製作する。 ②保育で大切にしたいテーマに創作話作成後パネルシアターに作製する。</p> <p>4. 手あそびを1グループ50種選定して覚えること。選出したものは小冊子にまとめること。</p> <p>5. VTRに収録 1人当り絵本、紙芝居、手あそび2、及びグループのパネルシアター2作品を収録する。</p> <p>個人の授業を終えた感想をまとめ、上記の作品を提出すること。</p>	
【評価方法】 ①平常点 ②提出課題の量と質 によって行う	

【授業科目名】 表現Ⅱ (リトミック)	【担当者】 新宅 泉
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>9歳プロ音楽教育法に基づき、技術の身に付く前、心で作る。感性の高い基か、保育者として為るリズム運動の経験。これ実践的に11歳児に与える幼児期音楽リズムの指導方法を身に付く。現場で使えりリズム遊び等多数紹介する</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：使用しなし</p> <p>参考書：0〜5歳児の11歳児指導(黎明書房)</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 9歳プロ音楽教育法の概観 (11歳児の原理、2歳児の身体にもつての意義) 小林宗作の総合リズム教育紹介 授業の進め方と成果を評価し、反省 (毎講時必ずしも反省を怠らざるべし)</p> <p>2. リズム運動Ⅰ 11歳児の体系 (リズム運動、ソルフェージュ、即興音楽) 筋肉の緊張と弛緩による運動 呼吸反応 (呼吸に合わせた運動) 四肢の独立 (右左、前後、中、足、コントロール)</p> <p>3. リズム運動Ⅱ 音の運動の分析 (リズムの時間的変化)</p> <p>4. リズム運動Ⅲ アクセント、拍節リズム</p> <p>5. リズム運動Ⅳ 拍節リズム、リズムパターン</p> <p>6. リズム運動Ⅴ ポーズ表現</p> <p>7. リズム運動Ⅵ カン</p> <p>8. リズム運動Ⅶ コンパージョン</p> <p>9. ソルフェージュⅠ 音の高低音階</p> <p>10. ソルフェージュⅡ 和音</p> <p>11. 声/即興法 和音Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いたリズム運動、ソルフェージュの課程を鍵盤の上で行う</p> <p>12. 総合リズム教育法 これらの項目による、毎講時 何種類かのリズム遊びを11歳児的に展開させる。</p>	
<p>【評価方法】 試験は行わず</p> <p>① 出席率 ② 平常点 (授業時の様子や即興音楽等)</p>	

【授業科目名】 表現Ⅱ (わらべうた)	【担当者】 茂手木 節子
---------------------	--------------

【開講期】 2年後期	
------------	--

【授業目標】 自分の民族のうたをうたうことから出発するというのが世界の芸術に目を向ける出発点となる——という Kodály Zoltán (ハンガリーの作曲家、音楽教育学者1902-1967)の理念を学ぶ。わらべうたが自己の内面の世界にどのようにイキカケていくかを感じながらうたうということの本質的な意味を知る	
---	--

【テキスト・参考書】	はじめに わらべうたを まめっちょ	茂手木節子著 全音出版 コダーイ芸術教育研究所著 全音出版
参考書	幼稚園・保育園の音楽	明治図書

授 業 計 画

実技中心の授業であり 講義(註)は 実技を意識化するためのものである。
 わらべうたあそび、こもりのたまごの鑑賞曲は 子どもたちのために、またカノン
 = 声曲は 自分の歌唱力と歌いかたのセンスを高め、よく聞こえる耳を養
 えるために行う。
 特異に わらべうたあそびは くりかえし行なうことで ステンジックを達して
 互いに閉き合ひぬかす合う体験になり、この実技なしに 理念を理解する
 ことは できないうで / 回/回を欠却に 出席してほしい。

- 1) 日本の伝承あそびによる音楽教育の方法について
 - ① 発達段階に即した 伝承音楽の与え方。
 - ② 音楽における母語、言葉と音楽の関係
- 2) 心理学的見地から考へる 伝承音楽の意義。
 - ① 喜怒哀楽の表現に対処する音楽
 - ② 日本の子もりのたまご、その否定論を考へる。
 - ③ 心の解放と音楽浴。
- 3) 音楽と子ども関係
 - ① 集団における自己表現
 - ② 情緒の安定
 - ③ 芸術性について

以上のことを 伝承あそびを体験しながら 講義します。

【評価方法】	白梅幼稚園のわらべうたの実践を見学し 分析、評価、感想を レポート用紙2枚程度にまとめる。
--------	--

【授業科目名】 表現Ⅱ（童謡）

【担当者】 平野 ミヨ子

【開講期】 2年後期

【授業目標】 保育の現場で役立てられるよう、今、子ども達が歌っているうたを中心に、音楽性豊かな童謡を数多く紹介し、その表現の方法を身につける。

【テキスト・参考書】

テキスト：大石みつ下村幸鳥居美智子共編 幼児保育のための 楽しい歌とあそび
(音楽之友社)
参考書：中田喜直小林純一編 現代 こどものうた 名曲全集()

授 業 計 画

子ども達に歌うことの喜び楽しさを伝えるためにはまず保育者自身の音楽的表現を深めていかなくてはならない。

幼稚園・保育園で、今、歌われている曲を中心に、2部合唱や、輪唱を折り込みながら、たくさん曲を楽しく歌っていく。

又、子ども達に新しい曲を教える時の為に、

グループに分かれて“今月の歌”を選曲。

同級生を子どもに見立て、実際に指導してみることによって、あんな、あんな、さまざまな問題を考え、現場での指導の足がかりとする。

テキストにない曲はその都度プリントして渡すのであるべく欠席しないようにすること。

【評価方法】

- ① 実技試験
- ② 指導の結果をレポート

【授業科目名】 表現Ⅱ(ダンス)	【担当者】若松美恵子
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>身体で表現する活動を通して表現の喜びを体験し、表現技術を高め、その文化的、教育的価値を認識させる。また、幼児の指導法についても理解させる。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>(1) 身体で表現することの意味や意義を学ぶ。 聴覚障害児が初めて舞台上でダンスを発表する過程を収録したビデオを鑑賞し、身体で表現する意味や意義について考えを述べ、話し合う。</p> <p>(2) 感じたこと、考えたこと、表したいことなどを身体で自由に表現する方法を学ぶ。 テーマ 動きのデッサン 動きの変化 フレーズの動き モティーフの動き 作品構成 中間発表 修正 踊り込み 作品発表 鑑賞(ビデオ収録) ビデオ鑑賞及び作品の反省と批評</p> <p>(3) 表現Ⅰ(身体表現)や創作活動で学んだことをふまえ、子どもたちが自由にのびのび表現するように保育者が援助する方法を学ぶ。 ①指導案作成(3歳児、4歳児、5歳児) ②模擬指導 ③反省と批評</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>舞台における実技発表および平常点</p>	

【授業科目名】 表現Ⅱ（デザイン）	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもは「描く」「つくる」という造形表現方法をミックスし、様々な目的をもって「デザイン」をしていく。その内容を理解し、同時にその援助指導内容の習得を目標に、演習を中心にして授業をすすめていく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に使用しない</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していく。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業の進め方などについての説明をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デザインの意味・役割・機能について 2. デザインと社会の関係について 3. 子どもがデザインする意味について 4. 子どものデザインの具体的内容について 5. 子どものデザインとその指導援助について 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容すべてを一冊のファイルやノートに工夫してまとめたものを評価する</p>	

【授業科目名】 表現Ⅱ 「劇」	【担当者】 志摩 弘
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>・ 学習過程を通して、演劇の創造を体験し、表現の楽しさを味わう。</p> <p>・ 創作活動を通して、表現の楽しさを味わう。</p> <p>・ 創作活動を通して、表現の楽しさを味わう。</p>	
【テキスト・参考書】 上演する脚本（児童劇）は用意する。	
授 業 計 画	
<p>第 1 講</p> <p>第 2 講</p> <p>第 3 講</p> <p>第 4 講</p> <p>第 5 講</p> <p>第 6 講</p> <p>第 7 講</p> <p>第 8 講</p> <p>第 9 講</p> <p>第 10 講</p> <p>第 11 講</p> <p>第 12 講</p>	<p>演劇とは何か。（講義）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演劇は、脚本（作者）、演技者（俳優）、観客の三大要素から成立し、しかし三者は一体である。 ・ 劇的契機について。 ・ 脚本について。 <p>演劇の出来るまで。（講義）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合芸術、集団芸術ということ。 ・ 演出の仕事。 ・ 稽古のすすめ方。 <p>演技の話。（講義と実技）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 脚本を決め、スタッフ・配役を決める。 ・ 読み合わせと立ち稽古。 ・ 演技とは。（講義） <p>読み合せ・位置決め（実技）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立って位置を決める。 <p>読み合せ、他（実技・自主活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽、装置、衣装等の打ち合せ。 <p>読み合せ（講義・実技）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な台詞の言い方。（講義） ・ 役の作り方。（講義） <p>立ち稽古。（実技・自主活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちだけで立ってみる。 ・ 小道具等を使って稽古する。 ・ 音楽、装置、衣装等のプランをかためる。 <p>立ち稽古。（実技・自主活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽、装置デザイン、衣装デザイン等決定。 <p>通し稽古（実技中間発表）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講評とこれからの問題。（講義） ・ 装置、小道具、冠り物、衣装等の製作。 <p>立ち稽古と製作。（実技）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不十分の所を小返し稽古。 ・ 装置、小道具、冠り物、衣装等の製作。 <p>舞台稽古。（実技）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最終打ち合せ。 <p>発表く公演 一できれば公開一（評価）</p>
<p>【評価方法】</p> <p>平常授業での「実技」を含めて評価する。</p>	

【授業科目名】 保育計画法	【担当者】 藤野 敬子
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもが環境とかかわりながら育つ保育の計画について具体例を通して学び、自分の手で計画を作成してみることにより、計画をたてるむずかしさ、楽しさ、工夫するおもしろさを体験できればと願っている。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：指導計画の作成と保育の展開（文部省）フレーベル館 110円 参考になる資料をプリントして配布する。</p>	
授 業 計 画	
<p>保育において、なぜ計画が必要か、なぜ環境の整備が重要視されるかについて考え、次いで個々の子どもにとって意味のある活動や園生活となるような計画、異年齢の子ども、障害をもつ子ども、家庭や地域との交流をめざす保育の計画、子どもと共に創り出していく保育の計画などを具体例を通して学び、みずからも計画作成を試み、実習の時の体験も生かしながら、計画の評価、記録のとり方などを検討していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育の計画について理解を深める。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境の中にこめられている保育者の願い (2) 一日の計画、長期の計画、の内容や形態 (3) 時間的、空間的に展開する実際例にみられる多様な子どもの姿と保育者の役割 2. 実際に計画をたてて検討する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 一つの活動、一日の計画、週の計画など (2) 実習において立案したり、実践したりした時の問題点 (3) 計画の評価や記録 3. 視野を拡げながら計画する楽しさを知る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 交流をめざす保育の計画と子どもの発見 (2) 子どもと共に創り出していく時の楽しさ (3) 家庭や地域と共に育ちあう喜び 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートと日常のミニレポート、作成した計画等</p>	

【授業科目名】 保育計画法	【担当者】 西ノ内多恵
【開講期】 2年後期	
【授業目標】 保育所に就職した場合、いずれかの組・年齢を担当することを前提に、そこで直面するであろう保育の計画についての諸問題を整理し、できるだけ保育の実際に迫れるよう具体例に即して、立案に至る経過、立案上の要点、評価などについて講義と演習を行う。	
【テキスト・参考書】 保育所保育指針（厚生省）	
授 業 計 画	
<p>この科目は、幼稚園免許取得のために開講されているが、幼稚園と保育所の保育内容の一元化という白梅独自のコンセプトにもとづき、後期は保育所保育に焦点を当てる。年齢的には0歳から年長クラスまでを対象とするが、前期担当者の藤野先生の授業内容とのからみで、3歳未満児クラスの指導計画にウエイトを置く。「指導計画はむつかしい」という学生の観念を打破し、「計画を立てる楽しさ」を体得してもらいたいと願っている。</p> <p style="text-align: center;">〔 予定する内容 〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・グループ編成・「保育の計画」について保育指針からの読み取り 2. 「保育の内容」の図式化（保育所保育指針と西ノ内試案について） 3. 9月の保育所実習での学生の指導案の検討（0歳～年長クラス） 4. 計画の実際（0・1・2歳児クラス） 5. 3歳未満児クラスの遊びの方法論（テーマ遊びを中心に） 6. ビデオによる保育の観察の練習（3歳児クラス） 7. 領域相互に関連する遊戯性をもたらした活動例の紹介（年長クラス） <p style="text-align: center;">※ 学生の実態と要望により、多少の内容的な伸縮もあり得る。</p>	
【評価方法】 ① 時間内のミニレポート ② グループレポート ③ その他	

【授業科目名】 乳児保育Ⅱ	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 2年前期	
【授業目標】 乳児保育Ⅰの基礎の上に、乳児保育を具体的、実践的に、多面的、構造的にとらえることを目標とする。	
【テキスト・参考書】 参考文献 授業時に紹介する。	
授 業 計 画	
<p>以下の項目にそって、家庭や保育所のおかれている状況、実際の姿やさまざまな乳児保育の実践例を学び、具体的な課題意識を育てる場としたい。その際、乳児保育をよりよいものにしていくために、また自分の保育者としての力量を高めていくために何が大切なのかということや乳児保育のあり方、内容、方法をとらえる基本的視点を深めていきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)乳児保育の内容と方法 (2)乳児保育をめぐる諸問題の検討 (3)乳児保育をめぐる思想・理論的問題 (4)家庭との連携 	
【評価方法】 (1)筆記試験 (2)授業時の感想・レポート	

【授業科目名】 養護内容	【担当者】 浅井春夫
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>① 養護原理Ⅰ・Ⅱを踏まえて、施設養護の実践内容を学ぶ</p> <p>② 演習形式を通して、実践能力を養成する</p> <p>③ 施設児童とのコミュニケーションの方法を学ぶ</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：トリーシュマン他著、西澤哲訳『生活の中の治療』（中央法規）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>上記のテキストを輪番でレポートし、具体的なテーマに即してロールプレイ、ビデオを使っての評価など、実際に言語的・非言語的コミュニケーションのあり方について実習してみる。</p> <p>授業をともにつくる姿勢で出席することがもとめられる。</p> <p>(1) 問題意識の交流、授業計画・方法の確認</p> <p>(2) 治療的環境の特性</p> <p>(3) 人間関係形成の入口</p> <p>(4) 活動プログラムについて</p> <p>(5) 起床時の行動と治療的関わり</p> <p>(6) 食事と治療的関わり</p> <p>(7) 就寝時の行動と治療的関わり</p> <p>(8) かんしゃく行動の理解</p> <p>(9) 子どもの行動の観察と記録</p> <p>(10) 治療的な関わりを妨げるもの</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>① 出席状況と授業への積極的姿勢</p>	

【授業科目名】 障害児保育	【担当者】 高橋まゆみ
【開講期】 2年前期	
【授業目標】 <p>障害児の行動特徴や発達課題を理解し、障害児保育、主に統合保育における保育実践のあり方を考える。</p>	
【テキスト・参考書】 <p>テキスト 平山諭ら「障害児保育コンセンサス」（福村出版）</p>	
授 業 計 画	
<p>「障害児保育」とは、専門施設における少集団保育（分離保育）を指す場合と、保育所、幼稚園におけるいわゆる「統合保育」を指す場合とがある。障害児を理解する上では発達をとらえそれを援助する保育実践を行う点で共通するが、実践課題としてはここでは「統合保育」を中心として考えていく。</p> <p>授業内容は主に理念、制度、発達評価、保育実践から主要なテーマを取り上げる。</p> <p>特に、障害児の行動特徴を理解し求められる発達課題はなにかについてこれまでに学習してきた発達心理学的な知識を使いながら評価し、それをより豊かに援助するための保育実践を治療教育的視点と社会教育的視点から理解することを目標とする。授業には実践資料やVTRを使用し、具体性、実践性を伴った学習ができるように配慮する。</p> <p>およそ、以下の項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ノーマライゼーションの思想とインテグレーションの理解 ② 「障害」の概念と構造－保育における「障害」とは ③ 障害児保育（統合保育）の実際（VTR等を使用） ④ 障害の理解－知的障害、自閉症、言語障害、重複障など ⑤ 子どもの発達および発達課題の評価 ⑥ 障害児保育の実践1（実践レポート、VTRなど使用） ⑦ 障害児保育の実践2（実践レポート、VTRなど使用） ⑧ 我が国における統合保育の現状と課題 ⑨ 家族への支援 ⑩ 障害児と地域、専門機関との連携 	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> ① 平常授業の中で整理テストや討論を適宜行う。 ② 統合保育実践のVTR分析あるいは実践報告のレポートをまとめる。 	

【授業科目名】 家庭管理

【担当者】 佐藤 美千子

【開講期】 2年後期

【授業目標】

児童の成長発達に大きな影響を及ぼす家庭の本質と機能も把握し、家庭管理の意義と実際—家族関係、家事労働、生活時間の管理などについての基礎的な事項を学び、家族や家庭生活への洞察力を培う—助としない。

【テキスト・参考書】

テキストは 使用しない。

参考書：宮崎礼子・伊藤セツ編『家庭管理論(新版)』有斐閣新書

授 業 計 画

「家庭管理」という科目名から、古いイメージの「家事・家政」を思い浮かべ、「やりくり」の方法を学ぶとを連想するかもしれない。しかし、ここでは、家庭の経営管理もそのような「家庭内のやりくりごと」として捉えてはならない。

この授業では、次の2点を重視していきたい。

- ① 家庭の本質を「生命および人間活動力(労働力)再生産の営み」として捉える。
家庭生活内題の発生原因を家庭外にも積極的に追求し、解決の課題を広げて考えていく。
- ② 家庭生活を人間の全般的発達保障の場として捉える。
「家族の中の個人」と「共同体としての家族」の矛盾のない発達を実現していくために、性別を超えた男女の平等と生活協力のあり方を考えていく。

授業で取り上げる項目は、おおよそ次のとおりである。

1. 家庭生活の構造と家庭管理の問題領域
2. 家族の変化と家族関係、ライフサイクル
3. 家事労働の役割と特質、家事労働をめぐる論争と今日的動向
4. 生活時間の構成要素と現状、課題
5. 家計の今日的動向
6. 生活設計—自分と有る、家庭と営み、地域や職場で(社会的保育労働の担い手として) 確実な歩みを続けるために—

【評価方法】

- ・ 学期末のレポート
- ・ 平常点 および 授業時の感想文 (不定期)

【授業科目名】 音楽Ⅰ（基礎技能）（ピアノ）	【担当者】 下記参照
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 2年生後期のテストで第3グレードを合格すればよいことになっているが、なるべく2年前期テストで第3グレード合格の実力を身につけるように目標を高く置いて努力してほしいと思います。2年生後期テスト時には、連結の為のペダリングを取り入れた演奏を目標として頑張ってください。	
【テキスト・参考書】 テキスト：「Piano Method」 鷺見五郎著 共同音楽出版社 参考書：ツェルニー30番、バロック、古典、ロマン派、近代、現代のピアノ曲集他	
授 業 計 画	
<p>1年後期と同様です。</p> <p>演奏技術の初歩をマスターした初心者にとて、2年後期の半年間はいよいよ曲らしい曲への挑戦です。苦しい練習ばかりが続き、自分の好きなポップスミュージックなどでひと休みしたくなるとは思いますが、クラシックピアノのマスターは、全ての鍵盤楽器の道へ通じる基点ですから、頑張ってください。</p> <p>【担当者】 秋山治子・稲村敬子・岡 益代・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・諏訪羚子・瀬戸由起子・関根美和子・平さわ・西澤和枝・西山裕子・野村真理子・福嶋省吾・藤島恵子・舛本清美・山本由紀子</p>	
【評価方法】 実技グレードテスト（前期7月 及び 後期2月）	

【授業科目名】 音楽Ⅰ（基礎技能）声楽	【担当者】 加宮 葵・惣田 修・平野ミヨ子
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>小グループでの発声練習や練習曲の視唱になれて来た所で一人ずつの視唱にかえてゆき、人の前での(無伴奏・伴奏付)演奏が自由に出来る様になる事を目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト : ソルフェージュ : コンコーネ50番</p>	
授 業 計 画	
<p>① 45分の授業の中で、学生を2つのグループ(A・B)に分割し、ソルフェージュを隔週に1回ずつ必ずソロする事を義務づけ、人の前での演奏(無伴奏)に慣れる。</p> <p>② コンコーネをソロする事は任意とし、学生全員の前に出て演奏する(伴奏付)事により、自発的に進んで歌える様にする。</p> <p>③ 伴奏付の練習曲をこまかく練習する事により、曲をきれいに、楽しく歌えるようにする。</p> <p>④ 後期では、複雑な音程やリズムを正しく歌う練習をする事により、読譜力、正しい音楽表現力を養う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>期末試験の成績、平常点、出席点</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅱ（ピアノ）	【担当者】 秋山 治子・諏訪 羚子・関根 美和子・舛本 清美
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p data-bbox="130 320 283 353">【授業目標】</p> <ol data-bbox="181 394 978 465" style="list-style-type: none"> 1. 音楽Ⅰ（ピアノ）で習得した演奏技法を更に広げ高める。 2. 幼児歌唱教材の即興伴奏法を身につける。 	
<p data-bbox="130 542 398 575">【テキスト・参考書】</p> <p data-bbox="181 575 1110 609">テキスト：即興伴奏のための鍵盤和声 近藤治義著 ドレミ楽譜出版社</p> <p data-bbox="181 609 1287 642">参考書：お母さん弾いて！先生うたって！ 秋山治子著 アイ企画 他 幼児曲集</p>	
<p data-bbox="613 723 906 757">授 業 計 画</p>	
<p data-bbox="142 866 1373 974">音楽Ⅰ（ピアノ）と同時進行のため、ピアノを始めたばかりの人にとっては、演奏技術を更に高めることも目標のひとつとしながら授業を進めてゆきます。</p> <p data-bbox="174 1014 769 1048">授業の一番大きな目標は、伴奏法の習得です。</p> <p data-bbox="174 1088 973 1122">実技を通して基礎的な和声理論を学んでゆく方法をとります。</p> <p data-bbox="174 1162 1263 1196">種々の楽しい曲に触れながら、自分で伴奏を付ける楽しさを実感できると思います。</p> <p data-bbox="142 1236 1365 1341">他に、クラシックやポップスの連弾でリズム感を養ったり、幼児曲を数多く弾けるようにするのが目的です。</p>	
<p data-bbox="130 1892 272 1926">【評価方法】</p> <p data-bbox="330 1926 636 1960">平常授業で評価します。</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅱ (ギター)	【担当者】 小山 勝
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 独奏や合奏、あるいは歌の伴奏に広く親しまれているギターの演奏の基本を理解し、自分自身の演奏を試みるまでの知識とテクニックを学ぶ。	
【テキスト・参考書】 「新ギター教本」小原安正・著 ギタラ社・刊	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> • 基本事項 • 左右の手の使い方 • 音階練習 • 和音とアルペジオ • 二声部のソロ • コードの理解 	<p>楽器の保持の方法、楽譜上の記号の理解、調弦の方法。</p> <p>右手のタッチ(アル・アイルとアポヤンド)の理解。体、腕、手のコントロール。左手の構え方と指使いの理解。</p> <p>オ1ポジションでの全音階(ハ長調、イ短調)と半音階のトレーニング。</p> <p>三声の和音和音パターン(4拍・8小節)とアルペジオ(分散和音)の練習。</p> <p>古典派のギター曲の中からローポジションによる小品2〜3曲の演奏を実習。</p> <p>簡単なコードの理論と基本的なコードネームの理解、コードネームからの演奏の実習。</p>
【評価方法】 期末試験(実技)に平常点を加味して評価する。	

【授業科目名】 音楽Ⅱ（うた）	【担当者】 加宮 葵・豊野雄次郎・平野ミヨ子
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>前期：初見視唱と暗譜を義務づける事により、人の前で歌う事に自信がつき、楽しいと感じられる様にする。</p> <p>後期：暗譜した曲を、自発的にソロする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト : サルバトーレ・マルケージ op. 15</p>	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分から希望し選択した科目であるため、一人で歌う事を義務づける。 ・一つの音を、持続しながら cresc. したり dim. したりし、自然なふくらみの美しさを学ぶ。 ・言葉がつく事により、発声がむずかしくなる事を知る。 ・全音階の練習 ・暗譜演奏する事により、声がより前に出る事を知る。 ・言葉の意味をよく理解し、自分なりの曲想をつけて演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・後期に入ると、学生が非常に積極的に一人で歌う事を希望する様になるため、自然な形で練習曲・歌曲共にややむずかしい曲へとすすめてゆく。 ・付点のスケール習得 ・短調による音階の習得 ・半音階の音のとり方のむずかしさを知る。 ・前期から練習して来た練習曲・歌曲を、暗譜で時間いっぱい歌えるという事で、大きい満足感を得る事が出来る。 ・緊張の中で歌う事を経験するために、全員が任意の一曲を独唱する。(テスト) <p style="text-align: center;">*毎時間楽しい歌曲を歌える様に考えている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（出席点と実技点）</p>	

【授業科目名】 図画工作Ⅱ（版・木工）	【担当者】 捧 公志郎・花原 幹夫
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>図画工作Ⅰで学んだ保育者としての造形表現の基礎技能の中から、特に「版・木工」を通して、それぞれの表現の知識と技能の専門性を高め、表現の広がりをめざすことを目標とする。演習を中心に展開していく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に使用しない</p>	
授 業 計 画	
<p>以下のテーマについて授業を展開していく。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと授業の進め方などについての説明をする。</p> <p>「版」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 版の表現の意味・役割について 2. 版を応用した表現とその種類について 3. 版を応用した表現の実技演習 <p>「木工」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 木工の表現の意味・役割について 2. 木工を応用した表現とその種類について 3. 木工を応用した表現の実技演習 	
<p>【評価方法】</p> <p>実技演習で製作した作品を評価する</p>	

【授業科目名】 体育I	【担当者】若松美恵子・高野牧子
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼児の運動に関する発達をふまえ、必要な運動の方法とその指導法を学ぶ。また保育者として適切に運動が行えるよう資質の向上および体力の増強をめざす。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト；石井美晴・菊池秀範編「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
授 業 計 画	
<p>前期は「自ら動ける身体作り」をめざし、将来保育者として創造的、自主的に動けるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 運動の極限までのびのびとリズムカルに身体を動かすことができるようにする ② 自分で多様な動きを豊富にみつけ動けるようにする ③ 動きの連続がなめらか、かつ起伏をもったある感じをとらえた一連の動きを作れるようにする ④ 表現したいものになりきって動き、身体で表現できるようにする <p>内容：オリエンテーション、幼児体育概論 体操 遊戯 基礎的ステップ 動きの開発（身体の部位、運動の種類の側面から）－1人で、2人で、3人で－ある感じをとらえた一連の動き作り</p> <p>後期は幼児の身体的、精神的、社会的発達をふまえながら特に体力、運動能力の発達について理解を深める。この理解の上に子どもの活発な身体運動を促し、援助するという立場から指導法について学ぶ。</p> <p>内容：幼児期の体育の意義と内容 体力の発達 運動能力の発達 体育指導の目的とねらい 運動内容と指導上の留意事項 体育の今日的課題 運動あそびの教材研究と指導法（体操 フォークダンス 鬼ごっこ 模倣遊び ボール マット 跳び箱 鉄棒 平均台 輪 縄 伝承遊び 遊びの創作）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>前期に実技試験を2回行い、学年末の筆記試験の成績と合わせて評価する。</p>	

【授業科目名】 体育Ⅱ	【担当者】 榎本 至
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>本授業では、あくまでも「遊び」という要素を失わずに、かつ子供達の運動能力をスムーズに伸ばしていくための様々なドリル、ゲームを紹介する。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>子供達と身体を動かして遊ぶときに、先生はどんな「遊び」を選びますか？「サッカーやろう」「ドッジボールやろう」すでにルールの出来上がっているスポーツ、遊びを持ってきてやらせることは、簡単なことかも知れません。いわゆる運動神経のよい子供達は、それらの遊びで充分楽しむことが出来ます。しかし様々な実習経験を重ねてきている皆さんならおわかりのように、集団の中には上手な子もいれば下手な子もいます。すでに出来上がっているルールとは、言い替えれば長い歴史の中で洗練されてきて、「ある程度出来る子のためだけの」ルールになっていることが少なくありません。従って、「普通のルールでは楽しめない」子ども達が出てくる可能性があるのです。出来る子達は、ほっておいても自分達でどんどん遊びます、出来ない子を置き去りにして。そこで先生の出番になります。「出来る子も出来ない子も一緒になっている集団に対して、彼ら全員を満足させ、楽しませ、かつ出来ない子が出来る子になっていくような遊びの指導」そんなことが出来るのでしょうか？ yes, それが「プロ」というものです。その第1歩として、以下のように授業をプランニングしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●身体を使った遊びの紹介、工夫 ●ボールを使った遊びの紹介、工夫 ●縄を使った遊びの紹介、工夫 ●マットを使った遊びの紹介、工夫 ●フープを使った遊びの紹介、工夫 ●その他 <p>自分が指導する立場になったときのことを頭に入れて、授業を受けられることを希望します。その方が皆さんにとって効果があるからです。</p>	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポート ●実技の授業であるため出席をきわめて重要視します 	

【授業科目名】 ゼミナール	【担当者】 秋山 治子
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳幼児にとっての音楽経験について考察や文献研究を行い、実際の音楽あそびや音楽指導、音楽教育について実践研究等を行う。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：「音楽あそび1・2・3」秋山治子他、図書館や資料館の文献。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>子どもの日常生活の中での音楽経験。</p> <p>音楽教育としての音楽指導。</p> <p>集団保育の中で行う音楽指導。</p> <p>子どものあそびと音楽の関係。</p> <p>人格形成と音楽指導について。</p> <p>日本における音楽教育の歴史。</p> <p>日本の`子どもの歌`の返還。</p> <p>上記のようなテーマをメンバー全員で話し合い、テーマを決めて、全員が手分けして資料や文献の研究に当たる。しかし、実技、実践の伴わない音楽研究に陥らないために、毎回なるべく子どものうたや合奏曲を演奏し、現在の幼稚園や保育園の現状を知り深めてゆくことも合わせて授業の内容としたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートまたは創作作品と日常の平常点。</p>	

【授業科目名】 セミナル	【担当者】 浅井春夫
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 ① 幼児期の性教育の内容・あり方について深める ② 各自が研究テーマをもち、論文作成に取り組む ③ 保育・福祉の現代的課題の発見と現場状況を知る	
【テキスト・参考書】 テキスト：ゼミ開講時に指定する	
授 業 計 画	
<p>性教育とは、性に関する人間関係の学習のことである。人間にとって性をどのように考えるのかは、その人の人格と生き方の根幹にかかわることといえよう。</p> <p>わが国の場合、現在までは学校での性教育が中心であったが、本ゼミでは、幼児期の性教育のあり方について考えてみる予定である。前期は、性教育の文献購読をおこない、後期に入ってから、個人研究を重視していく予定である。</p> <p>わがゼミでは、とくに保育や福祉の現場での体験学習をできるだけ取り入れていく。また最終的には、個人論文の作成を通してゼミの修了とするので、子どものセクシュアリティ、性教育、性的虐待、保育所、児童福祉における諸問題など広範囲のテーマから論文執筆にチャレンジすることがもとめられる。</p> <p>前 期 ： 文献購読を中心に 学外研修： 現場見学、個人研究テーマの検討 後 期 ： 個人研究の追究、論文作成、研究発表</p>	
【評価方法】 ① ゼミ活動への参加状況 ② 卒業論文の作成	

【授業科目名】 ゼミナール	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 「あそび」の研究	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>子どもの発達にとって「あそび」は不可欠である。</p> <p>子どもにとって生命でもあるといわれている「あそび」について理論的実践的に研究を進める。</p> <p>あそびの基本的な理論の学習と、子どもの実際のあそびについての分析を行うつもりである。</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】 ゼミナール	【担当者】加宮葵
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>このゼミでは、「よりよい声を出すために」を目標にしています。 この目標を達成するためには一人一人の地道な研究と努力が必要であること、「よりよい声を出す」という事には正しい発声の理論があること、等をきちんと認識させたいと考えています。 その成果の発表として、コンサートでの演奏、ミュージカルの公演等を考えています。</p>	
<p>【テキスト・参考書】参考書 : 森山俊雄「発声と共鳴の原理」 : 永吉大三「発声法の理論と技法」 : コーリュース・リード「ベル・カント唱法」 : 加古三枝子「歌のうたい方」</p> <p style="text-align: right;">} 研究室にすべて用意してある</p>	
授 業 計 画	
<p>このゼミでは、今までより少しでもよい声が出せる様になりたいと考えている、歌うことの大好きな学生が集まっています。</p> <p>まず発声のための基本姿勢、呼吸法等の指導から始めます。同時に、個人レッスンの形式で発声の練習を進めてゆきますが、まず、自分の声の声質をよく知る事が必要です。</p> <p>声質は約16のパターンにわかれますが、一人一人がどのパターンに属するかのチェックをします。 よい声はよりよく、欠点の多い声の場合はその一つ一つをこまかく矯正し、よりよい方向へと指導します。 その後、声質にあった歌曲等のやや専門的なレッスンに入ります。</p> <p>その勉強の成果は、ゼミ員の自主的な催しとして、クリスマスコンサートや新春コンサート等、演奏の形で発表します。 また、ゼミ全員の大きな目的としての、ミュージカルを創り上げてゆきます。</p> <p>こまかい授業のすすめ方やミュージカルの選定は、ゼミのメンバーとの話合いで決定します。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点</p>	

【授業科目名】 ゼミナール	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】 モンテッソーリの保育を主題にし、その理論を知り、実践にふれることから、保育科における他の学習と合わせて自分の子ども観、保育観をもつに至る基盤を築いてほしいと願う。文献から学び、考え、話し合い、まとめていく力、仲間とともに一つの主題について研究をすすめ、理解を深めていく力を育てることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 テキスト：（まず初めに）市丸成人『モンテッソーリ教育学入門』学習研究社 参考書：クラウス・ルーメル編『モンテッソーリ教育の道』学苑社 その他随時紹介</p>	
授 業 計 画	
<p>学生と十分話し合い、その理解と興味を確かめながら、ゼミナール活動を以下のような内容と順序で進めていくことにしたい。</p> <p>I. 文献を通してモンテッソーリその人を知り、その保育の理論の基本を学ぶ。教育課程の組み立て（構造）と教具の果たす役割、そしてその基礎にある子ども観を理解する。同時に、本の読み方、発表や話し合いのしかたなどについても学習する。</p> <p>II. モンテッソーリ保育を行っている園を見学し、保育者から話をきく機会をもつ。整えられた環境の中での子どもの生活と保育を観察し、子ども相互のかかわり、子どもの活動、そして保育者のはたらきを見る。 敏感期、集中現象、正常化などについて考える。</p> <p>III. 主題にかかわりながら2つ3つのグループに分かれ、自分たちの研究課題をもって学習をすすめる。文献資料を集めたり、さらにモンテッソーリ保育を行っている園に見学や質問に行くこともある。疑問や批判をもつこともあろう。</p> <p>IV. 学習をまとめ、各グループが互いに報告し、またゼミナールの発表に備える。ここまでの活動を通してモンテッソーリについての理解が確かになることを期待する。教具について学び子どもたちのかかわりを見る中から保育実践のための手づくり教具などを工夫することにもなろう。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>① ゼミナール活動への参加 ② 活動中での口頭発表や提出レポート</p>	

【授業科目名】 ゼミナール	【担当者】小松 歩
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>早期教育を題材とし、現状や問題点などを整理することを通して、発達的な観点から、子どもの立場にたった保育・教育はどうあるべきか、自分たちなりの考えをまとめる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：使用しない</p> <p>参考書：授業のなかで紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>ゼミナールテーマ</p> <p>「保育を科学的に考える——子どもを正しく理解するために——」</p> <p>現在、子育てや保育に関する情報は数多い。そのなかには早期からの才能教育が英才を作り出す、という意見もある。こうした意見に基づく早期教育に関しては、その効果や、その後の発達におよぼす影響など、まだ明かでないことも多い。ところが、多くの親はそのことにはとくに疑問ももたずに子どもを「教室」に通わせているのが現状だと言える。このように、保育や教育が、主観とか印象・偏見・独断・迷信などに基づいて行なわれている例は少なくない。これからの保育者には、あふれる程の情報の中から、ほんとうに正しいものは何かを選択できる目が求められよう。</p> <p>そこで本ゼミでは、早期教育を題材にし、肯定論・否定論双方について資料を収集し、現状や問題点などを整理し討論していく。そして発達的な観点から子どもの立場にたった保育・教育はどうあるべきかなど、自分たちなりの考えをまとめていきたい。</p> <p>また、白梅祭などにも参加するなど、ゼミ員各自が積極的に活動し、相互の交流も深められていけるようなゼミ運営を期待する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>①平常点</p> <p>②学年末レポート</p>	

【授業科目名】 ゼミナール	【担当者】 近藤正樹
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 身近な自然事象について、認識を深めるための体験を大切に、まだ知らなかったことや疑問を解くために、個人単位で研究をしていただきます。この学習を通して研究の企画・実施・論文の書き方・口頭発表のしかたについて体験することになります。	
【テキスト・参考書】 テキスト：田中未来 編著 『保育研究の視点と方法』川島書店 刊 参考書：飯田良治・民秋言 編 『課題研究・ゼミナールの手引』萌文書林 刊 その他個別に指し示す	
授 業 計 画	
<p>(前期)</p> <p>4月11日 テキスト輪読 研究テーマの検討開始 4月16日 ゼミ遠足 真鶴島岬の自然観察 4月18日 テキスト輪読 4月25日 テキスト輪読 研究テーマと研究計画書提出 5月9日 研究テーマ検討会 研究開始 5月17日 個人計画による研究 研究相談 6月13日, 20日, 27日 個人計画による研究 7月4日 研究内容の中間報告 7月26日～28日 ゼミ旅行 (行先未定)</p> <p>(後期)</p> <p>10月3日 研究計画の再検討 10月17日, 24日, 31日, 11月21日, 11月28日 研究成果の提出 12月5日 講義『論文の書き方』 12月12日 個人での論文作成作業 12月19日 個人研究論文の提出 1月9日 論文の添削指導・口頭発表の注意 1月16日 ゼミ内の論文口頭発表 2月13日 ゼミ発表会・ゼミ内指導</p>	
【評価方法】 学習態度・研究計画と方法・論文・口頭発表を総合して行う。	

【授業科目名】	ゼミナール	【担当者】	佐々加代子
【開講期】	2年前期・2年後期		
【授業目標】	<p>教員と少人数のメンバーと共に、さまざまな活動をとうして“創りあげること”をねらいとする。自分自身のなかに、考えられる人、行動できる人、創造できる人、をめざすことにある。</p>		
【テキスト・参考書】	<p>随時提供する。</p>		
授 業 計 画			
<p>ゼミナール・ガイドの内容をここに転記する。</p> <p style="text-align: center;">ことばを育てる</p> <p>あなたとあなたのまわりの人たちの「ことば」に目、耳を向けてみて下さい。使われている話ことばや書きことばは、今、感学、感音での表現があふれています。一種の表現の幅や広がりではあるのですが、生き続けていく文化の中でこのような「ことば」はどのような意味を持ってくるのでしょうか。日本語は、美しい響きをもち、豊かな語いを持っている言語です。</p> <p>次々代を担う子どもたちとかかわる保育者たちが、素敵な表現力をもっていることや、素敵な内容のある物語などをかたることができることは、子どもたちの「ことばを豊かに育てる」ことになります。</p> <p>一年後のあなたの姿として描いているのは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまな子どもたち（乳児、障害児、帰国子女、外国人）と、どのような場面でもよいかかわり方ができること 2. さまざまな場面での大人との対応で、きちんとした表現ができること 3. 美しい日本語が話せること、です。 <p>ことばを育てる対象児・者は、子どもたちとあなた自身です。豊かに育てる為の知識をふまえた方法論は……期待して下さい。さまざまな出会いや経験の場を用意しています。</p> <p>ゼミで学んだことが次なる「ことばを育てる」ステップになるようにと願っています。</p> <p>実際には、保育者としての質につながる内容を検討した上で、活動を提示する。</p>			
【評価方法】	<p>平常点で行う。</p>		

【授業科目名】	ゼミナール	【担当者】	佐野 英司						
【開講期】	2年前期 ・ 2年後期								
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 住民（児童、障害者、高齢者等）の生活実態を学ぶ 2. 生活実態から派生する生活課題・福祉課題を明らかにする 3. わが国の社会福祉制度を生活課題・福祉課題との関係で捉える 4. ノーマライゼーションの理念と生活援助の視点、援助実践の方法を学ぶ 								
【テキスト・参考書】	ゼミ開講時およびゼミ開講中に必要に応じて示します。								
授 業 計 画									
<p>このゼミでは、地域で生活する住民（児童、障害者、高齢者をはじめとした地域住民）が、住み慣れた地域社会で、ひととしての暮らしを営むには、どのような援助が必要とされるのかを発達保障の観点から学んでいきたいと思ひます。</p> <p>前期では、既存の調査報告書や文献を中心に、わが国の住民の生活実態と生活課題・福祉課題を学び、後期には、各人の研究テーマに基づいた研究を中心に進めていきたいと思ひます。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">4月～7月</td> <td>既存の調査報告や文献中心に学習</td> </tr> <tr> <td>学外研修</td> <td>福祉現場見学研修、個人研究テーマの検討 夏期休暇中の学習計画の作成</td> </tr> <tr> <td>10月以降</td> <td>個人研究の追求、論文作成、研究発表</td> </tr> </table>				4月～7月	既存の調査報告や文献中心に学習	学外研修	福祉現場見学研修、個人研究テーマの検討 夏期休暇中の学習計画の作成	10月以降	個人研究の追求、論文作成、研究発表
4月～7月	既存の調査報告や文献中心に学習								
学外研修	福祉現場見学研修、個人研究テーマの検討 夏期休暇中の学習計画の作成								
10月以降	個人研究の追求、論文作成、研究発表								
【評価方法】	ゼミへの出席状況、研究テーマへの積極度、卒業論文の作成状況								

【授業科目名】 ゼミナール	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 よりよい乳児保育を求めて 乳児保育の現状を取上げて、よりよい乳児保育のあり方を探る。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>1. 子どもをよくつかみ、子どもの実態に即した保育をどう作りだしていくかを考えること。</p> <p>2. 親の労働・子育ての実態や意識・要求をよく把握し、親と一緒に子どものよりよい保育を考えていけること。さらに親の労働や生活の実態の背後にある社会の動向にも広く目をむけること。</p> <p>3. 子どもの豊かな保育園生活や保育内容を作りだすために、文化を見る目を豊かにすること。</p> <p>よりよい保育を作りだす上ではこのような保育者の力量が求められていると考えます。この点を踏まえながら、乳児保育をめぐる様々な問題の中から、テーマを絞り、検討していきたいと思えます。</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】	ゼミナール	【担当者】 高橋まゆみ
【開講期】	2年前期・2年後期	
【授業目標】	<p>障害児や引っこみ思案児あるいは保育の中で”気になる子”など、発達に遅れや弱さをもつ子どもたちについて、子どもの発達を適切にとらえ保育実践における援助のあり方について考える。</p>	
【テキスト・参考書】		
授 業 計 画		
<p>近年、障害児と健常児が同じ保育空間で生活をする統合保育が進められ、子ども一人ひとりの育ちを重視した保育のあり方がさらに求められてきている。また、障害児ではないにしても、遊びが上手に展開できない子、仲間の中に入れていない子、引っこみ思案の子など、いわゆる保育の中の”気になる子”についても、彼らの発達や育ちをどのようにとらえ、どのような援助を準備したらよいか実践課題となっている。</p> <p>本ゼミにおいては、このような子どもの発達に注目した保育実践のあり方について研究していくことを目的とする。保育実践とは、「子どもの発達や行動特徴を適切に評価し」→「現在の発達課題をつかみ」→「実践を計画・実施して」→「実践を評価する」ことを繰り返しながらよりよい実践を積み上げていくものである。発達に遅れのある子に対する保育であってもそうでない子に対する保育であっても基本は同じであるが、このような保育実践を実現するためには、まず、子どもの遊びや生活から発達あるいは発達課題を読みとることが求められる。そのための子どもの発達に関する基本的な知識と視点をおさえる学習を計画している。さらに、子どもの発達を援助するような実践作りを経験していく。</p> <p>ゼミ前半は、発達心理学をベースにしながら「子どもの育つ姿」について図書や文献研究を進める。あるいは統合保育実践現場や障害児施設を観察し、実践のあり方や発達評価についてじっくり学ぶ。</p> <p>ゼミ後半は、前半の研究検討をふまえ各自がテーマをもって子どもの発達・実践研究を進めていく。</p> <p>例として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の仲間関係の発達について ・幼児における対人関係の発達について ・統合保育における障害児の事例研究 など。 ・統合保育における健常児・障害児間の相互交渉について など。 <p>実際に子どもたちに接する機会をもちながら「発達を見る目」を養う。保育者としての基本をじっくり身につけ、より豊かな保育実践を目指すことが目標である。</p>		
【評価方法】		

【授業科目名】 ゼミナール	【担当者】 都留 民子
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】 人間生活を把握する際の「社会福祉的視点および方法」を学ぶ。 「豊かな国」日本の住民の生活問題の「核」を捉えさせ、「社会福祉」の制度とその活動の方向性を考える。 社会福祉を従来の狭い意味ではなく、広く生活問題の解決を目指す方策と捉え、日本の福祉のあり方をラディカルに(根本的に)捉えていく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>主に、論文、調査資料を用いる。その他参考文献は適宜ゼミにおいて指定する。</p>	
授 業 計 画	
<p>1) 社会福祉とは「その国の住民が一人残さず、人間の尊厳に値するだけの生活をおくることがを保障するシステム」であり、「人権の土台である生きることへの権利」の実現化であることを、社会福祉の歴史から学ぶ。</p> <p>① イギリス、フランスの社会福祉の歴史 ② 日本の社会福祉の特殊性</p> <p>2) 日本において「生きることの権利」が侵害されている人々の生活実態を学ぶ。(適宜、見学調査も実施)</p> <p>① ホームレスの人々 ② 外国人(オールドカマー、ニューカマー) ③ 高齢者 ④ その他(自然災害被災者等)</p> <p>3) 2)の問題別に日本と外国(イギリス、フランス)の社会(福祉)政策と社会福祉実践活動の比較検討。</p> <p>4) 以上を通じて、わが国の社会福祉のあり方を検討・討論。</p>	
<p>【評価方法】 ゼミにおける各自の報告・発表を中心に評価。</p>	

【授業科目名】 ゼミナール	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>大きくは「子ども・造形・遊び」について、協同で研究する。共通の具体的なテーマと目的にそって各自が主体的に問題意識を持ち、協同しながら研究をしていく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に使用しない</p>	
授 業 計 画	
<p>特に「保育とデザイン」というアプローチで研究をすすめていき、「モノのデザイン」と「コトのデザイン」を考え、さらに「子どものデザイン活動」をどうとらえていくかを保育現場などで実践的な方法論を用いながらすすめていく。研究の具体的なテーマ・目的・方法については、話し合いを通して初期の段階で決定していく。</p> <p>活動の運営については、ゼミナールメンバー各自が主体的に役割を分担し合い、自分たちの立てた計画スケジュールにそって行なっていく。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（各自が主体的に動いていく活動のプロセスを評価する）</p>	

【授業科目名】 ゼミナール	【担当者】 村田 務
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育における健康問題について把握するとともに、改善するための効果的な方法について理解できるようにする。 ・ 健康問題の把握と対策のための研究方法について身につけるようにする。 	
【テキスト・参考書】 テキスト：UTAN驚異の科学シリーズ、今「子ども」が危ない、学研、1992年。 参考書：月刊誌「健」、日本学校保健研修社。 ：保健教材研究会、「授業書」方式による保健の授業、大衆館書店、1987年。 ：内山 源編著、調査研究のまとめ方と発表の仕方、ぎょうせい、1988年。他	
授 業 計 画	
<p>今日、子どもには、どのような健康問題があるのか、また、子どもの健康を守り育てるために、保育者は、どのような働きかけが必要であり、効果的であるのか、について学ぶ。</p> <p>まず、保育における子どもと保育者の健康問題について、文献の講読を中心に整理する。次に、子どもへの働きかけの一つである保健指導について、保健教材や保健指導の実践事例を分析したり検討しながら学ぶ。最後に、興味ある健康問題を取り上げて教材をつくり、実際に保健指導を行い、その効果を確認する。学習の進捗、或いは学生の興味の状況によっては、特定の健康問題について調査研究を行い、その状況や心理社会的背景について深めることもある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、健康教育学ゼミで学ぶこと 2、保育者の健康問題 ：腰痛、ストレスなど 3、子どもの健康問題 ：アレルギー、肥満、小児成人病、ストレスなど 4、健康教育とは ：保健教材や保健指導実践の分析・検討 5、健康教育学研究の方法：仮説設定、資料収集、分析、実証、理論構築など 4、健康教育学研究の事例：文献研究、調査研究、指導実践研究など 6、グループ研究の計画 ：主に文献研究（テーマ、方法、結果、考察など） 7、グループ研究 8、全体研究の計画 ：①指導実践研究、又は②調査研究 ①教材づくり、授業実施、評価など ②調査項目設定、調査実施、分析、結論など 9、全体研究 10、ゼミ研究の発表 	
【評価方法】 平常試験（レポート、平常点）	

【授業科目名】 ゼミナール	【担当者】 八木 絃一郎
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>このゼミナールは、保育者になろうとする学生自身と子どもの表現を豊かに育てることを考察するために、方法として造形的工作を前面にだした人形劇活動を通して研究する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「想像力の発達」内田伸子／サイエンス社</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>■前期 （1年間を通して、分析資料用としてゼミ活動の記録、定期的アンケート収集する）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人形劇活動に関する基礎知識の修得 上演見学 先行上演の考察 2. 上演のための制作活動 材料研究 3. 上演 ① 近隣の幼稚園児対象 <p>■後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 再度人形劇上演を目指して考察・制作 5. 上演 ② 近隣の幼稚園：保育園児対象（対象拡大） 6. 上演結果及び表現記録の分析をする。 	
<p>【評価方法】 平常点</p>	

【授業科目名】 ゼミナール	【担当者】 吉川研二
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>自然界には模範解答のない問題が山とある。自然の事物や現象に関心を持ち、自然の意外性や美しさに触れ、発見する楽しさを知り、自らの考えを論理的に展開する姿勢を養う。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：センス・オブ・ワンダー レイチェル・カーソン著 佑学社 他</p>	
授 業 計 画	
<p>科学の発展は技術の進歩を生み、社会を変え、私たちの生活環境も変えていきます。様々な技術のお陰で多くの知識を得る事もできます。生活は豊かで便利になりました。同時にこの事は私たちの思考形態や行動に大きな影響を及ぼします。情報の氾濫は好奇心を失わせ、疑い、考える習慣を失わせることにもなりかねません。面倒な仕事は機械まかせで、手を使い、体を使う工夫が失われていきます。</p> <p>自然からの疎外は進行し、自然と共に生きていく中で培われてきた感性、物事を深く見つめる洞察力、自然に対する畏怖感、こういったものが退化していきます。自然が延々と相続してきた財産の価値は、頭だけで解るものではなく、感性と一体となって初めて真の理解ができるのです。自然の存在を意識し、自然に対して謙虚で、かつ感性豊かに接する事のできる人がひとりでも多くなるよう努めています。</p> <p>授業では自然の事物や現象に関わる観察や研究、あるいは自然教育・環境教育などに関係する調査や活動をします。共同あるいは個々のテーマは授業を進めながら決めていきます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート 学年末口頭発表 ほか</p>	

【授業科目名】	ゼミナール	【担当者】	若松 美恵子
【開講期】	2年前期・2年後期		
【授業目標】	<p>幼児の身体表現やリズムカルな身体活動について文献の精読、レポートを書く、報告、討論、研究の方法の習得等により理解を深め、さらに、子どもと共に動き、楽しめる保育者になることをめざす。</p>		
【テキスト・参考書】	<p>若松美恵子 「動きのリズム指導の現状と問題点」舞踊学第2号、舞踊学会 板野平 「みんなでやろうリトミック」ひかりの国株式会社</p>		
授 業 計 画			
<p>前期は文献講読により、手あそび、フォークダンス、リトミック、身体表現について基礎知識を習得する。また、ビデオ、実習、文献等からこれらの実技についても調べ、実際に指導形式で動き、習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①幼児教育における身体表現、リズムカルな身体活動の現状と問題点（文献） ②教育内容の紹介（文献、ビデオ） ③歴史、教育的意義、教育内容と発達段階（文献） ④幼稚園実習で見た現状報告 ⑤教育内容の動きの紹介と習得（文献、実技） <p>後期は前期で学んだ基礎知識の上に、学生自身の興味、関心、疑問等から研究テーマを見出し、ゼミナール発表会へと研究を進める。</p> <p>過去の研究テーマ</p> <p>4歳児、5歳児の身体表現の指導 幼稚園、保育園における手あそび、フォークダンスの指導</p>			
【評価方法】	ゼミナールの全ての活動を通して評価する。		

【授業科目名】 幼稚園実習	【担当者】 岡本富郎・若松美恵子他
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>3週間の実習で、幼稚園教育に参加し、実際に指導計画案を立てて、指導の実際を体験する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 《幼稚園保育園実習の指導計画案はこうして立てよう》 萌文書林</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>2年生の実習は「参加・指導実習」の段階の実習である。 この実習で、幼稚園教育に参加し、自分で1日ないし2日間の仮の担任になって指導実習を体験する。</p> <p>(2年次) 参加・指導実習のテーマ</p> <p>1 周目・保育計画の流れと関係させて指導を理解する ・子どもの遊び場を主に観察する</p> <p>2 周目・指導に部分参加(指導計画案の作成) ・子どもの遊びや活動を、発達・生活・保育内容との関わりで理解する</p> <p>3 周目・子どもと園生活全体を見通す総合的理解と全日指導</p> <p>特に「指導計画」を立案しなければならないので、そのためのオリエンテーションを特別に設ける。</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】 実習指導（保育所実習Ⅱ）	【担当者】 鈴木佐喜子・吉川研二 ほか保育科全教員
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>事前指導として、実習の目的・意義・テーマ、保育所における子どもの活動と指導計画、指導法、指導案の立て方などについて学ぶ。実習後、実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成などを行い、実習日誌などの評価指導を受ける。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携</p>	
授 業 計 画	
<p>今年度の実習指導は以下の予定で実施するが、一部内容が変わる場合もある。</p> <p>《実習前》</p> <p>I. 講義 「保育所実習Ⅱ」のすすめ方と実習日誌の書き方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育所実習Ⅱ」の目標と内容 <ol style="list-style-type: none"> 子どもの活動と保育者の指導法について学ぶ <ol style="list-style-type: none"> 1) 子供に馴染み、その遊び、生活を体験しながら学ぶ。 2) 保育者の指導内容・方法について学ぶ。 3) 保育計画案を作成して指導実習を行う。 2. 指導案・指導法 <p>指導実習を通して指導案の立て方・指導法について学ぶ。 幼児の指導案・指導法は「幼稚園実習」・「保育計画法」でも学ぶ。 乳児の生活に関わる部分の講義は「乳児保育」・「小児栄養実習」などで扱う。</p> 3. 実習日誌の書き方 <p>II. 講義 保育における子どもの遊びと指導計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3歳以上児の遊び指導の方法 2. 3歳未満児の遊び指導の方法 <p>III. 講義 保育所における遊び指導の実際</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育環境の設定 2. 年齢別の遊びの実際 <p>IV. 実習日誌の提出・点検・指導</p> <p>実習 9月18日（月）～9月29日（金） 10日間</p> <p>《実習後》</p> <p>V. 実習を振り返って（反省会） 各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成をゼミ単位で実施。</p> <p>VI. 実習日誌の提出・点検・指導 個別面接</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点</p>	

【授業科目名】 保育所実習Ⅱ	【担当者】 鈴木佐喜子・吉川研二 ほか保育科全教員
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>1年次の「保育所実習Ⅰ」の学習を土台に、乳幼児の生活、遊びなどに関するより高度な観察、理解を進めるとともに、保育者の子どもへの対応、指導課程、指導法などに学び、指導案をたてて実習を行う。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携 参考資料として各園から出されている施設要覧・入園のしおり・園便りなど</p>	
授 業 計 画	
<p>2年次の「保育所実習Ⅱ」は「施設実習Ⅱ」との選択必修科目である。</p> <p>「保育所実習Ⅱ」は1年次の「保育所実習Ⅰ」に継続し、原則として同じ園で行う。</p> <p>今年度は9月18日（月）から9月29日（金）の10日間行われる。</p> <p>1年次の「保育所実習Ⅰ」、1・2年次の「幼稚園実習」を終え、「保育所実習Ⅱ」では、保育に助手的な立場で参加する中で、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育への理解をさらに深めるとともに、 2) 配属クラスでの指導の実際と方法を学び、 3) 実習期間の後半を中心に、指導案を立て指導実習を行う。 <p>指導実習は配属クラスの子どもの年齢や実習園の実情に応じて実施する。</p> <p>なお実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会がある。</p>	
<p>【評価方法】 学内オリ「実習指導」への出席／受講 実習日誌の記録 実習中の出欠席 学内反省会 などを総合して評価</p>	

【授業科目名】 実習指導（施設実習Ⅰ）	【担当者】都留民子・小松 歩
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>養護施設、精神薄弱児施設など各種児童福祉施設（保育所を除く）での保育実習は保母資格取得のための必須科目である。事前指導では、養護系・障害系に大別して基本的事項や、各施設別の指導・現状・課題等について学ぶ。実習では児童や職員との人間的なふれあいの中で施設養護の実際を知る。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携</p> <p>参 考 書：授業のなかで紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>養護施設や精神薄弱児施設など保育所以外の児童福祉施設には、さまざまな環境・立場の児童や障害児・者が生活している。そこでの実習は、単に保母資格取得の必修科目であるというだけでなく、保育者をめざす諸君の人間観、児童観、児童養護観、保育者像を検証し、確立していくことの第一歩となる。なお、施設保母をめざす者には選択実習（施設実習Ⅱ）も用意されている（8月中旬10日間）。</p> <p>今年度の実習指導は、以下のスケジュールで実施の予定である。</p> <p>《事前指導》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合オリエンテーション <p>養護系と障害系にわけ、種々の施設に関する基本的事項を概説する。</p> <p>また、次のような課題を課す。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①実習先施設に関する基本的文献（指示する）の読後感想文。 ②福祉六法や実習指導室の資料を用い、各自の実習先施設についてその概要を調べる。 ③自らの実習課題と抱負を明らかにする。 2. 制度オリエンテーション <p>障害系施設では、障害者の権利保障に至る過程とその体系について概説し、障害児・者福祉の独自の役割を学ぶ。養護系施設では、養護問題の推移、家庭養護に欠ける児童の権利保障の体系を学ぶ。そのうえで、福祉制度における養護施設や精神薄弱児施設など各種施設独自の役割について学ぶ。</p> 3. 処遇オリエンテーション <p>施設における生活の実際や、養護児童、障害児・者の特徴（症状・行動特徴・具体的注意点など）、指導の現状と課題などについて、現場の方に直接説明していただく。</p> <p>《実習期間》</p> <p>（8/14～24：標準10日間）</p> <p>《事後指導》</p> <p>反省会</p> <p>各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成を各ゼミ単位で実施。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点</p>	

【授業科目名】 実習指導（施設実習Ⅱ）	【担当者】 都留民子・小松 歩
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>養護施設、精神薄弱児施設など各種児童福祉施設（保育所を除く）での養育についてさらに深く学びたい者のために、選択必修科目の実習として用意されている。施設実習Ⅰを踏まえ、養護に関する基本的事項や、各施設別の指導・現状・課題等について、さらに深く学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携</p> <p>参考書：授業のなかで紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>施設実習Ⅱは、基本的には施設保母としての就職を希望する者のために開講されている。実習の意義・方法は施設実習Ⅰと変わるところはないが、施設実習Ⅰで行なった種類以外の児童福祉施設で実習することになる。施設実習Ⅰ・Ⅱの両方で、養護系と障害系（収容または通園）の2種類の実習が望ましい。実習時期は、2年次の8月の間に随時実施する。希望者は担当教員に早めに相談されたい。</p> <p>今年度の実習指導は、以下のスケジュールで実施の予定である。</p> <p>《事前指導》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合オリエンテーション 養護系と障害系にわけ、種々の施設に関する基本的事項を概説する。 また、次のような課題を課す。 <ol style="list-style-type: none"> ①実習先施設に関する基本的文献（指示する）の読後感想文。 ②福祉六法や実習指導室の資料を用い、各自の実習先施設についてその概要を調べる。 ③自らの実習課題と抱負を明らかにする。 2. 制度オリエンテーション 障害系施設では、障害者の権利保障に至る過程とその体系について概説し、障害児・者福祉の独自の役割を学ぶ。養護系施設では、養護問題の推移、家庭養護に欠ける児童の権利保障の体系を学ぶ。そのうえで、福祉制度における養護施設や精神薄弱児施設など各種施設独自の役割について学ぶ。 3. 処遇オリエンテーション 施設における生活の実際や、養護児童、障害児・者の特徴（症状・行動特徴・具体的注意点など）、指導の現状と課題などについて、現場の方に直接説明していただく。 <p>《実習期間》 （8/14～24：標準10日間）</p> <p>《事後指導》 反省会 各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成を各ゼミ単位で実施。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点</p>	

学籍番号・

氏名・

〒187 東京都小平市小川町1-830
教務課0423(46)5619